

借主双方協議ノ上決定ス

六、建物、水道、道路及一切ノ公用地ハ借地料ヲ要セス

七、借地總面積ハ五百天地ト限定シタルモ十ヶ年ヲ兩期ニ

區分シ五年後ニ至リ貸主ハ借地料ノ増減ニ付借主ト協

議スヘシ

八、水道ノ料金ハ水道使用地ノ天地數ニ應シ毎年一天地ニ

付畠三石ヲ納入スルコトトス

九、地稅、警團、學費及水利一切ノ官公稅金ハ毎年貸主ノ

負擔トス

十、水田五百天地以内ニ於テ一年後借地人ハ借地ノ增加ヲ

許サレ收穫ノ際經理人ハ其ノ借地面積ニ應シ料金ヲ徵

收ス（以下略ス）

右何等御参考迄此段報告ス

追テ客月十七日附機密公第一二〇號拙信報告ノ當地ニ於ケル失業者八十二戸中約五十戸ハ右三姓堡農場ニ移住セシメシムル豫定ニテ其他ハ奉天及當地附近農場ニ移住セシメ悉ク生活ノ途ヲ樹テ得ル様取計フコトシタルニ付右ニ御了知相成度此段爲念申添フ

本信寫送付先 代理公使 奉天 吉林 哈爾賓 間島

居ル關係上直チニ同縣長ニ對シ右密令ノ趣旨ヲ移牒シタル趣ナリ

客月七日附機密公第一四八號拙信ヲ以テ報告ノ次第アリタル通り長春縣三姓堡ニ移住シタル鮮農ハ目下四十三戸二百十名ノ多數ニ達シタル處最近所屬萬寶山公安分局ヨリ壓迫ヲ受ケ始メタリト訴ヘアリ且下對策ニ付折角考慮中ナル折柄前記密電ノ次第アリ右ノ結果各地ニ鮮農壓迫問題抬頭シ紛争ヲ惹起スルニアラスヤト縣念セラル右何等御參考一應報告ス

本信寫送付先

臨時代理公使 北平 奉天 吉林 哈爾賓 間島

農安

朝鮮總督 關東長官

昭和6年5月28日 在長春田代領事より
幣原外務大臣宛（電報）

中國巡警三姓堡において水路工事中の朝鮮人

を拘禁・殴打について

朝鮮總督
關東長官

168

昭和6年5月8日 在長春田代領事より
幣原外務大臣宛

吉林省政府が朝鮮人の新規居住禁止密令を長

春市政籌備處長に通達について

機密第一九三號

昭和六年五月八日 在長春

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

吉林省府ノ朝鮮人壓迫密令ニ關スル件

五月六日吉林省府ヨリ

「朝鮮人ハ各地ニ於テ紛擾ヲ誘發シ易キ傾向アルヲ以テ從來ヨリ居住スル者モ適宜ノ手段ヲ講シテ退境セシムルト共ニ新移住者ニ對シテハ絶対ニ居住ヲ許スヘカラス」トノ密電ニ接シタル處周籌備處長ハ農安縣下ニ少數ノ鮮農居住シ電ニ接シタル處周籌備處長ハ農安縣下ニ少數ノ鮮農居住シ

長春 5月28日後発
本省 5月29日前着

第二四號（暗）

中國官憲ノ三姓堡農場壓迫問題ニ關シテハ機密第一九三號拙信後段ノ通ナル處二十五日地方公安局巡警ハ水路開鑿中ノ鮮人監督ヲ拘禁シ竝ニ鮮農二名ヲ毆打重傷ヲ與ヘタリトノ急報ニ接シタルヲ以テ本官ハ直ニ市政籌備處ニ（被）拘禁者ノ釋放竝ニ暴行官憲ノ制止方ヲ交渉スルト共ニ翌二十六日土屋書記生並警察官四名ヲ現場ニ急派シ實情ヲ調査セシメタル處土屋歸來後ノ報告ニ依レハ該農場ハ水路一邦里半ニ亘リ今後一週間ニテ完成ノ見込ニテ既ニ投資シタル金額三千圓ニ上リ居ル處中國官憲ハ地主一名家主三名ヲ拘禁シ其家族ヲシテ間接ニ鮮人ヲ退去セシメントスル策ナルカ如キモ所轄公安局長ハ鮮人壓迫ノ意ナク地主等ヲ拘禁シタルハ官憲ニ對スル手續ニ手違アルカ爲ナリト言明シ居リ又一部部落民ノ反對運動アルモコハ自己ノ耕作地ニ浸水スルヲ恐レテノコトナリ前述ノ通鮮農等ハ既ニ多額ノ資金ヲ投シ水路モ近ク完成ノ見込ナルヲ以テ本官ハ極力本件農場經營ノ目的ヲ達成セシムル方針ニテ中國側トノ折衝ニ機宜ノ

措置ヲ講スル所存ナリ

尙冒頭記載巡警ノ暴行ハ當該地方公安局員ナラサリシ爲眞意奈邊ニ在リシヤ判明セサルモ拘禁サレタル鮮人監督ハ其夜ノ中ニ釋放セラレ毆打サレタル鮮人ハ一名ニシテ銃床ヲ以テ胸部ヲ強打セラレタルモ生命ニ別状ナキ模様ナリ
代理公使、奉天、關東長官ヘ轉電シ北平、吉林、哈爾賓、間島、農安、朝鮮總督ヘ暗送セリ

170 昭和6年6月3日 在長春田代領事より
幣原外務大臣宛（電報）

本件紛擾の背景ならび中國側官憲による朝鮮人農民十名の長春連行について

長春 6月3日後発
本省 6月3日後着

第二五號（暗）

往電第二四號ニ關シ
其後モ引續キ交渉中ナル處本件ノ最モ難關トスル點ハ鮮人對地主間ノ契約ニ缺陷アリ水路用地ニハ契約未了ノ地域スラアリシ爲地主側ノ反感ヲ買ヒ加フルニ附近部落民モ浸

右警察官ノ派遣ニ付テハ縣長ヲシテ所轄公安局ニ對シ誤解ナキ様通達方取計ハシメ置キタリ

代理公使、奉天、關東長官、吉林ニ轉電シ北平、哈爾賓、間島、農安、朝鮮總督ヘ暗送セリ

171 昭和6年6月3日 在長春田代領事より
幣原外務大臣宛（電報）

中國側馬隊派遣に關し長春縣長に抗議、円満

解決方申し入れについて吉林總領事宛報告

長春 6月3日後発
本省 6月3日後着

編注「二」の箇所に「？」との書き込みあり。

第六號
第二五號（暗）
本官發吉林宛電報

本官發大臣宛電報第二四號ニ關シ

中國側ハ本三日馬隊五十歩隊八十ヲ現場ニ派遣シタルコトヲ探知シタルニ付本官ハ即刻長春縣長ヲ訪問シ其目的ヲ質

問スルト共ニ圓滿解決方ヲ建議シタル處同縣長ハ鮮農ノ水

路工事ヲ阻止スルコトハ我方農民保護上已ムヲ得サル次第

ニシテ鮮農力飽迄踏止マルニ於テハ再ヒ强行手段ヲ以テ退

去セシムルヲ要スト指揮者ニ言ヒ含メ置キタルカ右ハ省政

府ノ命ニ依ルモノナリトテ態度極メテ强硬ナリ我方ヨリハ

前電ノ通警部以下五名ノ警察官ヲ派遣シ圓滿解決ノ途ヲ講シツツアル折柄ナルニモ拘ラス強力ヲ以テ即時解決ヲ計ラ

水ヲ懸念シ居ル關係上之ニ雷同シ紛擾漸次擴大シツツアルコトナリ然ルニ鮮農ハ依然水路工事ヲ繼續シ居ルニ付地方農民等ハ地方官憲ノ保護手緩シトナン省政府ニ向テ歎願シタルヲ以テ同政府ハ長春縣長ニ之力保護方ヲ電命シタルニ付縣長トシテモ其儘放置スル事能ハス卅日突然約二百ノ巡警及馬隊ヲ派遣シ鮮人ニ對シ工事中止ヲ勸告セシメタルモ聽入レサリンニ付一日首領株十名ヲ強制的ニ長春ニ連戻リタルカ二日縣長ハ本官ヲ訪問シ地方農民ノ感情鎮壓ノ手段トシテ又省政府ニ對スル面目上已ムヲ得ス強制手段ヲ執ルニ至リタル自己ノ立場ヲ辨明シ押送者ハ籌備處ヲ經テ當館ニ引渡スヘキ旨ヲ述ヘ引取りタル處現場ニハ未タニ相當數巡警留マリ居ル趣ナル上播種期ヲ失スル虞モアルヲ以テ同日警部一名巡查五名ヲ現場ニ派遣シ鮮農保護、中國出先官憲トノ聯絡竝ニ當面ノ問題タル地方民對鮮人間ノ調停ニ當ラシムルコトニ取計タリ

右警察官ノ派遣ニ付テハ縣長ヲシテ所轄公安局ニ對シ誤解ナキ様通達方取計ハシメ置キタリ

代理公使、奉天、關東長官、吉林ニ轉電シ北平、哈爾賓、間島、農安、朝鮮總督ヘ暗送セリ

172 昭和6年6月4日 在長春田代領事より
幣原外務大臣宛（電報）

中國側の強硬態度に對抗のため警察官増援に

つき請訓

長春 6月4日前発
本省 6月4日後着

往電第二五號ニ關シ

三姓堡農場ニ對スル中國官憲ノ壓迫ハ益々露骨化シタルニ付本官ハ出來得ル限り圓滿ナル解決ヲ講スヘク其後引續キ

長春縣長並市政籌備處長ニ面會シ鮮農並ニ地主農民間双方

ノ利益トナルヘキ緩和條件等ヲ提議シ事理ヲ盡シテ百方懇談ヲ進メタルモ縣長並市政籌備處長共ニ協調的態度ナク公然強制手段ニ訴ヘテモ鮮農ヲ退去セシムヘシト主張シ當地ニ於ケル差當リノ平和的解決ハ到底見込ナキコトトナリタリ又本官發吉林總領事宛第六號ヲ以テ依頼シ置キタル省政府ヨリ長春縣長ニ對スル命令モ急速ニ當方ノ満足スルカ如キ好結果?ヲ得ルコトハ困難ナルヘキコト想像ニ難カラサル處當地中國官憲ノ方針既ニ前述ノ通明白ナル上ハ一昨二日派遣シタル警察官六名ノ出張ノ目的不成功ニ終ルヘキハ當然ナルノミナラス本日中國側ヨリ派遣シタル出動部隊百三十名(其他現場ニ約五十名アリトノ情報アリ)トモ自然對峙ノ狀態ニ陥リ此儘ニ放任シ置クトキハ我警察官ノ威信ニモ關スル事故ノ發生ナキヲ保シ難キニ付テハ此際鮮農現儀ナクセラレタル鮮農ニ對スル善後策ヲ別ニ講スルコト地保護ノ方針ヲ拠棄シ直ニ派遣員ヲ撤退シ其結果立退ヲ餘スルカ或ハ之迄ノ行懸上中國側ノ反省ヲ喚起セシムル手段トシテ水路工事ノ完成迄此上警察官ヲ増援シ先方ノ實力阻止ニ對抗シ我方ノ威力ヲ示スコトスルカノ外手段ナシト思考セラル右ハ固ヨリ本官ノ本意ニハアラサルモ中國側ノ

東廳トモ御打合セノ上至急何分ノ儀御電訓ヲ請フ支、奉天、吉林、關東長官、朝鮮總督ヘ轉電シ北平、哈爾賓、間島、農安ヘ暗送セリ

編注 「此」の箇所に「?」との書き込みあり。

173 昭和6年6月4日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

張作相が日中軍警の同時撤退に同意表明の旨

長春領事に通報

奉天 6月4日後発
本省 6月4日後着

⁽¹⁾第三四一號(暗)
本官發長春宛電報

第九號ノ一

貴官發大臣宛電報第二五號及吉林宛電報第六號ニ關シ四日森岡ヲシテ張作相ニ會見セシメ長春縣公署ノ承認ヲ經タル契約ニ基キ正當ニ土地開墾ニ從事セル鮮人ニ對シ枝葉

撒回方電命アリタク我方派遣警官六名モ同時ニ引揚ケ差支ナキ旨重ネテ嚴重要求シタルニ作相ハ爭議ハ地方的ニ平和ニ依リ交渉解決方即時長春縣長及吉林省長公署ニ電訓アリタシト申入レシメタル處作相ハ此種事件ハ地方的ニ交渉解決ヲ計ルヘキ性質モノニシテ自分ハ未タ本件ニ關シ何等ノ報告ニ接シ居ラスニ軍隊ノ出動ハ上官ノ命令ヲ要スル次第モアリ斯ル事實ハアリ得スト思ハルモ一應事實ノ調査ヲ吉林及長春宛電報照會スヘシト答ヘタルニ付更ニ森岡ヨリ地方的ニ解決可能ナラハ敢テ閣下ノ御盡力ヲ俟タス且假リニ貴方ニ報告ナシトスルモ我方ニハ昨夜來頻々長春ヨリ情報アリテ現地解決至難トナリタルト共ニ軍警約二百名長春ヨリ出動ノ事實ハ間違ナク

本官發長春宛電報

第九號ノ二

形勢頗ル逼迫シ在留民ノ興奮モ甚シク此儘中國軍警居据ハ

ルニ於テハ或ハ對抗手段トシテ我方駐屯軍出動說起リ領事

トシテモ之ヲ阻止スル力ナキニ至ルヤモ計リ難クスケテハ

事態重大化シ收拾スヘカラサルニ至ルヘキヲ以テ事件ノ眞相調査云々等悠々ト構フヘキ秋ニ非サレハ即時出動軍警ノ

態度ニ照シ已ムヲ得サル次第ナリ事態モ急迫シタル折柄關東廳トモ御打合セノ上至急何分ノ儀御電訓ヲ請フ支、奉天、吉林、關東長官、朝鮮總督ヘ轉電シ北平、哈爾賓、間島、農安ヘ暗送セリ

174 昭和6年6月4日 在長春田代領事より
幣原外務大臣宛(電報)

第三四一號(暗)
本官發長春宛電報

第九號ノ一

貴官發大臣宛電報第二五號及吉林宛電報第六號ニ關シ四日森岡ヲシテ張作相ニ會見セシメ長春縣公署ノ承認ヲ經タル契約ニ基キ正當ニ土地開墾ニ從事セル鮮人ニ對シ枝葉

撒回方電命アリタク我方派遣警官六名モ同時ニ引揚ケ差支ナキ旨重ネテ嚴重要求シタルニ作相ハ爭議ハ地方的ニ平和ニ依リ交渉解決方即時長春縣長及吉林省長公署ニ電訓アリタシト申入レシメタル處作相ハ此種事件ハ地方的ニ交渉解決解決ヲ計ルヘキモノニシテ此際自分ヨリ彼之指圖シ難キモ日支軍警衝突防止方ニ付テハ十分盡力スヘク依テ吉林ヘハ電信ヲ以テ事件ノ調査ヲ命シ長春縣長ヘハ電話ヲ以テ事情ヲ問合スト共ニ即時出動軍警ノ撒回ヲ命スヘキニ付日本側ニ於テモ同時ニ警官引揚方取計ハレタシト答ヘタリ右ノ次第二付貴官ヨリ即時縣長ニ御會見ノ上前記ノ事情ヲ告ヶテ支那側軍警撒回方然ルヘク御取計アリタシ代理公使、北平、外務大臣、南京、吉林、哈爾賓、關東廳ニ轉電シ間島、農安、朝鮮總督ヘ暗送セリ

第二七號(暗)
往電第二六號ニ關シ

現場ニ於ケル我警察官ノ消息氣遣ハルルニ付聯絡ノ意味ヲ以テ四日更ニ五名ノ警察官ニ聯隊ヨリ借入レタル傳書鳩六羽ヲ携行セシメ急派セリ

代理公使、奉天、吉林、關東長官、朝鮮總督へ轉電シ北平、哈爾賓、間島、農安へ暗送セリ

ヲシテ農安ニ轉報セシメラレ度

代理公使、南京、朝鮮總督ニ轉電セリ

施主任に省政府より長春県長に問題の平和的解

決を至急訓令發出申入れについて長春領事宛通達
吉 林 6月5日前發着

175 昭和6年6月5日 帽原外務大臣より
在奉天林總領事宛（電報）

張作相を鞭撻の上本問題の円満解決方に尽力
ありたき旨訓令

本 省 6月5日発

第一二六號（暗）

在長春領事發本大臣宛電報第二六號ニ關シ

貴電第三四一號末段張作相ノ手配ニ依リ既ニ現地ニ於ケル双方出動軍警モ撤退シ双方官憲間ニ本件ノ平和的解決ニ付交渉開始セラレ居ルコトト察セラル處今後モ現地ノ事態ヲ注視セラレ右貴電ノ方針ニ依リ此上トモ張作相ヲ鞭撻セラレ本件ノ圓滿解決ヲ見ル様盡力アリ度

長春、吉林、哈爾賓、關東長官、北平、間島ニ轉電シ長春

176 昭和6年6月5日 在吉林石射總領事より

帽原外務大臣宛（電報）

施主任に省政府より長春県長に問題の平和的解

決を至急訓令發出申入れについて長春領事宛通達
吉 林 6月5日前發着

本官發長春宛電報

本 省 6月5日後着

第三一號（暗）

貴電第六號ニ關シ

本四日主席代理熙參謀長トハ先方ノ都合ニテ會見出來サリシヲ以テ午後不取敢施主任ニ會見シ強力ヲ以テ鮮農ノ追出シヲ實行スルハ穩カナラサルニ付馬隊及歩隊ヲ撤回シ問題ヲ平和的ニ解決スル様省政府ヨリ縣知事ニ至急電訓方申入レタルニ施ハ鮮人ノ集團ハ地方民之ヲ嫌ヒ且取締困難ナルヲ以テ同地ニ入込メル鮮人ヲ退去セシムルコトニ付省政府

ヨリ縣知事ニ命令アリタルハ事實ナリト思考スルモ强硬手段ニ訴ヘ問題ヲ起スコトハ省政府ノ意思ニ非サルヘキニ付

御申出テノ通り取計ヒ方早速省政府ト相談スヘク結果ハ後

カラ御通知スヘシ但シ右ハ强硬手段ヲ避クル爲ノ措置ニシ

テ鮮人ノ居据リヲ承認スルモノニアラス省政府ハ鮮人退去

ニ關スル方針ヲ曲ケサルヘシト言ヘルニ付右ハ鮮農ノ生活

ヲ覆ヘスモノニ付當方ニテハ承服出來サルコトナルカ地方

民等ノ苦情ヲ除去スル方法ニ付テハ考量ノ餘地アルヘク何

レニセヨ平和的解決ニ俟ツ旨ヲ申入レ置キタリ尙施主任ハ

日本側警察官力武裝シ居ルヤ否ヤヲ問ヒ支那側ニテ馬隊等

ヲ引揚ケル以上日本側ノ警察官モ引揚ケテ貴ヒタント言ヘ

ルニ付武裝力否カ知ラサルモ拳銃ハ携帶シ居ルヘシ支那側

カ直接行動及暴行ヲ一切爲サスト言フナラハ日本側モ警察

官ヲ引揚クヘク其旨田代領事ニ傳ヘ置クヘシト答ヘ置ケリ

右不取敢農安ヘ轉電アリタン

外務大臣、代理公使、奉天、關東長官、北平、哈爾賓、間

島、朝鮮總督へ轉電セリ

177 昭和6年6月5日 在長春田代領事より
帽原外務大臣宛（電報）

張作相による事件の円満解決命令要請に關し

長春県長との会談について

長 春 6月5日前發着

本 省 6月5日後着

第二八號（暗）

四⁽¹⁾日午後奉天發本官宛電報第九號ニ接シタルヲ以テ直ニ縣長ヲ往訪シ貴官ト屢次ノ會見ヲ重ネタルモ現在迄ノ所圓滿ナル解決方法ヲ發見シ得サルハ遺憾ニ堪エス一方現場ニ於ケル事態急迫セル事情アルヲ以テ在奉中ノ張作相主席ニ對シ奉天總領事ヨリ貴方武裝部隊至急撤退方交渉シタルニ張主席ハ貴官ニ對シ右撤退方命スヘキ旨言明アリタル趣ナルカ既ニ右命令ニ接シタルヤヲ尋ねタルニ縣長ハ未タ何等ノ指令ニ接シ居ラサルモ實ハ今朝現場ニ派遣シタル部隊ヨリ日本側警察官ハ領事ノ命令ニ依リ鮮農ヲ保護スルモノナリトテ現場ニ頑張リ居ル爲強ヒテ鮮農ヲ退去セシムルニハ勢ヒ衝突ヲ免レサルヲ以テ如何取計フヘキヤ指示ヲ仰キ來リタルニ依リ一應引揚方命シ置キタリト述ヘタルヲ以テ右ニ

依リ中日官憲衝突ノ急迫セル事態ヲ差當リ緩和シ得タルハ幸ナルモ一方現地部落民ノ反対熱モ漸次昂騰シツアル聞込モアリ

至急何等カノ解決方法ヲ定メサルニ於テハ事態容易ナラサルヘキヲ力説シタルニ縣長ハ歎息ヲ洩シツツ本件ハ法規上不備ノ點アリテ地方法官タル自分トシテハ如何トモスヘカラサル上反対部落民ハ本官保護ノ措置ヲ手緩シト爲シ强硬敦園キ居ル次第ニシテ當然保護スヘキ地方民ト平素親同ノ間柄ナル貴官トノ双方ヨリスク攻メ立テラル苦心モ同情アリタキ旨ヲ傳ヘテ此上ハ張主席ヨリ本件力法規上ノ不備アルトモ貴領事圓滿ナル解決方法ヲ講スヘキ旨ノ命令ヲ待ソヨリ外ナキ旨ヲ述ヘタルヲ以テ張主席力前述ノ通出動部隊ノ撤退方命令ヲ發シタルモ要スルニ圓滿解決ノ趣旨ニ外ナラスト思考セラルニ付至急本官ト協議ノ上本件ノ展開ヲ圖リ當地中日間平素ノ親交狀態ヲ破綻ニ導クコトナキ様努メラレタキ旨述ヘタルモ前言ヲ繰返シテ埒明カサルニ付再會ヲ約シテ一應長時間ノ會見ヲ終リ引取りタリ

支、奉天、吉林、北平、南京、關東長官、朝鮮總督ヘ轉電シ哈爾賓、間島、農安ヘ暗送セリ

ヲ仰キ來リタルヲ以テ當方ニ於テ極力交渉妥結ノ途ヲ講シツツアル旨傳フルト共ニ今後ノ現地ニ於ケル形勢ノ推移ニ依リ此ノ儘堰止メ工事ヲ完了シ得レハ兎ニ角然ラサルニ於テハ少數ノ警察官ヲ以テシテハ徒ラニ犠牲者ヲ出スニ過キサルヲ以テ已ムヲ得ス一時工事ヲ中止セシメ當方ノ指示ヲ俟ツヘキ旨不取敢命シ置キタリ

支、奉天、吉林、關東長官、朝鮮總督ヘ轉電シ北平、哈爾賓、農安ヘ暗送セリ

179 昭和6年6月6日 在長春田代領事より
幣原外務大臣宛（電報）

万宝山問題は日本人東北進出の試金石であり工

事を一気に成就し粘り強く交渉すべき旨意見具申

第三〇號（暗）
長春 6月6日後発
本省 6月6日後着

本六日籌備處外交課長土屋ヲ來訪シ張主席並ニ省政府ヨリ夫々圓滿交渉解決方ノ指令アリタル處鮮人現地居据リハ省政府ノ方針モアリ到底承認シ難キモ問題ノ起リハ鮮人ト地

ルヘキヲ力説シタルニ縣長ハ歎息ヲ洩シツツ本件ハ法規上不備ノ點アリテ地方法官タル自分トシテハ如何トモスヘカラサル上反対部落民ハ本官保護ノ措置ヲ手緩シト爲シ强硬敦園キ居ル次第ニシテ當然保護スヘキ地方民ト平素親同ノ間柄ナル貴官トノ双方ヨリスク攻メ立テラル苦心モ同情アリタキ旨ヲ傳ヘテ此上ハ張主席ヨリ本件力法規上ノ不備アルトモ貴領事圓滿ナル解決方法ヲ講スヘキ旨ノ命令ヲ待ソヨリ外ナキ旨ヲ述ヘタルヲ以テ張主席力前述ノ通出動部隊ノ撤退方命令ヲ發シタルモ要スルニ圓滿解決ノ趣旨ニ外ナラスト思考セラルニ付至急本官ト協議ノ上本件ノ展開ヲ圖リ當地中日間平素ノ親交狀態ヲ破綻ニ導クコトナキ様努メラレタキ旨述ヘタルモ前言ヲ繰返シテ埒明カサルニ付再會ヲ約シテ一應長時間ノ會見ヲ終リ引取りタリ

支、奉天、吉林、北平、南京、關東長官、朝鮮總督ヘ轉電シ哈爾賓、間島、農安ヘ暗送セリ

往電第二八號ニ關シ

現地ニ派遣セラレタル武裝部隊（但シ馬隊五十ノミ）當地ニ引揚ケタル旨今朝情報ニ接シタルヲ以テ現地ニ於ケル中日兩官憲衝突ノ危機ハ稍緩和シ得タルモ昨夜現地派遣ノ警察官ヨリノ報告ニ依レハ水路工事ハ極力鮮人ヲ督勵シテ七日迄ニハ完了スヘキ見込ナルモ伊通河堰止め工事（水路ヘ導クヘキ水ヲ引ク爲）ニ付テハ上流兩岸農民ニ於テ増水季ニ於ケル自己所有地ヘノ浸水ヲ恐レテ强硬ニ反対シ死力ヲ盡シテモ右工事ヲ阻止スヘシトテ形勢極メテ險惡ナルニ付右工事ニ着手スル時ハ反対部落民（相當數ノ銃器ヲ有スル由）暴動化シテ鮮人トノ衝突免レサルヘク少數ノ警察官ヲ以テシテハ到底鎮撫シ難キ形勢ニアルニ付至急何分ノ指示

主トノ間ニ斡旋シタル者ノ詐欺的行爲ニ端ヲ發シ鮮人ハ善意ニ事業ニ着手シタルモノナル事明カトナリタルヲ以テ鮮人ニシテ退去スルニ於テハ本事業ニ要シタル費用ニ付テハ補償ノ方法ヲ講スヘキ籌備處ノ意図ナル旨ヲ述ヘタル趣ナル處最近中國側ノ鮮人壓迫ハ漸次熾烈ヲ極メ三姓堡農場問題ノ成行如何ニ依リテハ將來益々尖銳化スルノ虞アリ旁本件ハ一種ノ試金石シテ滿洲ニ於ケル輿論モ意外ニ硬化シ居リ他方問題ノ發生地ハ當地ヲ去ル僅ニ四邦里内外ノ地點ニシテ日本官憲ノ力ノ及ヒ得ル範圍ニ於ケル邦人ノ正當ナル事業ニ對シテハ飽迄保護スヘキ方針ニテ進ムニ非サレハ邦人ノ滿洲發展ノ退要的傾向ヲ益々助長セシムルノミナリト思考セラルニ付

未タ往電第二六號ニ對シ御回訓ニハ接セサルモ現場ニ於ケル當面ノ措置トシテハ中國側ニシテ飽迄鮮人退去ヲ求ムルニ於テハ本年度種蒔時期ヲ失スルノ虞モアリ勢ヒ工事ヲ一氣呵成ニ成就シテ既成事實ヲ作り粘り強ク交渉ヲ進ムルノ外ナシト存セラル從テ現地派遣ノ警察官モ其目的往電第二五號末段ノ通リニシテ毫モ中國側武裝部隊ニ對抗スルノ意味ニ非ス全ク平和的使命ヲ帶ヒ現ニ護身用ノ拳銃ハ所持シ

居ルモ特ニ私服ニテ且護照ヲ携帶セシメ居レル次第ニシテ此上ハ當方ノ希望スルカ如キ鮮人居据リヲ前提トスル圓満交渉ノ曙光見ヘサルニ於テハ官憲ノ間接壓迫乃至反對部落民ノ工事妨害ヲ考慮シ今直ニ現地ヨリ引揚ケシムル事不可能ナリト存セラル尙當地官憲ニ對スル折衝ハ引續キ行フヘキモ鮮人退去ニ關スル中國側今般ノ方針ニ付テハ省政府ニ對シ嚴重交渉スルノ外ナシト思考セラル

公使、奉天、吉林、哈爾賓、關東長官、朝鮮總督へ轉電シ、北平、間島、農安へ暗送セリ

180 昭和6年6月8日 在奉天林總領事より 币原外務大臣宛（電報）

張作相が孫副官を派し日本側警察隊の殘部引揚げ方要求について

奉天 6月8日後発	本省 6月8日後着
-----------	-----------

第三五一號（暗）

三姓堡農場事件ニ關シテハ長春領事ト充分聯絡ヲ計リ居ルモ詳細ノ事情判明セサル點モアル爲本八日柳井ヲ長春ニ派

リ退去セシムルカ如キハ本官ノ絕對ニ承認シ得サル所ナル旨回答シ置キタリ

支、北平、長春、吉林へ轉電シ朝鮮總督、關東廳長官へ暗送セリ

181 昭和6年6月9日 在長春田代領事より 币原外務大臣宛（電報）

日中双方による共同現地調査に關し警備処と了解成立について

長春 6月9日後着	本省 6月9日後着
-----------	-----------

第三二號（暗）

八日午前籌備處長本官ヲ來訪シ張主席ヨリノ指令モアリ既ニ中國側武裝部隊モ引揚ケタル以上（往電第二九號冒頭馬隊ノ外當地ヨリ派遣ノモノハ其全部引揚ケタリトノ情報アリ）日本警察官モ至急撤退方取計ハレタク尙本件圓滿解決方法トシテ彼我双方ヨリ現地ニ調査班ヲ派シ實狀共同調査ノ上其結果ニ基キ何等カノ解決案ヲ見出シタキ旨申出アリタルニ付假ニ御申出ノ如ク調査班ヲ出スツルモ鮮人退去

シタルニ付御追認相成度尙今朝張作相ハ孫副官ヲ當館ニ派シ今朝迄ニ到達セル報告ニ基ク次第ナリトテ中國側警察隊ハ既ニ現場ヲ引揚ケタルニ拘ラス日本側警官尙残リ居ルニ付至急引揚ケラレタキ旨要求スルト共ニ本件農場經營ハ中國官憲ノ充分ナル許可ナクシテ始メタルモノニシテ其非鮮農側ニアル旨抗議シ來リタルニ依リ本官ハ當館ノ得タル情報ニ依レハ中國側警察隊ハ大部分引揚ケタルモ尙一部残リ居ルニ付我方警官ノ引揚ケヲ見サルモノナリ且我方警官ハ數名ニ過キスシテ何等中國側ト對抗的意味ヲ有スルモノニ非ス此際唯引揚クレハ中國警官カ即時鮮農ヲ退去セシムル虞アル爲監視シ居ルニ過キサレハ作相ニ於テ鮮農ヲ退去セシメサル旨保證ヲ與フルニ於テハ即時引揚クルモ可ナリ又農場經營ノ件ニ付テハ今朝柳井領事ヲ長春ニ派シタルニ付其報告ヲ待チ何分ノ回答ニ及フヘキモ中國側ニ於テハ地方民ノ反對云々ヲ力説シ居ラルカ本件紛擾ハ吉林省人民政府ノ命令ニ基クモノニシテ官憲側ニ於テ地方民反對阻止ノ途ニ出テラルニ於テハ別段大ナル問題トナルコトナカルヘク鮮農ト地主トノ間ニ取極成立スルニ於テハ別段官憲ノ許可等ヲ必要トスル筋合ニ非サルヘシ何レノ途鮮農ヲ同地方ヨリ退去セシムルカ如キハ本官ノ絕對ニ承認シ得サル所ナル旨回答シ置キタリ

支、北平、長春、吉林へ轉電シ朝鮮總督、關東廳長官へ暗送セリ

181 昭和6年6月9日 在長春田代領事より 币原外務大臣宛（電報）

日中双方による共同現地調査に關し警備処と了解成立について

長春 6月9日後着	本省 6月9日後着
-----------	-----------

第三二號（暗）

八日午前籌備處長本官ヲ來訪シ張主席ヨリノ指令モアリ既ニ中國側武裝部隊モ引揚ケタル以上（往電第二九號冒頭馬隊ノ外當地ヨリ派遣ノモノハ其全部引揚ケタリトノ情報アリ）日本警察官モ至急撤退方取計ハレタク尙本件圓滿解決方法トシテ彼我双方ヨリ現地ニ調査班ヲ派シ實狀共同調査ノ上其結果ニ基キ何等カノ解決案ヲ見出シタキ旨申出アリタルニ付假ニ御申出ノ如ク調査班ヲ出スツルモ鮮人退去

右調査班案ニ付當方ノ虞ルルコトハ中國側ニ於テ斯カル手段ニヨリ本年度種播キ時期ヲ經過セシメ事實上鮮農ヲシテ退去ノ止ムナキニ至ラシメントスル魂膽ニ非スマト思考セラル點ニアル處當地官憲ニ於テモ鮮人退去絶對不可能ナリトスル當方ノ決意ヲ漸次感付キタルモノカ當初ノ頑冥ナル見解モ最近和ラキ來レル傾向感知セラレタルニ依リ本日午後籌備處ヲ往訪シ（當方根本ノ方針ハ鮮人ヲシテ現地ニ於ケル事業ヲ遂行セシムルコトナル點ヲ重ネテ念ヲ押スト共ニ）當方警察官ノ使命ヲ說キ中國側武裝部隊引揚ノ有無

ニ依リ撤退スヘキ筋合ニ非サレトモ圓滿解決ノ爲必要トア

ラハ此際調査班ノ現地到着ト共ニ一時撤退スルモ事態ニ依

リテハ更ニ派遣スヘキ旨駄目ヲ押シ

(3) 共同調査ノ目的廣汎ニ亘ルト打合ハ徒ラニ時日ヲ費スノ

ミナルヲ以テ堰止工事ニ依リテ生スル虞アル現實且直接ノ

損害(當方調査ニ依レハ約三五反歩)ヲ調査シ且中國官憲

側ニ於テ反對地主乃至部落民ノ說得ニ勉メ(右說得ノ間ニ

ハ圓滿解決ニ至ル迄堰止工事ニ取掛ラシメサルコトスル

モ工事ノ中止ニ本年種蒔時期ヲ失セサル建前ノ下ニ最短ノ

期間トシ尙中止期間中ハ中國側ニ於テ責任ヲ以テ鮮人ノ生

命財產及既成耕作物ノ保護ノ任ニ當ルコトニ大体話合ヲ遂

ケ調査班^(班)トシテ當方ヨリ土屋及中川警部(現地ニ派遣シタ

ル警部ニシテ八日打合セノ爲當地ニ呼戻セリ)竝支那土地

ニ關スル智識ニ富メル當地地方事務所員一名ヲ明九日早朝

現地ニ派遣シ更ニ現地ニ於テ警察官二名ヲ之ニ附スルコト

トン中國側ヨリモ外交科長外我方ト同數ノ人員ヲ派スルコ

トトナレリ

支、奉天、吉林、關東長官、朝鮮總督ヘ轉電シ北平、哈爾

賓、間島農安^(送次)ヘ暗セリ

編注 本分割電報には、六月八日後發と記されている。

182 昭和6年6月9日 在吉林石射總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

施履本は現地よりの日本警察官の撤退に固執

なんらかの対策につき長春領事へ意見問合せ

吉林 6月9日後發

本省 6月10日前着

第三五號(暗)

本官發長春宛電報第八號

貴官發外務大臣宛電報第三〇號ニ關シ

八日施履本ヲ往訪シ支那兵隊ノ殘留及部落民暴行ノ氣配アルニ依リ我方警察官ノ引揚不可能ナル旨ヲ説明シ支那側警察及地方民共ニ鮮農ニ對シ絶對ニ直接行動ヲ爲ササルコトヲ保證シ萬一事故發生シタル時全責任ヲ負ハルヤト問ヒタルニ施ハ其點ハ自分限リニテ保證ハ出來サルモ長春領事ヨリ市政籌備處長ニ交渉ノ上日本警察官ヲ引揚ラル様セラレタシト中出タリ尙先日貴官ヨリノ電話ニ依レハ今回ノ鮮農追出シハ吉林省稻田水利章程ナルモノニ基クヤノ話ナ

リシ處右章程ニ關シテハ一昨年末當館ヨリ抗議シタル結果當時鍾交渉員ハ右章程中問題タル第八條ハ水田ノ所有者ハ中國人ニ限ルノ意味ニテ借地耕作等ニ至シテハ所有者ノ自由意思ニ屬シ本條ト關係無シトノ解釋ヲ公信ヲ^(班)發テ當館ニ回答シ越シタル經緯アリテ今更先方ハ我方ニ對シ右章程ヲ云々シ能ハサルモノナルニ付右様御承知アリタク本官ハ施ノ今回ノ鮮農追出シハ右規則ニ基クモノナリヤト尋ねタルニ施モ當館ヘノ前記回答ノ次第ヲ承知シ居ル爲明答ヲ避ケテ省政府ノ命令ハ昨年六月朝鮮共匪ノ横行甚シクナリタルニ鑑ミ取締ノ必要上新移入鮮人ノ水田經營ヲ許可セサル様省內一般ニ下シタルモノナリト答ヘタルニ付本官ハ三姓堡ヘ入耕ノ鮮農中ニ共產匪アルヘシトモ思ハレス又入耕後充分取締サヘスレハ共匪ハ防ケル筈ニテ尙部落民ノ苦情等ハ之ヲ慰スル方法モアルヘキヲ以テ政府ニ於テモ鮮人居据リニ付圓滿話合ヲスル様セラレ度シト申入レタルニ施ハ日本警察力現地ヲ引揚ケサル限り政府ハ困リ居ル次第ナラン右ヲ引揚ケサル以上圓滿ナル交渉ハ進行セサルヘシト云ヘリ九日入手ノ情報ニ依レハ省政府ハ歸化鮮人ノ入耕ヲ許スモ未歸化者ハ斷シテ留マルヲ許ササルコトシ嚴重日本側ト交

編注 「發」の箇所に「以」との書き込み訂正あり。

183 昭和6年6月10日 在長春田代領事より
幣原外務大臣宛(電報)

中国側が時日を遷延する場合は十二日より堰止め工事強行実施に關し吉林總領事宛電報

長春 6月10日後発
本省 6月10日後着

合第一五號（暗）
本官發吉林宛電報

第七號ノ一

貴電第八號ニ關シ

大臣宛往電第三一號共同調査班ハ九日早朝現地ニ向ケ出發派遣警察官八名（全員一一名中三名ハ調査班ニ加ハリ居ルコト既報ノ通り）ハ同日午後歸來シタルカ貴電末段具體案ノ持出シニ付テハ調査班歸來後ノ情勢ニ依リ考慮ヲ廻ラスコトトシ差當リ左記諸點御参考迄

一、本件農場經營ニ關シ馬縣長ハ正式許可ヲ與ヘタルコトナシト稱シ居ルモ水田ノ地主中ニハ縣長力當該地公安局ニ對シ許可命令ヲ發シタル確證ヲ握レル者アルモ後難ヲ恐レ暫ク沈黙シ居ル次第ナリトノ内報モアリ少クトモ縣長ニ於テ相當突込ミタル諒解ヲ與ヘタルモノノ如シ

二、反對地主ハ孫某ニシテ他ノ地主ニハ左迄反感ナク而力モ孫ノ所有地ハ水路敷地中堰止口ニ近キ約二町ニ過キ

四、右ノ次第ナルヲ以テ中國官憲側ニ於テ地方民說得乃至地主ノ諒解促進ノ態度ニ出ツルニ於テハ本件ノ圓滿解決方不可能ニ非スト思考セラルモ萬一中國側ニ於テ調査ニ名ヲ藉リ時日ヲ遷延スルカ如キコトアル場合ニ

ハ妥結ノ有無ヲ論セス十二日ヨリ堰止工事ニ取掛リ一方之ト竝行シテ交渉ヲ進ムルコトスルニ非スンハ遂ニ本年度ノ種播キ時期ヲ逸シ本件水田ノ經營ヲ實際上不可能ナラシムルニ至ルヘキヲ以テ此際我方トシテハ中國側官憲ヲ十分督促監視シテ圓滿妥結ヲ促進スルコト肝要ナリト思考セラル

外務大臣、奉天、哈爾賓、農安、代理公使、北平、南京、間島、朝鮮總督、關東長官へ轉電セリ

184 昭和6年6月12日 常原外務大臣より
在奉天林總領事宛（電報）

張作相その他首脳者に対し最近の不祥事件多
発に憂慮を嚴重申し入れ方訓令

第一二九號（暗）

本省 6月12日發

三姓堡農場事件（註一）ニ付テハ貴方ニ於テ長春領事ト連絡シ折角機宜ノ措置ヲ執ラレ居ル結果現地ニ於テモ漸ク和平的交渉ノ緒ニ就キ得タル模様ナルカ他方貴地方面ニハ此時本件以外ニモ奉天城内邦人「トラック」ニ對スル暴行事

ス當初同人ハ贊成シ居リタルモ其後「コンミツショーン」問題ニ付不満ヲ懷キ水害ノ危険ヲ誇大ニ宣傳シテ部落民ヲ煽動シ其間官憲側ノ使嗾モ相當手傳ヒ事態ヲ悪化セシムルニ至リタルモノト認メラル

第七號ノ二

本官發吉林宛電報

三、堰止工事ニ依リテ生スル虞アル直接ノ被害地ハ僅少（浸水一天地及水ノ浸潤ヲ蒙ムル土地四天地）ニ過キサルヘキ見込ナルヲ以テ右ニ對シテハ調査班ノ歸來ヲ待テ相當補償ノ途ヲ講スルコトスレハ可ナルヘク又大雨増水ノ場合ニハ此種簡單ナル堰止工事（僅力三日ニテ完成スル程度ノモノ）ハ自然ニ崩壊シ問題トハナラサル筈ナルモ部落民ニ對スル口實ヲ與ヘサル爲鮮人側ニテハイザト云フ場合ニハ直ニ同工事ヲ決潰スル用意アリト云フ

件（註二）本溪湖石灰山事件（註三）通遼農場築堤防害事件（註四）哈爾賓邦人「タクシー」運轉手ニ對スル暴行事件（註五）大石橋署員ニ對スル暴行事件（註六）等ノ不祥事件續發シ而モ是等事件ニハ何レモ公安局員又ハ公安隊員ノ關係シ居ル事實アルニ付貴官ハ再應張作相ニ而會シ本大臣ノ訓令ニ基クモノナル次第ヲ前提シ前記諸案件ノ頻發ニ付作相ノ深甚ナル注意ヲ喚起セラレタル上日本トシテハ滿洲ニ於テ居留民（鮮人ヲ含ム）ノ安住及平和的活動ノ出來得ルコトヲ庶幾スル外他意無ク固ヨリ領土的又ハ政治的野心ヲ有セス從ツテ從來事件發生スレハ其ノ「メリット」ニ應シ公正ナル解決ヲ計ルコトヲ方針トシ來レルニ拘ハラス支那側ニ於テハ穩便ナル商議ニ依ラス多クノ場合一方的ニ處決セムトスル態度ニ出テ而カモ最近ニ至リテハ吉林省政府ハ朝鮮人ノ定着ヲ禁止スルノ方針ヲ公然表明シ其ノ他治安維持及外國人保護ノ任ニ膺リ居ル地方官憲力邦人ノ安住ヲ脅威シ其ノ正當ナル企業ヲ妨害スルカ如キ事件ノ隨處ニ發生スルニ任セ殊ニ是等ノ事件ニ於テハ各地公安局員又ハ公安隊員力群衆ノ暴行ヲ取締ラサルノミカ却テ之ニ加擔シテ事件ヲ擴大セシメ甚タシキハ自ラ事件ノ因ヲ作ルカ如キ

風アルハ我力方ノ到底黙過シ得サル所ニシテ支那側ニシテ斯クノ如キ態度ヲ持續スル限り日本政府トシテハ支那側ノ要望殊ニ法權問題等ニ對スル考ヘ方ヲ變ヘサルヲ得サルニ至ルヘキノミナラス最近此等事件續發ノ結果頓ニ硬化シツ

タル我力輿論ノ趨向（殊ニ支那側ノ鮮農驅逐ノ方針近時益々露骨トナレル爲鮮内民心ニ尠^{カタ}サル衝動ヲ與ヘ現ニ

部鮮人間ニハ鮮内居住支那人ニ對スル報復の手段ヲ以テ報ユルノ外無シト迄極論スル者ヲ生シ此儘ニシテ推移セハ昭和二年ニ於ケル力如キ不祥事件ノ再發無キヲ保セサル狀態ナリ）ヲ制スルニ由無ク自然政府ニ於テモ自ラ正當ト信スル所ニ從ヒ機宜ノ措置ヲ講スルノ已ムナキニ立到リ其結果極メテ重大ナル局面ヲ生スヘキ次第ヲ懇々警告セラレ右ハ固ヨリ日本政府ノ本意トスル所ニ非サルヲ以テ斯クノ如キ不幸ナル事態ノ發生ヲ避クル爲メ東三省首腦部ヨリ當該地方官憲ニ對シ速ニ平和的交渉ニ依リ當面ノ諸案件ノ圓滿解決ヲ計ラシムト共ニ將來其ノ舉措ヲ慎重ニシ此種案件ノ再發ナキヲ期セシムル様至急飭令方嚴重中入レラレ度尙支那側上下官憲ノ對日態度ノ改善ハ到底一朝一夕ニ望ミ得ラレサルヘキ所ナルヲ以テ今後モ機會アル毎ニ作相其ノ他ノ首

脳者ニ對シ前記ノ趣旨ヲ充分徹底セシムル様銳意盡力アリ

タシ

吉林、長春、哈爾賓、北平ニ轉電シ其ノ他ノ在滿各領事ニ暗送アリタシ

（註一）三姓堡農場事件

客年中國官憲又ハ地主不逞鮮人等ノ壓迫ノ爲メ長春

滿鐵附屬地ニ避難セル鮮人ノ一團カ本年五月末長春ノ西北三姓堡ニ於テ中國人ヨリ土地ヲ借受ケ水田經營ノ爲メ水路工作中部落民ノ反對ニ遭ヒ更ニ中國官

憲ノ壓迫ヲ受ケ中國巡警ノ爲メニ工事ヲ妨害セラレタルヲ以テ我領事館ヨリモ亦數名ノ警官ヲ派シテ之ヲ保護シ一時兩者衝突ヲ危マレタルモ我出先官憲ノ

銳意盡力ノ結果目下平和的交渉ノ緒ニ就キタルモ水路工事遂行不能ノ爲工作ニ着手スルヲ得サル狀態ニ

在リ

（註二）奉天城内邦人「トラック」ニ對スル暴行事件

五月三十一日邦人野遊會ノ歸途「トラック」五台ニ乘リ奉天城内通過中其ノ中一台カ中國人力車ト衝突

一中國人ト爭ヲ起シ之ヲ制止セムトスル邦人「タクシ」運轉手等ニ對シ群衆カ暴力ヲ加ヘ三名ヲ負傷セシムルニ至レルモ中國巡警ハ之ヲ取締ラス却テ暴行者ヲ庇護シテ之ヲ逃走セシムル等ノ舉ニ出テタルヲ以テ出先官憲ニ於テ目下嚴重抗議中ナリ

タルヲ以テ出先官憲ニ於テ對策考究中ナリ

（註五）哈爾賓邦人「タクシ」運轉手ニ對スル暴行事件

六月二日邦人子女數名道路ニテ高跳練習中酩酊セルミタルモ巡警ノ措置ニ手拔カリアリルハ明^{タクシ}カナルヲ以テ我總領事ヨリ抗議ノ結果中國側ニ於テモ其ノ非ヲ認メ陳謝シ來レリ

セルニ端ヲ發シ群衆カ來客ニ暴行ヲ働キタルモ中國巡警ハ之ヲ制止セス幸ニ左シタル負傷者無クシテ濟ミタルモ巡警ノ措置ニ手拔カリアリルハ明^{タクシ}カナルヲ以テ我總領事ヨリ抗議ノ結果中國側ニ於テモ其ノ非ヲ認メ陳謝シ來レリ

（註三）本溪湖石灰山事件

本溪湖ニ於ケル邦人石灰業者カ豫テヨリ中國ヨリ土地ヲ借りレ採石中ノ處六月初中國側ハ前年來施行セル礦業法所定ノ手續ヲ履ミ居ラサルヲ理由トシテ中國人地主ノ所有權ヲ取上ケ延テ邦人ノ採石ヲ中止セシメタルヲ以テ邦人ノ正當ナル企業ヲ濫リニ妨害スルモノトシテ目下出先官憲ニ於テ抗議中ナリ

（註四）通遼農場築堤妨害事件

通遼ニ於ケル東亞勸業會社農場ニ於テ堤防修築中ノ處外交協會竝地方商民會カ盛ニ反對運動ヲナシ遂ニ那人苦力千六百餘名ヲ直ニ解散シ百餘箇ノ苦力「アソベラ」小屋ヲ悉ク燒却シ工事遂行不能ニ了ラシメ

の意表明について

長春 6月12日後発

本省 6月13日後着

第三四號（暗、至急）
往電第三一號ニ關シ

共同調査班ハ九、十兩日ニ亘リ部落民ノ反対理由ヲ取調ヘ現地調査ノ上歸來シタルニ付十一日夜本官籌備處長ヲ往訪シ先方調査ノ結果ニ付尋不タル處地主及農民ノ反対主要理由ハ（一）水路敷地ノ所有權ヲ恣ニ侵害シタルコト（二）水路ニ依リ各個農田中斷セラレ耕作ニ多大ノ妨害ヲ與フルコト（三）堰止工事農場下流ノ耕作地数千天地盡ク水害ヲ蒙ルノミナラス河川ノ航行ニ妨害ヲ與フルコト等ニシテ即チ多數地主農民ノ合法固有ノ權利ヲ侵害スルノミナラス河川ノ交通ヲ妨害スルヲ以テ到底容認シ難キ次第ナル旨ヲ述ヘタルニ付本官ハ當方調査ノ結果ニ依レハ（一）水路敷地ニ付テハ鮮人ハ完全ニ地主ノ諒解ヲ取付ケアルモノト信シ善意ニ工事ニ着手シ故意ニ所有權ヲ侵害シタルモノニアラサル上既ニ大部分ノ工事ヲ完了セムトシタル際ニ邊力ニ所有權侵害云々ノ理由ノ下ニ事業ノ根本ヲ破壊セラルコトハ到底承認シ難キ

所ニシテ寧ロ貴方ニ於テ反対地主ヲ説得シテ鮮人側ト圓満話合ヲ遂ケシムル様好意的ニ努力シテコソ本件圓満妥結ノ途ナリト信ス（一）農田中斷セラルト云フモ水路ニハ必要ニ應シ橋梁ヲ架シ且充分ナル地代ヲ拂フコトトナシ居レルニ付多少ノ不便ハ致方ナシ（二）堰止工事ニ依リテ生スル虞アル浸水ニ付テハ吉林宛電報第七號（三）ノ點ヲ敷衍説明シ又川船ノ航行ハ極メテ稀ナル上鮮人ニ於テ航行ニ支障ナキ様適當手段ヲ講スルノ用意アリ現ニ牡丹江ニ同様ノ實例アル趣ナル次第ヲ縷々説明シ

要スルニ貴方調査ノ結果ハ殆ト部落民ノ誇大ナル反対理由ヲ其儘鵜呑ニシタルニ過キスシテ其間何等公平ナル意見ヲ見出シ得サル旨ヲ述ヘタル處籌備處長ハ部落民ノ反対理由殊ニ所有權ノ不法侵害ハ黙過シ難キ處ナルモ鮮人力善意ニ事業ニ着手シタル點ヲ考慮シ水田事業ヲ斷念スルニ於テハ適當ナル補償ノ方法ヲ講スヘク尙鮮人ヲ現地ニ停ムルトンテ水稻ノ代リニ陸稻ヲ耕作セシムルカ如キ方法ナキモノニヤト尋ネタルニ付陸稻耕作ノ方法ハ一案ナルモ現地ハ濕地ナル上鮮人ハ陸稻耕作ノ經驗モナク且耕作用具ノ點等ヨリ考慮シテ不可能ニシテ右案ハ結局鮮人追出シノ結果ニ了ル

張作相に対し万宝山問題など最近東北において諸事件頻發につき深甚なる注意喚起について

奉天 6月15日後発

本省 6月16日前着

第三六六號（暗）
貴電第一二九號ニ關シ

ニ過キサルヘキ旨ヲ述ヘ種々意見ノ交換ヲ爲シ十二日午前二時半ニ及ヒタルモ妥結ノ途開カレサルヲ以テ本官ハ日本側力當初ヨリ圓滿解決ノ爲有ユル手段ヲ盡シ其上時日切迫セル際ナルニモ拘ラス特ニ調査班ニ關スル貴方ノ提議ヲ受容レタルハ全ク右ノ趣旨ニ外ナラサルニ結局徒ニ時日ヲ遷延シタルニ過キサル結果トナリタルハ返ス返スモ遺憾ニ堪ヘス此上ハ當方ノ信スル處ニ依リ進ムノ外ナキ旨ヲ述ヘ悲愴ナル空氣ノ裡ニ引揚ケタリ

右ノ如キ次第ナル處現地ニ於テ一日千秋ノ思ニテ工事再開ノ指令ヲ待チ居ル鮮人ハ時日ノ切迫ニ連レ何時工事ニ取係ルヤモ計ラレサルヲ以テ反対部落民トノ衝突ヲ顧慮シ鮮人ノ輕舉妄動ヲ警ムル爲今朝私服警察官四名ヲ現地ニ急派セルカ尙中國側ニ對シテハ爲念最後ニ今一押交渉スル所存ナリ

代理公使、奉天、吉林、關東長官、朝鮮總督へ轉電シ哈爾賓、北平、間島、農安へ暗送セリ

186 昭和6年6月15日 在奉天林総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

二 万宝山事件関係

時報告ニ接シ居ル處本件ニ關シテモ素ヨリ好ンテ事ヲ起ス
力如キ方針ヲ執ラシメタルコトナク唯鮮人側ニ於テ地主ノ
同意ヲモ經ス縣政府ノ何等指令ヲモ待タス勝手ニ用水路工
事等ヲ施行セルニ爭端ヲ開ケルモノナルニ依リ鮮人ト地主
及縣政府トノ關係等ニ付テ根本的ニ調査ノ（上）事理ヲ明
白ニスレハ公平ナル判断ニ依リテ處置ヲ着ケ得ヘシト思考
スト述ヘタリ依テ本官ハ抑々萬寶山問題ハ情報ニ依レハ省
政府ノ朝鮮人排斥ノ方針ニ依リ同地ノ水田經營ニ對シテモ
實力ヲ以テ之ヲ追放スヘシトノ命令ヲ縣政府ニ與ヘタル結
果發生シタルモノニシテ單ニ地主ト鮮人トノ折衝ノミニ任
せ置キタランニハ斯ノ如キ問題ヲ惹起セサリシナルヘシト
語リタル處

作相ハ省政府力實行使ニ依リ鮮人追放方命令シタリト言
フカ如キハ全然アリ得ヘカラサルコトニシテ問題ノ要點ハ
無斷ニテ支那人ノ耕作地ニ水道ヲ掘レル點ニアリ此點ニ付
テハ周處長ニ對シ田代領事ト交渉方ヲ訓令シ目下接衝中ノ
筈ナリト辯解セルニ依リ本官ハ單ニ地主ト鮮人小作人間ノ
問題トセハ何等困難ナキ筈ナルモ官憲ノ阻止アリシカ爲今
日ノ如ク重大化シタルモノナルヲ以テ地方官憲ニ於テ圓滿

次テ本官ハ單ニ萬寶山問題ノミナラス最近一般的ニ中國官
民ノ日本人ニ對スル空氣險惡化ソツアリテ哈爾賓問題
(張作相ハ之ニ關スル報告ニ接シ居ラスト言フ) 等ノ如キ
モ其結果トシテ現ハレタルモノナルカ如斯事件ノ發生ヲ取
締ラス放任セハ中日ノ國交ニ由々敷キ影響ヲ齋ス虞アリ貴
督辨力本問題ヲ良ク了解シテ積極的ニ之カ取締ノ方法ヲ講
スル様切望ニ堪ヘスト述ヘタル處作相ハ其點ハ至極同感ナ
ルヲ以テ吉林省ニ於テハ自分ヨリ充分取締ルヘク遼寧省ニ
於テハ更ニ減式毅ト協議スヘキ旨答ヘタリ

吉林、長春、哈爾賓ヲ除ク在滿各領事ヘ暗送セリ
支、吉林、長春、哈爾賓、北平、關東長官、朝鮮總督ヘ轉
電セリ

187 昭和6年6月16日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

張作相との会談で地主の損害補償と朝鮮人の水
田經營承認で解決申し入れを長春領事に通報

奉天 6月16日後發
本省 6月16日後着

第三六九號（暗）

本官發長春宛電報第一〇號

第三六九號（暗）

貴官發外務大臣宛電報第三五號ニ關シ

施履本との会談によれば円満解決は望み難き
につき工事再開せしむべき旨長春領事に指示

吉林 6月17日前發
本省 6月17日前着

第三六九號（暗）

本官發長春宛電報

第九號

大臣宛往電第三六六號會談ノ際本官ヨリ張作相ニ對シ萬寶
山問題ニ關シテハ鮮人側ヨリ地主ニ對シ關係工事ニ依ル損
害ニ付相當ノ補償ヲ約束スル代リ支那側ニ於テハ鮮人ノ水
田經營ヲ認ムルコトトシ之力解決ヲ計ルコト可然ト申入置
キタル力右案ニ付テハ作相ハ明確ニ肯定セサリシモ大體異
存ナキ様認メラレタルノミナラス同人ヨリ周籌備處長宛和平
解決ニ努力方更ニ命令アリタル筈ナルヲ以テ此際貴官ニ
於テ前記ノ「ライン」ニテ至急交渉ヲ促進セシメラレンコ
トヲ希望ス

大臣、吉林、關東長官、朝鮮總督へ轉電セリ

解決ノ意思ヲ有スルニ於テハ立所ニ結了シ得ヘシ就テハ至
急周處長ニ對シ田代領事ト圓滿解決スヘキ旨訓電セラレタ
ク當方ヨリモ田代領事ニ其旨通報スヘシト要望セル處圓滿
解決ハ素ヨリ望ム處ナルヲ以テ出來得ル丈ヶ貴意ニ副フ様
取計フヘキ旨答ヘタリ

リ然ルニ日本側力再ヒ警察官ヲ派シ更ニ軍隊八十名ヲモ現地ニ出動シタリトノ報アリ斯ノ如クンハ武力ヲ以テ威壓的ニ事ヲ解決セントスルモノニシテ平和的解決ノ趣旨ニ反スルニ付省政府トシテ交渉ニ應スル譯ニハ行カスト云ヘルニ付本官ハ周處長ノ共同調査ノ目的果シテ然リトセハ右ハ田代領事ヲ欺キタルモノニシテ承知シ難シ又日本軍隊出動セリトノコトハ本官承知シ居ラス恐ラク虚報ナルヘント思考ス部落民ノ苦情ニ對スル善後措置ハ調査ノ結果自ラ途アルコト明カトナレルニ拘ラス一途ニ鮮農ヲ退去セシメントスル支那側ノ態度ハ面白カラサル結果ヲ招來スヘシト述ヘ大臣發奉天宛第一二九號ノ趣旨ニ依リ省政府ノ再考ヲ促シタルニ施ハ支那側ヨリ言ヘハ日本ハ領土的野心ナント言ヒ又法權其他不平等條約等ノ撤廢ニハ同情ヲ表スト云ヒナカラ武力ヲ以テ鮮農ノ定着ニ干與セントシ又吳人華殺シノ犯人金正元ノ引渡要求ニ應セス等ノ事例ニ徵スレハ日本ノ眞意何レニ在ルヤヲ疑ハサルヲ得スト云ヒタルニ付本官ハ日本カ支那國民ノ要望ニ同情シ居ルハ眞實ナルモ現ニ法權其他條約ノ嚴トシテ存スル間ハ問題力起レハ其規定通り運ハサルヲ得ス支那側カ現在ノ制度及日本人ノ權益ヲ無視シテ事

政府トシテ此際本問題ヲ如何トモ致シ難シト云ヘルカ作相カ具体的ニ何等指令ヲ與フルヤ疑ハシク圓滿解決ハ急速ニハ望ミ難シト存スルニ付鮮農ノ工事ハ貴官既定ノ御方針通り進行セシムルヲ可ト思考ス

外務大臣、奉天、哈爾賓、代理公使、問島、關東長官、安東、朝鮮總督ニ轉電シ農安へ暗送セリ

在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

189 昭和6年6月18日

施履本と会談し双方万宝山問題打開案を提示せ

るも解決せず堰止め工事の再開を通告について

奉天 6月18日後発
本省 6月19日前着

第三七八號（暗）

⁽¹⁾十八日施履本來訪本官旅行中ノ爲森島面接シタル處施ハ全然個人ノ資格ニテ御話スル次第ナリト前提シ張督辦カ三姓堡問題ノ圓滿解決ヲ望ミ居ラルハ勿論ニシテ省政府トシテモ鮮人壓迫等ノ意思ナキ次第ナルカ右ハ必シモ鮮人ノ同地方居住ヲ前提トスルモノニアラス日支双方ノ和平的話

合ニ依リ本件ヲ解決シ不祥事件ノ發生ヲ防止セントノ意図ニ外ナラサルニ付誤解ナキ様希望スル旨述ヘタル上鮮人側ノ契約力官憲ノ許可ヲ得居ラサル點水路開鑿ニ當リ所有権ヲ侵害シ居ル點堰止め工事ニ依ル交通ノ妨碍並浸水ニ依ル損害及稻田水利章程等ノ諸點ニ言及シ此際右諸點ニ付考究ヲ加ヘ根本的解決ヲ計リタキ旨述ヘ且堰止め工事進行中ナリヤ否ヤヲ尋ねタリ右ニ對シ森島ハ斯ノ如クンハ問題ハ逆轉シタルモノト言フヘク種播時期切迫シ居ル折柄急速解決ヲ要延的態度ヲ執ラルニ於テハ已ムヲ得ス一兩日中ニテモ工事ヲ敢行セサルヲ得サルヘシ日本側トシテハ鮮人ヲ同地方ニ居住セシムルコト絶対ニ必要ニシテ之カ爲ニハ水田ヲ經營セシムルノ外ナキニ付本件圓滿解決ノ方法トシテハ事實上水田經營ニ依ル損害ハ之ヲ賠償スルコト頓シ堰止め工事ヲ行フノ外ナキニ依リ右ノ「ライン」ニテ至急解決方取計ハレ度ク御話ノ如ク省政府ニ於テ鮮人壓迫ノ意思ナシトセハ右案ノ受諾ハ困難ナラサルヘク兎ニ角問題窮迫セル今日之以上ノ遷延ヲ許サスト述ヘ且稻田水利章程ノ如キハ我

ヲ進メントスル態度コソ法權撤廢上日本側ノ危惧スル處ナリト反省ヲ求メ尙本件ニ付省政府ハ再考ノ餘地ナントスルモノナリヤト尋ネタルニ施ハ再考ノ餘地ナントハ斷言出來サルモ此際省政府ハ周處長ニ向テ鮮農居据リ差支ヘナシト訓令スルコトヲ得ス但シ日本側力警察官ヲ撤退シ鮮農ノ工事ヲ引續キ中止セシメタル上ニテ居据リ可否ノ問題ヲ重ねテ平和的ニ商議シタク右ニテ話纏ラサル結果日本側カ飽迄現地保護ヲ爲ストナレハ或ハ省政府ハ已ムヲ得ス讓歩スルヤモ知レスト答ヘタルヲ以テ本官ハ斯クテハ同シ事ヲ再ヒ繰返シ時日ヲ遷延スルコト（ナル）ヲ以テ一方農期ノ關係上鮮農ハ堰止め工事及種播キヲ進行スヘキニ付支那側ニテハ之ヲ妨害セサル様注意セラレタント申入レタルニ施ハ農期切迫ノ點ハ省政府ノ考量ニ入レ置クヘシト答ヘタリ

二、右ノ如ク何等纏リタル結果ヲ得ラレサリシ次第ナル力施ノ言ニ依レハ支那側ノ鮮農驅逐ノ理由ハ依然トシテ專ラハ之ヲ妨害セサル様注意セラレタント申入レタルニ施ハ農年十一月建設廳月報ニテ公布）ニハ觸レサル處之ニ觸レ來レル場合ニハ本官ハ該章程ハ日本人ヲ拘束スルヲ得ストノ建前ヲ執ル考ナリ尙施ハ張主席ヨリ何等力申越ナキ限り省

方ヲ拘束スルモノニ非ストテ吉林發長春宛電報第八號中段ノ次第ヲ指摘シタルニ施ハ省政府トシテハ官憲ノ許可ナクシテ水田ニ取掛リタル點竝地主ノ承諾ナクシテ水路ヲ開鑿シタル點ニ於テ官憲ノ威信上及地方民ニ對スル關係上甚タ困難ナル立場ニ立チ居ル次第ナルカ右ノ點ニ付何等力救濟策ナキヤ例ヘハ堰止工事ヲ中止シ陸田蒔ニ依ルコトヲ得サルヤ鮮人側ノ投資等ニ對シテハ支那側ニテ賠償スヘキニ付本年一年ハ水田經營ヲ止メ別ニ引續キ契約陸田ノ可能性如何ニ依テ決スルノ外ナク少クトモ本年ハ問題ニナラス時期根本問題ニ付攻究ヲ遂クルコトシテハ如何ト述ヘタリ

依テ森島ハ陸田蒔ノ可能如何ハ現地ノ事情並鮮農ノ技術如何ニ依テ決スルノ外ナク少クトモ本年ハ問題ニナラス時期等ノ關係上是非共水田ヲ必要トスル次第ニ付御話ノ提案ハ

絶對ニ承認スルヲ得ス此際堰止工事ヲ實行シ右ニ依テ生スルコトアルヘキ損害ハ日本側ニテ賠償スヘク契約其他ノ問題ハ別箇ニ引續キ日支双方ニテ攻究スル位ノ案ナラハ試案トシテ總領事ニ取次キテモ可ナリト述ヘタルニ施ハ總領事ニハ御歸奉ノ上更ニ面談スヘキモ兎ニ角本日ノ會談ノ模様ヲ長春領事ニモ通報シ解決ノ參考ニ供セラレ度キ旨述ヘタルニ付不敢田代領事ニ電話シ置ケリ

在支公使、北平、長春、吉林、南京、關東長官、朝鮮總督へ轉電シ哈爾賓へ暗送セリ

190 昭和6年6月22日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛（電報）
施履本の要請により堰止め工事の再開を一、

三日猶予の旨長春領事宛通告

奉天 6月22日後発 本省 6月22日後着
第三八三號（暗）
本官發長春宛電報

第一二號

二十二日施履本來訪シ三姓堡問題ニ言及シタルニ付本官ハ張作相トノ間ニハ圓滿解決ノ爲交渉ヲ進ムルコトニ話合成立シ居リ日本側トシテモ之カ爲ニ堰止工事ヲ差止メ居レルニ拘ラス周籌備處長ハ田代領事トノ會見ヲ忌避シ居リ支那側ニ於テ有耶無耶ノ裡ニ事件ヲ遷延セシメントスル嫌アルハ遺憾ニ堪ヘストテ支那側ノ態度ヲ難詰シタルニ施ハ右ニ付色々辯解シタル上日本側ノ態度並堰止工事進行ノ有無ヲ

聞キタルニ付本官ヨリ我方ニ於テハ事實上鮮農ヲシテ水田經營ヲ爲サシムルコト必要ニシテ元來地主ト鮮農トニ委シ支那官憲ニ於テ武力ヲ以テ鮮農ヲ追放スルカ如キ態度ニ出

テサリシニ於テハ何等問題ヲ見サリシ次第ナルカ何時迄モ

第四二號（暗）
往電第三七號ニ關シ

問題解決セサルニ於テハ目下差止メ中ノ工事モ實行セサルヲ得スト述ヘタルニ施ハ先日來張作霖三周年祭ノ爲張作相ニ面談スルヲ得サリシモ明日作相ニ面會ノ上歸任ノ豫定ナルヲ以テ長春ニ於テ籌備處長ニ會ヒ充分自分ヨリ話スヘキニ付工事ハ其間數日間猶豫セラレタシト述ヘタルヲ以テ本官ハ茲二三日貴下ノ面子ヲ重ンシ工事ヲ差止ムヘキ旨述ヘ問題ノ急速解決ヲ強ク要求シ置ケリ

外務大臣、代理公使、吉林、關東長官、朝鮮總督へ轉電シ哈爾賓、北平へ暗送セリ

191 昭和6年6月25日 在長春田代領事より
幣原外務大臣宛（電報）
周籌備處長に中國側農民平靜化につき朝鮮人
の水田經營承認を申し入れについて

在支公使、北平、長春、吉林、南京、關東長官、朝鮮總督へ轉電シ哈爾賓へ暗送セリ

203

202

相⁽²⁾變ラス所有權侵害手續ノ缺陷等ヲ蒸返シ述ヘタル上中國側ニ於テハ鮮人壓迫ノ意思無ク現ニコユジユカーロン方面ニハ多數ノ鮮人安住シ居ルニ非スマト述ヘタルヲ以テ滿洲ノ中國官憲全部力處長ノ如キ公正ナル考ヲ有スルニ於テハ兎ニ角當方ニ於テ知レル鮮人壓迫ノ事例ハ枚舉ニ暇アラサル程ニテ日本側ノ輿論モ異常ニ緊張シ現ニ萬寶山問題モ中國側ノ壓迫ニ依ルモノナリトテ意外ニ重大視居ル始末ナリ抑々中國官憲ニ於テ當初ヨリ好意的態度ニ出テ武力的壓制干涉ニ出テ斯寧口鮮人對地主ノ關係ニ任セ置ク時ハ斯ク迄問題ハ重大化セサリシナルヘシトテ奉天發本官宛電報第一二號林總領事ノ所見ヲ敷衍説明シタルニ對シ處長ハ縷々官憲ノ遣ロニ付辯明スル處アリタルカ結局當方ノ提案ヲ聽キ入レス飽迄道理ニヨリ決スルノ外ナシトテ所說ヲ曲ケサルニ付本官ハ共同調査ノ結果ハ雙方大ナル開キアル次第ニシテ堰止メ實行セサレハ何レカ正當ノ判斷ナルヤ判明セサル二付

一⁽³⁾兩日中ニ堰止實行ノ上試驗的ニモ鮮人ヲシテ水田ヲ經營セシムルコトトシ一方交渉ハ引續キ行ヒ不祥ナル事件ノ發生ニ付テハ双方トモニ極力避クルコト致シタシト述ヘタ

奉天 6月26日後発
本省 6月26日後着

第三九二號（暗）

萬寶山事件ニ關シ峯旗吉林ヨリ來奉シ廿六日約二時間ニ亘リ張作相ニ面會シタル處作相ハ純然タル個人ノ資格ヲ以テ腹藏ナク談話スト前提シ萬寶山水田ハ中國官憲ノ許可ヲ經サルノミナラス數里ニ亘ル水溝工事ニ關シテモ豫メ十分地主ノ諒解ヲ取付ケサリン爲問題ヲ起シタル次第ニシテ自分ハ毫毛鮮人ヲ排斥スル意味合ヲ以テニ臨マントスル考ナク現ニ自分力經營スル水田ニモ鮮人廿五戸ヲ使用セル事情モアリ善良ナル鮮人力穩當ニ吉林省內ニ於テ正業ニ從事スルヲ妨害スル意志ヲ有セス但シ今回ノ事件ハ根本手續ニ於テ缺陷アリ從テ人民ノ反對モアルコトナレハ此ノ上日本側カ無理押ニ工事ヲ進捗セシメラルニ於テハ支那側ハ已ムヲ得ス武力ヲ以テ之ヲ妨害シ事ヲ構ヘントスル意志ナキモ

黨部ノ活動等ニ依リ相當重大化スヘクスノ如キハ將來在滿鮮人發展ノ爲ニ日本側ノ不利益ト思考ス自分ハ決シテ排日ハ自滅ヲ招ク結果ヲ來スヘキニ依リ飽迄親善關係ヲ持續ス

奉天 6月26日後発
本省 6月26日後着

第三九二號（暗）

萬寶山事件ニ關シ峯旗吉林ヨリ來奉シ廿六日約二時間ニ亘リ張作相ニ面會シタル處作相ハ純然タル個人ノ資格ヲ以テ腹藏ナク談話スト前提シ萬寶山水田ハ中國官憲ノ許可ヲ經サルノミナラス數里ニ亘ル水溝工事ニ關シテモ豫メ十分地主ノ諒解ヲ取付ケサリン爲問題ヲ起シタル次第ニシテ自分ハ毫毛鮮人ヲ排斥スル意味合ヲ以テニ臨マントスル考ナク現ニ自分力經營スル水田ニモ鮮人廿五戸ヲ使用セル事情モアリ善良ナル鮮人力穩當ニ吉林省內ニ於テ正業ニ從事スルヲ妨害スル意志ヲ有セス但シ今回ノ事件ハ根本手續ニ於テ缺陷アリ從テ人民ノ反對モアルコトナレハ此ノ上日本側カ無理押ニ工事ヲ進捗セシメラルニ於テハ支那側ハ已ムヲ得ス武力ヲ以テ之ヲ妨害シ事ヲ構ヘントスル意志ナキモ

黨部ノ活動等ニ依リ相當重大化スヘクスノ如キハ將來在滿鮮人發展ノ爲ニ日本側ノ不利益ト思考ス自分ハ決シテ排日ハ自滅ヲ招ク結果ヲ來スヘキニ依リ飽迄親善關係ヲ持續ス

192 昭和6年6月26日 在奉天森島總領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）

張作相より峯旗に対し日本側が工事強行すれば事態重大化すると警告について

支、奉天、吉林、關東長官、朝鮮總督へ轉電シ哈爾賓、北平、間島農安へ暗送セリ

ルニ處長ハ默シテ答ヘサリシモ幾分悄氣タル體ニテ從前ノ如ク真向ヨリ反對スルコトナカリキ處長トノ會見右ノ如クナル處中國側ノ空氣モ今更體面上俄ニ從來ノ主張ヲ改変スル能ハサルモ日本側ニテ工事ヲ決行スル場合之ヲ一應默認スル力如キ風アルヤニ認メラル上現ニ鐘毓ハ奉天ヨリ哈爾賓ニ歸任ノ途次當地ニ立寄リ籌備處長ニ對シ萬寶山問題ニ關シ張作相ノ意嚮ナリトテ張學良ノ病氣反蔣運動ノ擡頭等時局多端ノ折柄極力日本側トノ事端ヲ避クト共ニ銳意交渉ノ資料ヲ蒐集シ將來中國側ニ有利ニ解決スヘキ旨傳ヘタリトノ情報モアリ旁明廿六日堰止ヲ決行シ一層農民ノ反對緩和ニ力ヲ注クト共ニ中國側トノ交渉ヲ繼續シ行ク所存ナリ

ルニ處長ハ默シテ答ヘサリシモ幾分悄氣タル體ニテ從前ノ如ク真向ヨリ反對スルコトナカリキ處長トノ會見右ノ如クナル處中國側ノ空氣モ今更體面上俄ニ從來ノ主張ヲ改変スル能ハサルモ日本側ニテ工事ヲ決行スル場合之ヲ一應默認スル力如キ風アルヤニ認メラル上現ニ鐘毓ハ奉天ヨリ哈爾賓ニ歸任ノ途次當地ニ立寄リ籌備處長ニ對シ萬寶山問題ニ關シ張作相ノ意嚮ナリトテ張學良ノ病氣反蔣運動ノ擡頭等時局多端ノ折柄極力日本側トノ事端ヲ避クト共ニ銳意交渉ノ資料ヲ蒐集シ將來中國側ニ有利ニ解決スヘキ旨傳ヘタリトノ情報モアリ旁明廿六日堰止ヲ決行シ一層農民ノ反對緩和ニ力ヲ注クト共ニ中國側トノ交渉ヲ繼續シ行ク所存ナリ

二 万宝山事件関係

193 昭和6年6月26日 在長春田代領事より
幣原外務大臣宛(電報)

堰止工事二十六日再開したが妨害なく翌日に
は完了の予定について

長春 6月26日後発
本省 6月26日後着

第四三號(暗)
往電第四二號ニ關シ

堰止工事ハ本二十六日午前二時ヨリ着手官憲地方民ノ妨害
モ無ク平穩裡ニ正午既ニ工事半ハニ達シ明一日ニテ完了ノ
見込
尙二十四日午後八時頃地方民約四十名ハ公安分局巡警十四
名保護ノ下ニ堰止箇所ニ近キ水路約三十間ヲ埋没シタルカ
其際鮮人二名ハ巡警ノ爲縛セラレ所持品全部ヲ強奪セラレ
タリ右埋没箇所ハ二十五日鮮人ニ於テ直ニ復舊シタルカ堰
止工事着手前後ハ此種妨害少カラサルヘキヲ豫想シ現在ノ
少數警察官ニテハ不充分ナリト認メ不取敢今朝五名ヲ増派
セリ

支、奉天、吉林、關東長官、朝鮮總督ニ轉電セリ

リト言ヘリ當面的ニハ支那側ハ泣寝入りトシ問題ヲ後日ニ
爭フコトニ腹ヲ決メタルモノト思ハル
大臣、奉天、支、關東長官、朝鮮總督、哈爾賓、北平へ轉
電シ間島農安へ暗送セリ

195 昭和6年7月1日 在長春田代領事より
幣原外務大臣宛(電報)

中國側農民の水路破壊開始により朝鮮人農民
に同工事を中止させ目下対策考究中について

長春 7月1日後発
本省 7月1日後着

第四七號(暗、至急)
往電第四六號ニ關シ

一日朝五時頃ヨリ堰止工事続行中六時半頃ヨリ附近ニ農民
漸次集合シ水路竝堰止工事ノ破壊ヲ爲スト稱シ八時半頃ニ
ハ約四百名ノ集團ヲ爲シ何レモ「シャベル」等ノ道具ヲ携
帶シ形勢不穏トナリタル爲我警察官ニ於テ代表ト認ムヘキ
モノト種々交渉シタルモ農民ハ頑トシテ肯セス九時二〇分
水路破壊ニ着手シタルニ依リ已ムヲ得ス鮮農ニ對シテハ堰

194 昭和6年6月30日 在吉林石射總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

中国側は現場における衝突を避ける方針との
施履本の談話につき長春領事宛通報

吉林 6月30日後発
本省 6月30日後着

第四一號(暗)
本官發長春宛電報

第一二號

廿九日施履本ト會見シタル節施ハ萬寶山問題ニ關シ奉天出
張ノ模様ヲ語リ要スルニ作相トシテモ手續上ノ缺陷ト地方
民ノ反對トヲ無視シテ朝鮮人ノ居坐リヲ許可セヨトノ命令
ヲ地方官ニ對シテ下スヲ得ス唯合理的合法的且地方的ニ問
題ヲ解決セヨトノコトニテ施ハ奉天ヨリノ歸途命ニ依リ其
旨周籌備處長ニ傳ヘタルカスカル漠然タル命令ニテハ周處
長トシテハ頑張ルヨリ外方法ナカルヘク一方日本側ニテモ
退ケヌトノコトニテアレハ交渉ハ交渉トシテ繼續シツツモ
結局自然解決ニ委スルヨリ外ナシ支那側ハ作相ヨリ言明モ
アリ現場ニ於テ衝突ヲ起ス如キコトハ絕對ニ避ケル方針ナ

止工事ヲ中止セシメ絶對無抵抗ノ態度ヲ執ラシメタリトノ
急報ニ接シ目下對策考究中ナルモ右不取敢
支、奉天、吉林、關東長官、朝鮮總督ヘ轉電シ北平、哈爾
賓、間島農安へ暗送セリ

196 昭和6年7月1日 在長春田代領事より
幣原外務大臣宛(電報)

籌備處外交科長に農民鎮圧を要請したが誠意
なく警官増派を通告について

長春 7月1日後発
本省 7月1日後着

第四八號(暗)
往電第四七號ニ關シ

直ニ館員ヲ籌備處ニ派シ外交科長ニ對シ(籌備處長ハ病臥
中ナリトテ當方ノ面會ニ應セス)暴民鎮壓方ニ關シ交渉セ
シメタルモ今トナツテハ到底農民ヲ鎮壓スルノ見込ナシト
テ辭ヲ構ヘテ全然誠意認メラレサルニ付鮮人對農民衝突防
止ノ爲ニモ已ムヲ得斯相當數ノ警察官ヲ増派スヘキ旨ヲ通
告シ引取り來レリ

発砲せしも被害無き状況について

長春 7月2日後発

本省 7月2日後着

第五二號（暗）

往電第五一號ニ關シ

只今接到シタル午前一〇時四〇分發現地報告ニ依レハ今朝八時近ク暴民約五百名長銃約二〇拳銃約一〇ヲ携行シ來リ工事ヲ破壊シタルニ依リ我警察官之ヲ阻止セントシタルニ暴民中ニ發砲シタル者アリ續テ堰止北方約一三〇米ノ地點ヨリ長銃ノ發砲アリタルニ依リ直ニ水路ニ散開シテ之ニ應射シ銃火ヲ交ヘタルカ十時暴民ハ漸ク攻勢ヲ弛ムルニ至リタリトノコトナリ尙警官一行ニ死傷ナク暴民ニモ被害ナキモノノ如シ

轉電暗送先前電ノ通り

201 昭和6年7月3日

幣原外務大臣より
在吉林石射總領事宛（電報）

事態の平和的解決に向け中國側をして交渉再開に誠意を示す様尽力方訓令

本省 7月3日後発

第一四號（暗）

三姓堡農場問題ニ關シテハ我方ニ於テハ鮮人側ニモ中國側ニモ損害ヲ與ヘシシテ落着セシムル様現地彼我官憲間ニ和平的交渉ヲ續クルノ方針ヲ執リ張作相モ林總領事トノ累次ノ會見ニ於テ大体本件圓滿解決ノ爲交渉ヲ進ムルコトニ了解ヲ與ヘ居ルニ不拘省政府乃至地方官憲ニ於テハ飽迄鮮人追放ノ方針ヲ捨テスロニ契約ノ不備地方民ノ反對等ヲ口實トシテ毫モ誠意ヲ示サス解決ヲ遷延シテ事實上水田ノ經營ヲ不可能ニ陥レムトスル策ヲ弄シ居ルモノノ如ク斯ケハ種蒔キ時期ヲ逸スル虞アルニ付堰止工事ヲ進行セシメタル次第ナル處今回農民ノ暴行ニ對シテハ籌備處ニ於テ之力鎮壓ノ責任ヲ明白ニ回避シタルノミナラス暴民中ニハ中國側巡警數十名混シ居レリトノ情報モアリ官憲力裏面ニ於テ暴民ヲ指嗾シ居ルニ非スヤト疑ハル節アリ事態看過ヲ許サルニ付貴官ハ直ニ省政府首腦者ニ面會シ以上ノ事實ヲ説明セラレ奉天宛往電第一二九號ノ趣旨ヲモ併セテ篤ト其反省ヲ促サルルト共ニ中國側ニ於テ我方ノ條理アル態度ニ不拘暴民ヲ指嗾シ又ハ消極的ニ其暴行ヲ容認スルカ如キ態度

ヲ示シ居ルハ極メテ遺憾トスル所ニシテ事態此儘ニシテ移推スルニ於テハ我方トシテモ勢ヒ自衛手段ニ出ツルノ外無キニ至ルヘキモ如斯ハ我方ノ本意ニ非サルヲ以テ至急地方官憲ニ對シ直ニ暴民ノ行動ヲ鎮壓スルト共ニ双方ニ損害ヲ與ヘシシテ本件ヲ圓滿落着セシムル爲速力ニ平和的交渉ヲ再開セシムル様發訓方嚴重申入レラレタク尙支那側地方官憲ニ於テハ我警察官撤退セサル限り暴民ノ鎮壓不能ナル旨ヲ唱ヘ居ル趣ナルモ右ハ全ク本末顛倒ノ言分ニテ長春宛往電第二八號後段訓令ノ次第モアリ先方ニ於テ交渉再開ノ誠意ヲ示スニ於テハ我方トシテモ何時迄モ警察官ヲ派遣シ置シムルヤウ盡力アリ度

奉天、間島、長春、北平、哈爾賓、在支公使、南京、朝鮮總督、關東長官へ轉電セリ

202 昭和6年7月3日 币原外務大臣より
在長春田代領事宛（電報）

万宝山事件に關し朝鮮人農民保護および不必要に事態を拡大悪化させぬよう措置方訓令

第二八號（暗、大至急）
本省 7月3日後発

三姓堡事件ニ付テハ貴官ニ於テ切角機宜ノ措置ヲ執ラレ居ル處中國側暴民ノ爲メ現場ヲ荒廢セラルルカ如キコトアルニ於テハ我方既定ノ方針竝貴官之迄ノ努力ヲ水泡ニ歸セシムル次第ナルニ付事態ノ推移ニ應シ奉天及關東廳側トモ連絡シテ鮮人ノ保護ニ付遺漏無キヲ期セラレタク尤モ右ハ毫モ中國側ニ對抗スル意味ニ非サルニッキ之ニ依リ不必要ニ事態ヲ擴大又ハ惡化セシメサル様大局上特ニ慎重ニ御措置アリタシ

奉天、吉林、間島、哈爾賓、北平、代理公使、南京、朝鮮總督、關東長官へ轉電セリ
農安へ轉電アリタシ

203 昭和6年7月3日 在長春田代領事より
幣原外務大臣死（電報）

万宝山派遣の日本側警官四十六名に達し石射

総領事と撤退措置等打ち合せの所存について

長春 7月3日後発
本省 7月3日後着

昭和6年7月4日 在長春田代領事より
幣原外務大臣宛(電報)

日本警察官撤退問題に関する籌備処外交科長との交渉状況について

第五四號(暗)
往電第五三號ニ關シ

二日午後六時半頃ヨリ暴民ハ各部落ニ退散シ同夜ハ我力警官徹宵警戒裡ニ無事經過シ唯今(正午)迄ノ處暴民再出動

ノ報ニ接セス尙今朝萬一ヲ慮リ更二十名ノ警官ヲ増派シタルニ付總計四十六名トナリタルカスカル多數警官ヲ派遣ス

ルニ至リタルハ當面緊急ノ措置トシテ已ムヲ得サル次第ナルモ諸般ノ關係上殊ニ此ノ上ノ不詳事件ノ發生ヲ防止スル

爲ニハ最近ノ好機會ヲ促ヘテ一齊ニ撤退スルノ要アリト思考セラル處中國側官憲ヨリモ頻リニ我方ノ警官撤退方要

求アリ之ヲ切掛けニ何等力ノ條件ノ下ニ撤退ノ好時機ヲ見出シ以テ本件ニ關スル一應ノ解決ヲ爲サムト折角考慮中ニ

シテ大体ノ腹案モ得居ル處偶々本日午後石射總領事來長セラルニ付同官トモ慎重打合セノ上適當ノ措置ヲ講シタキ所存ナリ

轉電先、暗送先前電ノ通

204 昭和6年7月4日 在長春田代領事より
幣原外務大臣宛(電報)

日本警察官撤退問題に関する籌備処外交科長との交渉状況について

第五六號(暗)
長春 7月4日後発
本省 7月5日前着

貴電第二八號後段ノ御趣旨モアリ本官ハ此上共成ルヘク事件ノ擴大ヲ防キ平和的手段ヲ以テ善處セントスル所存ナル

處二日衝突事件勃發シタル際モ急報ニ接スルヤ本官ハ直ニ土屋ヲ籌備處ニ派シ外交科長ニ對シ(處長ハ依然病臥中ナリト稱ス)現場ニ於テハ目下交戦中トノ急報アリ詳細ナル事情未タ判明セサルモ既ニ双方擊合ヒ居ルモノトスレハ此儘ニ放任シ置ク時ハ事態ハ益々惡化スルノミニシテ將來ノ

解決ヲシテ一層困難ナラシムヘキ虞アルニ付此際協力シテ事態ノ擴大ヲ防止スルト共ニ急速ニ平和手段ヲ講スル必要アリ差當リ双方協同ニテ現場ニ急行シ真相ヲ調査スルト共ニ貴方ニ於テ地方民側ノ暴動ヲ制止スルニ於テハ當方ニ於テモ警察官ノ武力行動ヲ中止セシムヘキニ付至急取計アリ

尙籌備處長ハ同日四時半長春發張作相亡母三週忌ノ爲錦州ニ赴キ今日迄不在ナルカスノ如ク日中間ニ急迫セル衝突事件勃發シタル際ナルニモ拘ラス前述ノ如キ應酬振ナル上事態逆睹シ難キ當日處長自ラ任地ヲ離レ徒ニ交渉ヲ遷延セシメタル中國側ノ態度ハ甚々誠意ナキ次第ナリ

支、奉天、吉林、關東長官、朝鮮總督へ轉電シ北平、哈爾賓、間島、農安へ暗送セリ

205 昭和6年7月5日 在京城池田(清)朝鮮總督府警務局
長より
谷亞細亞局長宛(電報)

朝鮮で勃發の朝鮮人と中国人間の衝突事件に
関する報道統制方所轄道知事宛電報について

圓滿解決ノ方法ナク農民力堰止工事ヲ阻止シ水路ヲ埋沒スルハ正當ノ處置ナリ事態惡化スルモ日本側ノ責任ナリトテスト應酬シタルニ科長ハ日本側力警察官ヲ撤退セサル限り從來ヨリノ主張ヲ頑強ニ固執シ毫モ急迫セル事態ヲ平和ニシタル次第ナルカ其ノ後當方力武裝救援隊ヲ派遣シタルヲ聞込ミタルモノカ同日午後四時頃外交科長ハ籌備處長ノ意

シテ大體ノ腹案モ得居ル處偶々本日午後石射總領事來長セラルニ付同官トモ慎重打合セノ上適當ノ措置ヲ講シタキ所存ナリ

シタル次第ナルカ其ノ後當方力武裝救援隊ヲ派遣シタルヲ聞込ミタルモノカ同日午後四時頃外交科長ハ籌備處長ノ意

電信(平、至急)

本省 7月5日前着

本日左ノ通管下新聞紙發行地所轄道知事ニ對シ電報セリ爲念

滿洲ニ於ケル萬寶山事件ニ原因シ目下京城仁川ヲ中心トンテ起レル鮮支人ノ對抗ニ關スル各種事件ハ其ノ鮮内發生地ノ何レタルヲ問ハス想像ニ互ルモノハ勿論假令事實ト雖著シク民心ヲ刺戟シ又ハ誇大煽動ニ互ル記事ハ之ヲ掲載セサル様貴管下新聞通信發行責任者ニ警告相成度シ

206 昭和6年7月6日 勅原外務大臣より
在吉林石射總領事宛（電報）

中國公使から朝鮮人取締り要望に關し東三省
官憲の朝鮮人圧迫に對し注意喚起の次第について

本省 7月6日發

第一六號（至急）

往電第一五號ニ關シ

五日夜平壤ニ於テ鮮支人衝突ノ結果死者三十七名重輕傷者九十三名ヲ出シタル趣ノ處本邦駐劄中國公使ハ六日亞細亞局長ヲ來訪シ朝鮮内各地ノ中國領事及商務總會等ヨリ中國在留民ノ危急ヲ告ケ來ル趣ヲ以テ朝鮮人ノ暴行ニ對スル我

方ノ取締方ヲ要望セルヲ以テ同局長ハ朝鮮官憲ニ於テハ素ヨリ本件ノ成行ヲ重視シ中國人ノ保護及朝鮮人取締ニ全力ヲ注キ居ルハ勿論ニシテ現ニ平壤ニ於テ警察官數名負傷シタル程ナルカ同公使申出ノ次第ハ當該官憲ニ轉達スヘシ尤モ鮮人今回ノ暴行ハ萬寶山事件ニ依リ滿洲ニ於ケル中國官憲ノ爲ニ居住ヲ脅カサレタリトノ印象ヲ受ケ昂奮ノ餘リニ出テタル業ト思ハル處今後中國官憲カ滿洲ニ於テ鮮人ノ居住ヲ脅スコト無キニ至ラサル限り同方面ニ於ケル事件ハ直ニ朝鮮内ニ反響シ如何ニ朝鮮官憲ニ於テ取締ヲ行フモ制止シ切レサルニ至ルヘク結局中國官憲ハ決シテ朝鮮人ヲ壓迫スルモノニ非サルニ付騷キ出スニ及ハサル次第ヲ朝鮮人ニ會得セシメ得サル限り滿鮮兩地ノ事態互ニ影響シ遂ニ取締モ效果ヲ見ケ得サルニ至ルヘキヲ以テ我方官憲ニ於テハ此上トモ取締ニ努ムルハ勿論ナルモ東三省官憲ニ對シテモ今後鮮人壓迫ノコト無キ様嚴重注意セラレ度キ旨ヲ告ケ要スルニ本件ニ付テハ兩國官憲ニ於テ充分冷靜ニ措置シ事件ノ擴大ヲ防止スル爲最善ノ努力ヲ拂ヒ萬寶山事件モ平和的ニ解決スルヲ要スヘキ旨ヲ述ヘタル處同公使モ同感ノ意ヲ表シ此ノ上トモ日本官憲ノ取締ニ期待スル旨ヲ述ヘ

引取レリ

然ルニ又々長春來電第五七號扶餘地方ニ於ケル中國官憲ノ鮮農壓迫事件アリ朝鮮内ニ於ケル此上ノ影響憂慮セラルル

ノミナラス萬一滿洲各地ニ於テ鮮人ニ對スル報復運動起ルニ於テハ事態ノ紛糾想像ニ餘リアルニ付貴官ハ更ニ吉林當局ニ對シ之等ノ事實並前記我方ノ考慮ヲ說示シ萬寶山事件ノ解決ハ素ヨリ此際中國地方官憲並地方人ノ對朝鮮人態度ノ改善方ニ付嚴重申入レラレ度向鮮人ノ暴行者ニ對シテハ何等情實ヲ設ケス法規ニ從テ處斷スルハ當然ナルニ付此ノ點モ中國側ニ了解セシメ置カレ度

奉天、間島、哈爾賓、長春、農安、北平、公使、南京、朝鮮總督關東長官へ轉電セリ

207 昭和6年7月6日 在吉林石射總領事より
勅原外務大臣宛（電報）

我が方の万宝山問題解決案に対し施主任が一部内容に難色を示した旨田代領事宛通報

吉林省 7月6日前發

三、鮮農ノ引續キ現場居据リヲ保護スルコト

二 万宝山事件関係

襲撃事件について

209 昭和6年7月6日 在京城今井田（清徳）朝鮮総督府政務監より 永井外務次官宛（電報）

貴電第二八號前段御訓令ノ次第モアリ且交渉上飽迄鮮人ヲ

主張シ尙右提案ハ本省ノ訓令及田代領事ノ方針ト異ナルモ之以上事態ノ重大化ヲ避クル爲本官限リノ責任ヲ以テ之ヲ爲スモノナルニ付留守省政府當局ニ於テモ張主席ノ指揮ヤ籌備處長ノ意見等ヲ求ムル事ナク獨斷ニテ肚ヲ決メ再考ノ上回答セラレ度シト申入レタルニ施ハ參謀長ト相談ノ爲直ニ引返シタリ尙其節施ハ暴民ヲ充分取締ル様省政府ヨリ馬縣長ニ訓令セルニ付之以上暴民カ押寄セル事ナカルヘント云ヒタルカ右ハ恐ラク朝鮮ニ於ケル朝鮮人ノ反感ニ鑑ミル處アリタルカ爲ナルヘク施ハ鮮人ノ華僑ニ對スル暴行ノ取締方ヲ朝鮮總督府へ申送リ度シト附言シタリ施ノ言ニ依レハ支那側ハ我方ニ於テ工事ヲ續行スルモ本年ノ耕作見込薄ノ事情ヲ知リ居ルモノノ如シ就テハ前記ノ提案カ成功スルヤ否ヤ疑ハシキモ本官ハ工事續行ニ依リ耕作シ大丈夫間ニ合フ見込ナルコトヲ告ケ置キタルニ付現場ノ警察官及工事ハ御協議ノ如ク尙暫ク維持セラレ度ク尙協議ニ依リ右提案ヲ試ミルニ至レル事情ハ貴官ヨリ大臣ヘ電報セラルルコトト致度シ

大臣、奉天、哈爾賓、間島、北平、支、南京、朝鮮總督、關東長官ヘ轉電セリ

四、來年迄ニ鮮農ト反対地主等トノ間ニ完全ナル諒解成立シ關係地主ヨリ願出アルトキハ其水田小作ヲ許可スルコトヲ提案シ至急省政府ニ考量方ヲ求メ尙同夜熙參謀長ニ對シテモ事態ノ急ナルコトニ付深甚ノ反省ヲ求メ置キタルカ今五日朝施履本來訪シ

一、前記ニ付テハ省政府ニ於テ之カ賠償又ハ支給ノ責ニ任シ能ハサルモ責任アル地主ノ財產ノ限度ニ於テ當該地主ヲシテ賠償又ハ支給セシムヘシ但シ生活費ハ各鮮農カ今後一年間果シテ自力ニ依リ生活シ得サルヤ否ヤヲ調査シ合理的ニ支給ト否トヲ決スヘシ

二、三、差支ナシ

三、四、ハ省政府ノ法令ニ違反セサル場合ニ之ヲ許可スト述ヘタリ依テ本官ハ資本ノ賠償及生活費ノ支給ハ地主ノ財產ヲ以テスルト否トハ問ハサルモ其支拂及不足アル場合ノ補給ニ付省政府ニ於テ補償スルニ非サレハ不可ナリ又生活費ハ各家族ノ人數ニ應シ一律ニ支給セラレ度キ事及支那側ノ鮮人排斥ハ地方民ノ反対ヲ理由トスルモノナルヲ以テ來年ノ小作ニ付テハ地方地主サヘ諒解セハ是非許可ノ事ヲ

208 昭和6年7月6日 在京城池田朝鮮總督府警務局長より 谷亜細亞局長宛（電報）

在京城中國總領事が朝鮮排華事件に關し日本警

察官による武装鎮圧を要求の電報發信について
電信（平、至急親展）

京城 7月6日前着 本省 7月6日前着

京城駐在中國總領事ハ本日駐日公使及南京政府宛左ノ意味ノ電報ヲ打チタルモノノ如キモ京城其他各地共嚴重警戒中ニシテ仁川ニハ特ニ二百二十名ノ應援警察官ヲ派遣シ既ニ四日ヨリ武装セシメ嚴戒中ナリ爲念

武装セサル爲鎮壓ノ見込ナシ即時武装シテ鎮定セシムル様日本政府ニ抗議セラレ度シ

210 昭和6年7月6日 在長春田代領事より 鮮原外務大臣宛（電報）

堰止工事の完成と埋没水路の復旧に努力中で
あり反対地主との了解成立の見込みについて

長春 7月6日後発 本省 7月7日前着

四、來年迄ニ鮮農ト反対地主等トノ間ニ完全ナル諒解成立シ關係地主ヨリ願出アルトキハ其水田小作ヲ許可スルコトヲ提案シ至急省政府ニ考量方ヲ求メ尙同夜熙參謀長ニ對シテモ事態ノ急ナルコトニ付深甚ノ反省ヲ求メ置キタルカ今五日朝施履本來訪シ

一、前記ニ付テハ省政府ニ於テ之カ賠償又ハ支給ノ責ニ任シ能ハサルモ責任アル地主ノ財產ノ限度ニ於テ當該地主ヲシテ賠償又ハ支給セシムヘシ但シ生活費ハ各鮮農カ今後一年間果シテ自力ニ依リ生活シ得サルヤ否ヤヲ調査シ合理的ニ支給ト否トヲ決スヘシ

二、三、差支ナシ

三、四、ハ省政府ノ法令ニ違反セサル場合ニ之ヲ許可スト述ヘタリ依テ本官ハ資本ノ賠償及生活費ノ支給ハ地主ノ財產ヲ以テスルト否トハ問ハサルモ其支拂及不足アル場合ノ補給ニ付省政府ニ於テ補償スルニ非サレハ不可ナリ又生

活費ハ各家族ノ人數ニ應シ一律ニ支給セラレ度キ事及支那側ノ鮮人排斥ハ地方民ノ反対ヲ理由トスルモノナルヲ以テ來年ノ小作ニ付テハ地方地主サヘ諒解セハ是非許可ノ事ヲ

萬寶山三姓堡ニ於ケル支那官憲ノ鮮農壓迫ニ端ヲ發シ本月三日以降京城仁川ヲ中心トシテ鮮内各地ニ鮮人ノ支那人迫害事件續發セルカ五日夜午後九時平壤ニ於テ數千ノ鮮人群集突如支那街ヲ襲ヒ本日午前三時ニ亘リテ狂暴ノ限りヲ盡シ支那人ノ被害死者三七重輕傷者九三ヲ出シタリ不取敢報告ス

シテ水田事業ヲ遂行セシムヘク意氣込ミ置クコト有利ナル
ヘシト存シ堰止工事ノ完成、埋沒水路ノ復舊ニ努力セシメ
ツツアル處堰止ハ殆ト完成シタルモ水路ノ急速復舊ニハ多
數ノ勞力ヲ要スヘキヲ以テ中國人苦力ヲ傭入レルコトトシ
タルモ右現地派遣ハ途中中國官憲ノ妨害等ニヨリ相當困難
ナルヘク一方種播キヲ了シタル水田ノ溜水モ漸次涸渴シツ
ソアル狀況ナルヲ以テ本年度ノ收穫ハ極メテ望少ナクナレ
ルモ兎ニ角水田經營ニ著手シタル形トナシ來年度ノ端緒ヲ
造リ置キ度キ所存ニテ三日石射總領事トモ協議ノ結果同官
ヨリ施履本（ニ）申入レノ提案ヲ作ルニ至レル次第ナリ從
テ當方ノ重キヲ置ケル點ハ來年度ノ水田經營ニ在ル處六日
藏本歸長報告ニ依レハ水路中舊排水溝ヲ利用セル部分ノ地
主ニハ反對ナク唯堰止ノ近ク新ニ開掘セル敷地ノ地主反對
シ居レルモ（本官發吉林宛電報第七號ノ〔二〕孫ノ外二名ナリ
トノコトナリ）其内一名ヨリ既ニ水路ヲ含ム自己所有地ノ
賣却乃至賃貸方申出アリタリトノコトニテ反對熱ノ冷却ニ
連レ何トカ鮮人トノ話合付クニ非スマトモ思考セラルルヲ
以テ官憲力法令（特ニ稻田水利章程）ヲ楯ニトリ許可セサ
ルカ如キコトナキ様反對地主ト鮮人トノ諒解成レル場合必

212 昭和6年7月7日 在奉天森島總領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）
臧主席に対し朝鮮事件の報復的行為をみざる
よつ各県長に嚴重訓令方要求について
臧主席に対し朝鮮事件の報復的行為をみざる
第四一三號（暗）
七日臧主席ヲ往訪シ吉林宛貴電第一六號ノ次第ヲ然ルヘク
説明シタル上此際朝鮮ニ於ケル事件ノ反動トシテ當地方ニ
於テ在住鮮人ニ對シ報復的行為ヲ見ルニ於テハ益々事態ヲ

者一名負傷者十餘名被害商店十餘戸、又京城ニ於テハ重輕
傷及損害ヲ受ケタルモノ百餘名ニテ仁川鎮南浦等ニテモ同
様ノ事件アリ尙又六日發電通ニ依レハ平壤ニ於テハ華僑死
者三十七名重傷五十七名輕傷百四十一名警察ニ收容セラレ
タルモノ約八百名ノ多數ニ上ル趣ニテ事態極メテ險惡ナル
ニ付テハ重光公使ヨリ至急日本政府及朝鮮總督ニ電報ノ上
華僑ノ生命及財產ノ保護ニ付遺憾ナキヨ期セラレタシ
大臣、北平、奉天、關東長官、朝鮮總督へ轉電セリ

213 昭和6年7月7日 在安東米沢領事より
幣原外務大臣宛（電報）
哈爾賓ヨリ滿洲里、齊々哈爾ヘ問島ヨリ琿春、百草溝、頭
道溝、局子街へ轉電アリタシ
セリ

ス許可スヘキ旨ノ保證ヲ取付ケ置クコト肝要ナリト存ス
代理公使、吉林、奉天、哈爾賓、間島、北平、南京、關東
長官、朝鮮總督ヘ轉電セリ

211 昭和6年7月7日 在南京太田（一郎）領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）
在朝鮮華僑の生命財産保護を求める王外交部
長依頼につき重光宛電報
南京 7月7日前發 本省 7月7日後着
第四〇八號（暗）
本官發支宛電報第三八八號（至急）
七日江華本ヨリ電話ニテ朝鮮ニ於ケル華僑襲撃事件ニ關シ
王部長ニ於テ至急重光公使ニ面會致シタキコトアリ今週ハ
何時來京サルヤト問合セ來レルニ付來京未定ナル旨答ヘ
タル處江ハ更ニ本官ノ來訪ヲ求メタルニ付往訪シタル處王
部長ノ命ニ依ル趣ヲ以テ貴代理公使ニ對シ不取敢左ノ通傳
達方依頼セリ

朝鮮各地ノ中國領事ヨリノ公電ニ依レハ元山ニテハ華僑死
者一名負傷者十餘名被害商店十餘戸、又京城ニ於テハ重輕
傷及損害ヲ受ケタルモノ百餘名ニテ仁川鎮南浦等ニテモ同
様ノ事件アリ尙又六日發電通ニ依レハ平壤ニ於テハ華僑死
者三十七名重傷五十七名輕傷百四十一名警察ニ收容セラレ
タルモノ約八百名ノ多數ニ上ル趣ニテ事態極メテ險惡ナル
ニ付テハ重光公使ヨリ至急日本政府及朝鮮總督ニ電報ノ上
華僑ノ生命及財產ノ保護ニ付遺憾ナキヨ期セラレタシ
大臣、北平、奉天、關東長官、朝鮮總督へ轉電セリ

擴大シ憂慮スヘキ結果ニ立至ル事ナキヲ保セサルヲ以テ至
急各縣長ニ對シ鮮人ノ保護ニ付遺漏ナキ様嚴重訓令セラレ
タキ旨要求シタルニ臧ハ御話ノ次第ハ充分諒承セリ自分ヨ
リハ既ニ五日鮮人居住地方ノ縣長ニ對シ一樣ニ「萬寶山事
件ニ關シ種々ノ謠言アリ中鮮人間誤解ノ發生ヲ免カレサル
處同件ハ目下吉林當局ニ於テ然ルヘク交渉シツツアル次第
モアリ遼寧各地方ニ於テハ鮮人ノ保護ニ充分注意ノ上無益
ニ事故ヲ起サシムル勿レ」トノ訓電ヲ發シタルカ御話ノ次
第モアリ必要ニ依リテハ更ニ命令スヘシトテ右電報原文ヲ
内示セリ

支、北平、南京、在滿各領事、關東長官、朝鮮總督ニ轉電
道溝、局子街へ轉電アリタシ

新義州で朝鮮人の中國人家屋への投石事件發生
並びに安東にも中国人避難し来る模様について

安 東 7月7日後発
本 省 7月8日前着

第一〇二號（暗）

萬寶山問題ニ關聯シ朝鮮ニ於ケル朝鮮人ノ中國人ニ對スル報復的暴行ハ新義州ニモ波及シ昨六日夜中國人家屋ニ投石

暴行シテ八、九名ノ負傷者ヲ出シ本七日モ亦野菜畑ニ在リシ中國人ニ暴行ヲ加ヘ四、五名ノ負傷者アリ爲ニ昨夜來新

義州及其附近在住中國人陸續トシテ當地ニ避難シ來リ本日

中ニハ三、四千名ニ達スル見込ナルヲ以テ本官ハ警察署長

ト協議シ極力警察官ヲ督勵シテ嚴重警戒取締ニ當ラシメ又

朝鮮人會ニ命シテ在住朝鮮人ノ自重ヲ促サシムル一方海關長ヲ往訪シテ此際稅關吏ニ於テ慎重ナル態度ヲ執リ些細ナ

ル行違ヨリ大事ヲ起スカ如キコトナキ様部下ニ對シ嚴重示

達方申入ルト共ニ更ニ縣長ヲ訪問シ支那街居住鮮人ノ保護及中國人側ノ輕舉妄動取締方要望シ置キタリ只今迄ノ所

支那街ニテ鮮人ノ中國人ヨリ暴行ヲ受ケ負傷セルモノ三、四名ナルカ本日午後附屬地境界ニ於テ一小事ヨリ鮮支人數百名集合相對峙シテ不穩ノ形勢ヲ呈シ雙方ヨリ警察官ヲ急

派シテ漸ク事ナキヲ得タル事件アリ日下中國側ニ於テハ避

護及中國人側ノ輕舉妄動取締方要望シ置キタリ只今迄ノ所

支那街ニテ鮮人ノ中國人ヨリ暴行ヲ受ケ負傷セルモノ三、四名ナルカ本日午後附屬地境界ニ於テ一小事ヨリ鮮支人數百名集合相對峙シテ不穩ノ形勢ヲ呈シ雙方ヨリ警察官ヲ急

派シテ漸ク事ナキヲ得タル事件アリ日下中國側ニ於テハ避

護及中國人側ノ輕舉妄動取締方要望シ置キタリ只今迄ノ所

支那街ニテ鮮人ノ中國人ヨリ暴行ヲ受ケ負傷セルモノ三、四名ナルカ本日午後附屬地境界ニ於テ一小事ヨリ鮮支人數

百名集合相對峙シテ不穩ノ形勢ヲ呈シ雙方ヨリ警察官ヲ急

派シテ漸ク事ナキヲ得タル事件アリ日下中國側ニ於テハ避

護及中國人側ノ輕舉妄動取締方要望シ置キタリ只今迄ノ所

支那街ニテ鮮人ノ中國人ヨリ暴行ヲ受ケ負傷セルモノ三、四名ナルカ本日午後附屬地境界ニ於テ一小事ヨリ鮮支人數

百名集合相對峙シテ不穩ノ形勢ヲ呈シ雙方ヨリ警察官ヲ急

派シテ漸ク事ナキヲ得タル事件アリ日下中國側ニ於テハ避

護及中國人側ノ輕舉妄動取締方要望シ置キタリ只今迄ノ所

支那街ニテ鮮人ノ中國人ヨリ暴行ヲ受ケ負傷セルモノ三、四名ナルカ本日午後附屬地境界ニ於テ一小事ヨリ鮮支人數

百名集合相對峙シテ不穩ノ形勢ヲ呈シ雙方ヨリ警察官ヲ急

派シテ漸ク事ナキヲ得タル事件アリ日下中國側ニ於テハ避

護及中國人側ノ輕舉妄動取締方要望シ置キタリ只今迄ノ所

難民ノ收容ニ血眼トナリ劇場、宿屋等ヲ徵發手配スルト共ニ公安局總動員ニテ警戒ニ任シ不祥事ノ未然防止ニ全力ヲ盡シ居ルモ現下鮮支人ノ感情ニ鑑ミ茲數日間ハ最モ危險ナルヘシト憂慮セラル

代理公使ヨリ上海、南京へ轉報アリタシ

代理公使、北平、奉天、長春、吉林、間島、關東長官、朝鮮總督ヘ轉電シ、遼陽、鐵嶺、牛莊、鄭家屯、哈爾賓ヘ暗送セリ

214 昭和6年7月8日 廣原外務大臣より
在中国重光臨時代理公使宛(電報)

中国公使の朝鮮事件に関する日本側報道振り

批難に対し應酬について

本 省 7月8日発

第二二八號

本八日在本邦中國公使本大臣ヲ來訪シ鮮内ニ於ケル鮮人ノ中國人迫害ノ報道ニ言及シ中國人ノ損害ハ調査セサレハ的確ナル所判明セサルモ甚大ナルカ如ク認メラル處國民政府トシテハ之力爲ニ中國内ニ於テ中國人ノ報復運動ノ起ル

實ナルモ右ハ反對黨又ハ自分ノ外交方針ニ反對ナル一部ノ者ノ言分ニシテ政爭ニ餘波タルニ過キ少クトモ大新聞ニ在リテハ本件ヲ萬寶山事件トハ切離シ當方ノ非ハ非トシ卒直ニ日本側ヨリ遺憾ノ意ヲ表シ被害者ニ對シ相當ノ撫恤ヲ行フヘシト謂フカ如キ公正ナル論說ニ一致シ居ルコトハ御承知ノ通ナリ本件被害者ニ對シ損害賠償ヲ支拂フカ如キハ法理論トシテ根據ナキノミナラス又事實上ニ於テモ現ニ間島方面ニハ朝鮮人ニシテ中國人又ハ軍警ノ爲ニ損害ヲ被リタル者頗ル多キニ拘ハラス未タ何等賠償ヲ受ケ居ラサル次第ナレハ其ノ實行ハ政府部内ニ於テ必ス異論アルヘント雖少クトモ自分トシテハ賠償トハ離レ氣ノ毒ナル犠牲者ニ對シテハ相當撫恤シ度シト思ヒ居レリ尙朝鮮人問題ニ關シ何等カノ便法ヲ設クル必要アリトノ點ニ付テハ全然同感ナリト應酬シ置キタリ

南京、漢口、廣東ニ轉電シ上海ニ轉報アリ度

奉天、吉林、長春、哈爾賓、間島、北平、天津、濟南、青島ニ轉電セリ

在歐米各大公使、聯盟事務局ニ轉電セリ

215 昭和6年7月8日

幣原外務大臣より
在中國重光臨時代理公使他、奉天、
吉林、間島、ハルビン、北平、青島、
漢口、廣東各公館長宛

各地方における対日空氣の緩和に努力方訓令

本省 7月8日発

合第三八九號（至急）

在滿鮮人問題ニ付我方ノ希望スル所ハ彼等力現地ニ安住シ
テ放任サレタル土地ノ水田化ヲ計ル等中國側ニモ貢獻スル
趣旨ニ依リ所謂共存共榮ヲ期スルノ外他意無ク萬寶山事件
モ此ノ方針ヲ以テ解決ニ努メ來レル次第ニシテ同事件ハ近
ク解決ノ曙光ヲ見ルニ至レル處之ヨリ曩同事件等ニ關聯シ
在滿同胞ノ壓迫ニ憤慨セル各地朝鮮人ハ在留中國人ニ對シ
報復的行動ニ出テントスル氣配アリシヲ以テ總督府ニテハ
昭和二年ノ前例モ有リ成行ヲ重視シ嚴重警戒ヲ加ヘタルモ
三日頃ヨリ京城、仁川ヲ中心トシテ各地ニ中國人迫害事件
續發シ四日夜京城郊外ニ於テ双方衝突ノ結果朝鮮人一名中
國人ノ爲メニ撲殺セラレ更ニ五日夜平壤ニ於テ數千ノ群衆
突如支那街ヲ襲ヒ警察官ニ於テ極力暴民ノ鎮壓竝ニ中國人
ノ保護ニ努メタルモ總督府ノ詳報ニ依レハ其間中國人死者
ノ解説

八十八名重輕傷者百二名ニ及ヒ朝鮮人ニモ死者一名重輕傷
者七名ヲ出シ警察官モ亦數名負傷スルニ至レリ其他各地ニ
於テモ中國人死者數名ヲ出セル模様ナリ

總督府ニテハ目下全力ヲ舉ケテ事態ノ鎮靜竝被害者ノ救護
ニ努メツツアル次第ニシテ暴行者ニ對シ法規ノ命スル所ニ
從ヒ嚴正ナル處斷ヲ爲スヘキハ勿論中國人ノ死傷者ニ對シ
テモ人道上ノ見地ヨリ同情ヲ寄セ善後策目下銳意考究中ナ
ルニ付テハ貴官ハ以上ノ事情御含ミノ上形勢ニ應シ貴地方
ニ於ケル對日空氣ノ緩和乃至惡化防止ニ付最善ノ努力ヲ拂
ハレ度シ

在華各公館全部（但成都雲南赤峰ヲ除ク）朝鮮總督府關東
長官ニ轉電セリ

（代理公使ヘハ）南京、蕪湖、蘇州、杭州へ轉電シ上海ニ
轉報アリ度シ

（奉天ヘハ）安東、牛莊、遼陽、鐵嶺、鄭家屯へ轉電シ海
龍、撫鹿、通化、新民府へ通報アリ度シ

（吉林ヘハ）長春ニ轉電シ農安ニ轉報セシメラレ度シ

（間島ヘハ）各分館ニ轉報アリタシ

（哈爾賓ヘハ）齊齊哈爾、滿洲里へ轉電アリタシ

（北平ヘハ）天津及張家口へ轉電アリ度シ

（青島ヘハ）濟南及芝罘へ轉電シ妨子張店博山へ轉報アリ
タン

（漢口ヘハ）九江、沙市、宜昌、長沙、重慶、鄭州へ轉電
アリタシ

（廣東ヘハ）福州、廈門、汕頭へ轉電シ香港へ轉報アリ度
シ

（ケリ）事重大ナルニ付原因タル萬寶山問題ノ至急解決ノ必
要及鮮人排斥問題等御訓電ノ趣旨ヲ申入レ又田代領事宛拙
電第一三號ノ提案ニ付回答ヲ求メタルカ熙等ノ應答大要左
ノ如シ

一、參謀長ハ陶賴昭附近ニ於ケル鮮農ノ退去強要ニ付テハ
何等情報ニ接シ居ラサルモ元來吉林省政府ハ毫モ鮮人
排斥ノ意嚮ヲ有セス唯萬寶山鮮農ノ水田ニ付テハ手續
上違法ナルヲ以テ省政府トシテ之ヲ承認シ得サル立場
ニ在ルモノナルカ田代領事力奉天ニ於ケル張作相林總
領事間ノ約束ヲ無視シテ警察官ヲ撤退セラレタシト云ヒタ
得ヌ廉ニシテ元來日本警察力開放地外ニ出テ現地保
護ヲ爲スハ不法ナルニ付之ヲ撤退セラレタシト云ヒタ
ルニ付現地保護ノ適法ナルヤ否ヤノ問題ヲ論シテモ茲
ニハ無益ナルカ田代領事ハ共同調査開始ト同時ニ約束
通り警察官ヲ撤退シタルモ其後籌備處長ハ田代領事ト
ノ面接ヲ回避シ又暴民ノ取締ニ付責ニ任セサル爲同領
事ニ於テ自衛上已ムナク再ヒ警察官ヲ派シタルモノナ
リト説明シ處長ノ誠意ナキコトヲ指摘シタルニ參謀長
ハ支那暴民ノ取締方ニ付テハ昨六日縣長ヲ召致シテ嚴

216 昭和6年7月8日

在吉林石射總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

熙參謀長と會見し万宝山問題の至急解決と朝
鮮人排斥問題等につき申し入れについて

吉林 7月8日前發
本省 7月8日後着

第四三號（暗、至急）

貴電第一五號七日正午接到午後三時ノ約束ニテ熙參謀長
(施履本同席)ト會見シ平壤ニ於ケル騒擾ノ模様ヲ告ケ
(詳細ハ不明ナルモ支那側被害ハ死傷約百三十名鮮人側モ
死傷者相當アル見込又我警察官ノ負傷モ多數ナリト話シ置

(2)
重訓令濟ニシテ支那側ニテハ極力取締ヲ爲スニ付再ヒ
彼等ノ押寄セルコトハ無カルヘシト信スト答へ尙今後
田代領事トノ面接ヲ避クル如キ無責任行爲ナキ様處長
ニ注意方ヲ承諾セリ

本官ハ萬寶山事件ニ依リ朝鮮内民心激昂タルニ至ル廣
アルコトヲ囊ニ施主任ニ注意シ置キタルニ事遂ニ茲ニ
至レリ尤モ外務省ヨリ汪公使ニ對シテモ述ヘラレタル
通リ日本側ニ於テハ華僑ノ保護ニ全力ヲ盡シ居リ此上
トモニ鮮人ノ暴行ヲ取締ルハ勿論ナルカ若シ支那側ニ
於テ報復運動ヲ爲スカ如キコトアリテハ愈重大化スル
ニ付斯ル運動ハ充分取締ラレタシト念ヲ押シテ要求セ
ルニ參謀長ハ朝鮮ノ事態ニ鑑ミ右ノ如キ運動ハ絶対ニ
起ラサルヘシトハ斷言出來サルモ若シ斯ノ如キ運動ア
ルトキハ極力取締ルコトスヘシト答ヘタルニ付本官
ハ運動發生後ノミナラス運動ノ發生セサル様取締ラレ
タシト申入レタルニ參謀長ハ勿論其方針ナリト答ヘタ

三、朝鮮ノ騒擾ニ鑑ミ萬寶山問題ノ急速解決ノ愈必要ナル
所以ヲ説キ本官ノ提案ニ付回答ヲ求メタルニ對シ參謀

(3) 背丸二枚

エムナク本官提案ノ次第ヲ張作相ヘ打電シ回答アリ次第本官ヘ通知シ越スコトニ承諾ヲ與ヘ尙問題ノ解決未解決ニ拘ラス事態ノ紛糾ヲ阻止スル爲萬寶山ノ現場ニ於テ不祥事件ヲ發生セシメサル様吳々モ注意シ我方派遣警察官ノ目的ハ自衛以上ニ出テサルモノニシテ我方ヨリ手出シヲスルコト萬無キコトヲ繰返シ説明シタルニ參謀長ハ暴民ノ取締ハ充分爲スヘン尙鮮農ノ工事等ハ事件ノ解決迄必ス現在ノ儘保存スルコトヲ保障スヘキニ付日本側ニ於テ此際警察官ノ撤退及工事ノ中止ヲ

爲シ吳レスヤト申出タリ之ニ對シ本官ハ夫力爲ニハ即チ本官ノ提案ヲ容レラレタク其諾否ヲ聞カサル内ハ警察官ノ撤退及工事ノ中止ヲ御約速(東カ)出來スト拒絶シタリ以上ハ四時間ニ亘リ曲折ヲ經タル會談ヲ要約シタルモノナ

ルカ對談中本官ノ得タル印象ニ依レハ參謀長ハ朝鮮事件ノ重大ナルニ驚キ其原因タル萬寶山事件ヲ獨斷解決スルコトニ怖氣ヲ振ヒ急ニ逃ヶヲ張リタルモノノ如ク又作相ヨリノ肯定的回答モ覺束ナシト存セラル（參謀長ノ話ニ依レハ作相ハ學良見舞ノ爲昨五日郷里錦州ヨリ北平ニ赴キタリト云

ラハ病學良ヲ説キ同人ヲシテ萬寶山ノ問題ハ自分健康回復後必ス鮮農ニ對シテモ満足スル様解決ヲ引受クル旨聲明セシメ得レハ其聲明ヲ信賴シテ萬寶山ヲ退クノ態度ニ出テ以テ事態ノ緩和ヲ圖ルニアリト存ス（尤モ省政府筋ヨリ出テタル情報トシテ張學良死亡説再ヒ當地ニ於テ内密ニ傳ヘラレ居レリ聞込ノ儘御参考迄）

奉天、長春、哈爾賓、間島、農安、北平、代理公使、南京、朝鮮總督、關東長官へ轉電セリ

昭和6年7月8日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

朝鮮排華事件に關し日本官邊筋より正確なる
報道発表方必要なる旨意見具申

上 海 7月8日後發
本 省 7月8日後着

第六一〇號（暗）

ス尤モ張作相サヘ承知ナラハ當方ニ於テ解決モ差支ナ
カルヘキニ付早速打電指圖ヲ仰クヘシト言ヒタルヲ以
テ本官ハ作相ノ指圖ヲ仰ク力如キ時間ノ要ル措置ニテ
ハ更ニ二、三日ヲ經過スルコトトナリ事態ハ其間ニ更
ニ悪化スルナキヲ保セスト力説シタルモ參謀長ハ打電
スレハ一兩日中ニ必ス返事來ルヘシトテ逃ヶヲ張リテ
レ居レリ聞込ノ儘御参考迄)

奉天、長春、哈爾賓、間島、農安、北平、代理公使、南京、朝鮮總督、關東長官へ轉電セリ

217
昭和6年7月8日
在中国重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

報道発表方必要なる旨意見具申

本省 7月8日後着 上海 7月8日後発

上海 7月8日後發
本省 7月8日後着

今般ノ朝鮮ニ於ケル民國人ニ對スル暴動事件ニ付テハ當地内外新聞ニ於テモ詳細ナル報道ヲ爲シ居レルカ特ニ漢字紙

長ハ右提案ニ付テハ一昨五日以來施主任ト種々研究シ自己一人ノ責任ニ於テ至急回答スル考ナリシモ朝鮮事件發生ノ爲東北政務委員會ノ命令ニ依リ萬寶山事件ヲ省政府ヨリ同委員會ニ更メテ正式ニ報告シタル關係上

其他民國系ノ新聞ハ一齊ニ右暴動ハ日本政府默認ノ下ニ行ハレタルモノニシテ日本ハ満洲ニ於ケル野心ヲ遂ケ同時ニ露國ノ増大セル威力ニ對抗セソコトヲ策シ居リ満洲駐屯師團ノ增加常駐及朝鮮ニ一箇師團ノ增駐等ノ決定モ皆之ニ關

ハルビン 7月8日前發
本省 7月9日前

聯スル次第ナリ朝鮮ヨリハ續々民國人ヲ驅逐シ居レリトノ趣旨ノ政府筋ヨリ出テタル意見ラシキ報道ヲ掲ケ居レリ尤モ當方ヨリハ必要ナル訂正ヲ試ミ居レリ他方外交部ニテハ在京城張總領事（王部長ト密接ノ關係アリ）ヨリノ長文ノ報道ニ接シ右ハ相當針小棒大ノモノノ如シ日本官邊筋ヨリ正確ナル報道ヲ此際速ニ發表セラレ京城ニテハ張總領事ニ又東京ニテハ汪公使ニ非公式ニテモ之ヲ通報シ置ク必要アルヘシト思考ス

北平、奉天、吉林、長春、天津、濟南、青島、廣東、福州、漢口ヘ轉電シ南京、上海ヘ轉報セリ

218 昭和6年7月8日 在ハルビン大橋總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

鍾交涉員に対し万宝山事件の飛火防止および
居留民保護方申し入れについて

ル外平時ハ夏期重要ナル河ノ舟行ヲ杜絶シ増水期ニハ氾濫シテ上流支那農ハ立退クノ外ナキニ至ルヘシ此點ハ誰カ見テモ問題ナキ處ニテ假ニ國際聯盟ニ持出スモ支那側ノ勝利

疑ナシ依テ自分ノ考ニテハ鮮農ハ敦化方面ニ耕地ヲ有スルコトニモアリ支那農ヨリ旅費ヲ支給セシメ原地ニ歸ラシムルカ或ハ萬寶山ニテ島作リヲ爲サシムルノ外ナシト信ス本官、問題カスク發展シタル今日日本側トシテ餘り讓歩スルコトハ日本ノ輿論ノ攻擊ハ兎ニ角朝鮮統治ニモ影響アルヘキヲ以テ左様ノ解決案ハ不可能ナルヘシ但萬一鮮人力自發的ニ水田經營ヲ斷念スルカ如キ場合吉林政府ヨリ一年分

ノ生活費ヲ給スルカ如キ方法ヲ考慮セラレタルコトアリヤ鐘⁽³⁾夫レ位ノ事ナラハ實行シ得ヘキ事ノ様思考ス

本官、要スルニ本件窮極ノ原因ハ支那側ハ日本力鮮人ヲ東三省侵略ノ工具ト爲シツツアリト邪推シ日本ハ吉林力鮮人追出シ方針ヲ固守シツツアリト思ヒ居ル爲ニシテ此誤解力解ケサル以上今姑息ナル妥協案ニ依リ一時ヲ糊塗スルモ禍根ハ永久ニ殘ルヘシ

鐘⁽⁴⁾自分ハ吉林ノ役人ナル事十數年ナルモ吉林力鮮人驅逐策ニ出テツツアル事ヲ知ラス其然ラサルハ張作相力敦化方

第一二二號（暗）
往電第一二〇號ニ關シ

朝鮮ニ於ケル暴動ハ當地方ニ影響シ奥地鮮人ニ對スル報復的迫害熾烈トナル虞アルノミナラス黨部及共產派活動等ニ依リ支那人ノ本邦人ニ對スル感情相當尖銳化シ過日明治洋行ノ暴動事件ヲ起ス迄ニ至リ居ル程ナル折柄ナレハ今後何等カノハズミニテ當地居留日鮮人ニ對スル報復的暴動起ラスヤト懸念スル向モアルニ付七日鍾交涉員ヲ往訪ノ上結果ノ重大ヲ指摘シテ萬寶山事件ノ飛火防止及居留民保護方嚴重申入レタル後純然タル個人ノ資格ニテ左ノ通會話セリ

本官。萬寶山事件カ未解決ノ儘遷延スル爲朝鮮ニ於テ意外ノ變事ヲ惹起シ當地方ニ於テモ緩化及扶餘事件等發生シツツアル處日本ト東三省トハ蘇聯ト言フ共同ノ敵ヲ前ニシテ斯様ノ問題ノ爲仲違スルハ遺憾ニ堪ヘス依テ問題ノ擴大ヲ防ク爲根源タル萬寶山事件ヲ至急解決スルヲ要スヘシ鍾⁽²⁾問題ノ土地ハ地形上水田トシテ不適當ニシテ鮮農カ三丈幅ノ溝ヲ掘リ伊通河ヲ堰止ムル結果他人ノ地權ヲ侵害ス

本官、果シテ然ラハ此際奉天邊リニ日支共同委員會様ノモノヲ設ケテ鮮人ニ關スル當方面ノ問題ヲ附議シテ差當リ問題ノ擴大化ヲ防キ進テ鮮人問題ヲ全般的ニ討議シテ永久的解決法ヲ講セシメテハ如何
鐘⁽³⁾個人トシテ極メテ贊成ナルモ東北政務委員會トノ關係モアリ實現ハ困難ナルヘシ
支、北平、奉天、吉林ニ轉電セリ

219 昭和6年7月9日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

京城郊外において朝鮮人が中國人に撲殺され
たとあるところ真偽問合せ

本省 上海 7月9日前發
7月9日後着

第六一一號（暗、至急）
貴電合第三八九號ニ關シ

四日京城郊外ニ於テ鮮人民國人双方衝突ノ結果朝鮮人一名中國人ノ爲ニ撲殺セラレタリトアル處右ハ電文ノ誤りカトモ存セラルニ付果シテ事實ナリヤ御回電ヲ請フ

220 昭和6年7月9日 在中国重光臨時代理公使宛（電報）

京城郊外における朝鮮人中国人間衝突事件に
関する總督府側詳報について

本省 7月9日発

第二三一號（暗、至急）
貴電第六一一號ニ關シ

事實誤無シ總督府報告ニ依リ當時ノ情況詳報スレハ左ノ如シ

三日京城ニ於テハ夕刻來數千ツツノ群衆各所ニ集合シ形勢漸次惡化シ來タリシモ警戒嚴重ノ爲メ退散セルカ四日午後九時三十分頃京城府外新堂里ニ於テ百餘名ノ鮮人ト約四十名ノ支那人ト衝突シ鮮人一名撲殺セラレ支那人一名重傷ヲ負ヒ其他數ヶ所ニ於テ支那民家ニ放火セル事件アリ仁川ニ於テモ四日午後十一時頃數千ノ群衆警戒員ニ反抗シ來タリ

外里派出所ヲ襲ヒ此レヲ破壊シ電線ヲ切斷スル等益々暴動スル情勢アリタルヲ以テ警察官ニ武裝セシメ嚴重警戒ニ努メタル結果午前三時全ク解散セシメタリ

尙支那人平壤ニ於テハ事件後避難民約四千名ハ平壤大同兩警察署醫學講習所道立病院及平壤府外支那人經營素麵工場ニ收容保護中ナリシ處七日午後四時半三千ノ群衆前記工場ヲ襲撃シ事態急迫セルヲ以テ止ムナク警察官ニ於テ發砲退散セシメタリ爲ニ鮮人一名射殺サレタリ

221 昭和6年7月9日 在南京太田領事代理より
林出からの對王正廷会談内容の重光宛報告

本省 7月9日後発
南京 7月9日前着

第四一七號（暗）
本官發支宛電報第三九七號

第五一六號（暗）
本官發支宛電報第三九〇號ニ關シ

九日王正廷ニ面會シ御訓示ノ如ク朝鮮事件ニ對スル帝國政府ノ態度ヲ説明シ朝鮮各地ニ於ケル警備一層嚴重ニセル故林出ヨリ

九日王正廷ニ面會シ御訓示ノ如ク朝鮮事件ニ對スル帝國政府ノ態度ヲ説明シ朝鮮各地ニ於ケル警備一層嚴重ニセル故林出ヨリ

外交部公文ニ對シ不取敢左記ノ趣旨ヲ回答シ置キ度キニ付御含ミ置アリ度ク尙政府ノ訓令ニ依ル正式ノ回答ハ別電第六一七號ノ趣旨ニテ然ルヘント思考セラル處何分ノ御回答ヲ請フ

「公文申越ノ趣旨ハ早速帝國政府ニ移牒シ置キタリ尙今回ノ暴行事件ハ萬寶山事件ニ關係アリ右事件ニヨリ感情ヲ刺戟セラレタル一部朝鮮人ニ於テ今回ノ不詳事ヲ惹起セルモノト認メラル處朝鮮總督府ハ當時管内各地ニ於テ嚴重ナル警戒ヲナシ事件ノ發生ヲ防止スルニ努メタルモ不幸ニシテ平壤其他二三ノ地方ニテ不詳事ノ發生ヲ見タルモノナリ朝鮮總督府ハ事件發生後ニ於テモ全力ヲ盡シテ事態ノ鎮靜ヲ圖ルト共ニ被害民國居留民ハ勿論一般民國人ノ身體及財產ノ保護ニ付最善ノ措置ヲ講シ來リ幸ニシテ事態漸ク平穩ニ歸スルニ至レリ右不取敢回答ス」

222 昭和6年7月10日 在中国重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

朝鮮内華僑襲撃事件に対する朝鮮總督府の措置に
關する外交部への回答につき請詢

別電 七月十一日發在中国重光臨時代理公使より

幣原外務大臣宛第六一七号
右日本側正式回答文案

(別電)

上 海 7月11日後発

吉 林 7月10日後発
本 省 7月11日前着

第六一七號(暗)

帝國政府ハ今回ノ事件發生ヲ頗ル遺憾トス本件ニ依リ在留民國人ノ蒙リタル生命及財產ノ損害ニ對シテハ調査ノ上慰問救恤ノ方法ヲ講スヘク又暴行者ニ對シテハ國法ニ照ラシ一々嚴重ナル處分ヲナス筈ナリ尙這回ノ事件ハ在滿鮮農ニ對スル地方官憲ノ壓迫問題ニ關係アリ特ニ萬寶山ニ於ケル鮮人農場ニ關スル紛糾ニ依リ感情ヲ刺戟セラレタル一部朝鮮人ニ於テ事件ヲ惹起スルニ至レルモノト認メラルモ右ハ全然不測ノ出來事ニシテ事件前後ニ於ケル朝鮮總督府側ノ措置ニ何等手落ナカリシ次第ハ前記七月十日ノ本使書簡中ニ言及セル通ナリ

223 昭和6年7月10日 在吉林石射總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

施主任より万宝山問題は省政府が獨自に地方的解決を進めること困難な旨の電話について

224 昭和6年7月11日 在中國重光臨時代理公使宛(電報)

王外交長に朝鮮排華事件に関する日本側回
答文手交に際し万宝山事件の速かな地方的商議申し入れ方訓令

別電 七月十一日發幣原外務大臣より在中国重光臨時代理公使第三五号

日本側回答文案
本省 7月11日發
第二三四號(至急)

南京發貴官宛電報第三九〇號ニ關シ

外交部長公文ニ對シテハ別電第二三五號ノ趣旨ニ依リ回答

シ置カレ度シ

尙右回答ヲ手交セラルニ際シ貴官ハ外交部長ニ對シ今回ノ鮮内事件ハ一般鮮人力萬寶山其他滿洲各地ニ於テ同胞力中國官憲ヨリ壓迫セラレ居レリトノ強キ印象ヲ受ケ憤激ノ餘越軋ノ行動ニ出テタルハ爭フヘカラサル事實ニシテ昭和二年中國官憲ノ鮮人壓迫問題喧傳セラレタル際ニモ鮮内ニ際亦鮮内ニ動搖アリタルハ以テ鮮人一般力如何ニ在滿同胞ノ境遇ニ敏感ナルカヲ證スルニ足ルヘシ要スルニ中國官憲

カ濫リニ鮮人ヲ壓迫スルモノニ非サルコトヲ會得セシメ得サル限り今後モ斯ル不祥事件ノ絶無ヲ期シ難ク其度毎ニ報

復ニ對スル報復起ル様ニテハ紛糾底止スル所ヲ知ラス遂ニ日支國交上由々數大事ヲ釀スコトアルヘキヲ恐ル、帝國政府ノ在滿鮮人ノ爲ニ希望スル所ハ彼等力安住シテ農耕ニ從

第四九號(暗)
往電第四三號ニ關シ

十四日午後四時施履本ヨリ左ノ通電話シ越セリ
九日附錦州發張作相ヨリ省政府へ回電アリ之ニ依レハ萬寶山問題ハ既ニ中央及東北政務委員會ニ報告シタルコトナルヲ以テ中央ノ訓令ナクシテハ省政府ニ於テ地方的ニ解決談ヲ進メ難シト總領事ニ返事アリタシトノコトナリ右不取敢哈爾賓、長春、農安、奉天、問島、北平、南京、支、關東長官、朝鮮總督ヘ轉電セリ

事シ平和的生活ノ途ヲ得ルト同時ニ其努力ニ依ル荒蕪地ノ開拓ハ艱テ中國側ノ利益トモナリ以テ眞ノ共存共榮ノ實ヲ舉ケムトスルノ外他意無シ然ルニ中國側ニ於テハ動モスレハ此等鮮人ノ移住ヲ以テ日本ノ政治的野望ニ基ク力如ク誤解スルモノト見エ鮮人追放策ノ實行ト認メラルル案件頻發スルノ傾アルハ帝國政府ノ夙ニ遺憾ニ感シ居ル所ナリ我方トシテハ前記ノ方針ヲ基礎トシテ双方ノ間ニ何等カノ地方的(八年分久)ヲ協定シ速カニ現在ノ事態ニ調整ヲ加ヘ度キ所存ナル處中國側トシテモ本問題ニ對シテハ種々ノ考慮及申分モアルヘキニ付今回ノ出來事ヲ機會ニ双方ニ於テ篤ト腹藏ナキ意見ノ交換ヲ遂ケ右辦法ニ關スル協定ヲ遂クルコト致度就テハ成ル可ク速カニ東三省當局ニ對シ日本側ト接洽シテ本件協議開始方適當ノ訓令ヲ發セラレ度キ旨申入レラレ先方ノ回答振回電アリ度

別電ト共ニ南京、上海、燕湖(無カ)、蘇州、杭州ヘ轉電アリタシ

別電及冒頭電報ト共ニ在支各公館(成都、雲南、赤峰ヲ除ク)香港、新嘉坡、

朝鮮總督

關東長官

在歐米各大公使聯盟事務局へ轉電セリ

(別電)

本省 7月11日発

第二三五號(至急)

(一) 今回朝鮮内ニ起リタル事件ノ爲在留中國人中尠カラサル犠牲者ヲ出シタルコトハ該事件ノ動機如何ヲ問ハス帝國政府ノ深ク遺憾トスル所ニシテ事件發生ト同時ニ朝鮮總督府官憲ニ於テ全力ヲ擧ケテ暴行ノ防壓ト中國人ノ保護ニ膺リタル結果今日ニ於テハ既ニ鮮内各地ヲ通シ事態殆ント平穩ニ歸シ避難中國人モ漸次其業ニ復歸シツツアルハ帝國政府ノ私カニ意ヲ安シスル所ナリ

(二) 中國人ノ被害狀況ニ付テハ往々甚シキ誇大ノ報道行ハル處朝鮮總督府公報ニ據レハ平壤其他ノ被害地ヲ通シ又加療中死亡シタル者ヲ加ヘ死者一百名^{負擔者}一百二十名ナルカ帝國政府トシテハ國法ニ從ヒ加害者其他ノ暴行者ヲ嚴正ニ處斷スヘキハ勿論ナルト共ニ被害者ニ對シテハ

深ク同情ヲ寄セ法理又ハ實例ノ見地ニ拘泥セスシテ速力ニ救恤ノ途ヲ講セムカ爲既ニ其手配中ナリ
(三) 朝鮮總督府ニ於テハ萬寶山事件ノ反映トシテ鮮内人心動搖ノ氣配見ユルヤ曩ニ昭和二年滿洲ニ於ケル鮮人力中國官憲ヨリ種々ノ壓迫ヲ受ケタル際鮮内各地ニ騒擾ヲ惹起シタル事例ニ鑑ミ當初ヨリ其成行ヲ重大視シ外務當局ニ對シ萬寶山事件ノ至急解決方ヲ電請スルト同時ニ鮮内各道當局ニ對シテ再三嚴重警戒方ヲ通牒シ京城仁川等ニ於テ鮮支人ノ衝突起ルヤ直チニ特別警戒ヲ施シ京畿道ニ對シ警察官二百二十名ヲ增派シ必要ニ應シ之ヲ武裝セシメテ極力其ノ鎮壓ニ當ラシメ又平壤ニ對シテハ應援警察官百十五名ヲ急派シ武裝警察署^(管)三百五十名ヲ以テ警戒及防壓ニ當ラシメタルノミナラス同地駐屯聯隊ヨリ將校以下五十一名ヲ補助憲兵トシテ出動セシムル等萬全ノ措置ヲ執リ事件後負傷者ニ對シテハ應急加療ヲ施シ中國避難民モ夫々警察署其他ノ安全場所ニ收容シテ出來得ル限りノ保護ヲ加ヘタリ其間京城ニ於テ警察官派出所カ鮮人群集ノ爲メニ破壞セラレ、仁川ニ於テ警察官三十五名負傷シ又平壤ニ於テ警察官カ已ムヲ得ス發砲シテ鮮人群集ヲ退

散セシメ爲メニ鮮人一名射殺セラレ警察官ニモ三十五名ノ負傷者ヲ出スニ至レル等ノ事實ニ徵スルモ日本官憲力

如何ニ全力ヲ傾ケテ暴民ノ取締及中國人ノ保護ニ努メタルカヲ知ルニ足ルヘク從テ我官憲ノ事前及事後ニ於ケル

取締及保護措置ニ付間然スル所アリタリト爲スノ當ラサルコトハ國民政府ノ諒得セラルヘキ所ナリト信ス

四國民政府ニ於テハ日華兩國國交ノ大局ヲ顧念シ中國内地ニ於テ中國人ニ不穩ノ言動無キ様嚴重取締ラレ居ル趣ノ

處右國民政府ノ配意ハ帝國政府ノ全然感ヲ同フスル所ニシテ事態ノ再發ヲ防止スル爲帝國政府トシテ今後共最善ノ努力ヲ拂フヘキハ勿論ナルカ中國各地ニ於テ昨今頻リニ誇大且挑發のナル新聞報道其他ノ宣傳行ハレ居ルニ鑑ミ國民政府ニ於テモ此上トモ適切ナル取締ヲ講セラレムコト希望ニ堪ヘス(以上)

225 昭和6年7月11日 在吉林石射總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

吉林省政府との万宝山問題交渉一旦打切りについて

十日朝峰畑本官ヲ來訪シ昨日張作相副官孫ト共ニ來長シタ

第五〇號(暗)
往電第四九號ニ關シ
本省 7月11日後着 吉林 7月11日後発

張作相ヨリノ回答ハ北平發閣下宛第二五七號電報ト矛盾スルモ兎ニ角省政府ヨリ右發電ノ如ク通知アリタル以上本件ヲ之以上省政府ニ交渉スルモ效果無キニ付一旦打切りトセリ
哈爾賓、齊々哈爾、長春、奉天、間島、北平、南京、支、關東長官、朝鮮總督ニ轉電セリ

226 昭和6年7月11日 在長春田代領事より
幣原外務大臣宛(電報)

張作相副官孫が万宝山問題交渉に關し作相に復命して円満解決方に尽力したいと内話について

長春 7月11日後発
本省 7月11日後着

ルカ孫ハ作相ノ命ニ依リ吉林長春ニ於ケル中國官憲ノ意図
ヲ詳細聽取スルト共ニ長春官憲ノ本件報告ハ常ニ中國側ノ
主張大部分ヲ占メ日本側ノ意図奈邊ニアリヤ判明セサルニ
付本官ニ面會シ眞意ヲ承知シタルキ意図ナルヲ以テ同人ト面
談セラレタキ旨申出アリタルカ孫ハ本官トノ會見ヲ外間殊
ニ中國側ニ知レサル様致度キ趣ナリシヲ以テ當地日本旅館
ノ一室ニ於テ午餐ヲ共ニシタル後（藏本、峰烟同席）本官
ヨリ從來ノ經過竝ニ當方ノ意図ヲ詳細説明スルト共ニ種々
意見ノ交換ヲ爲シタルカ其際孫ノ打明話シトシテ漏シタル
要旨左ノ通御参考迄

一、周籌備處長ハ舊式法律家ニシテ融通性ニ乏シク交渉機
關トシテ不適任ナリ今朝モ同人ニ面會シタル處數時間三亘
リ理窟計リヲ述ヘ立テ解説辦法ニ觸レス自分モ呆レタル
始末ニシテ今回ノ問題カ斯クコジレタルモ同處長ノ交渉宜
シキヲ得サリシヲ免レス

二、周ハ榮財政廳長、馬縣長ハ熙參謀長ノ夫々姻戚關係ニ
アル處參謀長財政廳長ノ關係平素ヨリ惡ク從テ周ト馬トノ
關係モ面白カラサル有様ニシテ中國側ノ内情極メテ複雜セ
ルモノアリ張作相モ今回ノ問題カ地方的解決付カススクリ
文、奉天、吉林へ轉電セリ

文写送付について
公信第二九五號（機密）
（7月18日接受）
昭和六年七月十一日

在中華民國
臨時代理公使 重光 葵

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿
朝鮮ニ於ケル民國人傷害事件

昭和六年七月十一日附南京太田領事代理宛機密公第二〇六
號信寫送付

（別 紙）
公信第二〇六號（機密）

昭和六年七月十一日

在中華民國

臨時代理公使 重光 葵

在南京

領事代理 太田 一郎殿

朝鮮ニ於ケル民國人傷害事件

本件ニ關シ外交部ヨリ七月七日附公文ヲ以テ申越アリタル

次第ハ電報ヲ以テ御報告アリタル處右ニ對スル當方不取敢
回答茲ニ別添送附スルニ付外交部ニ轉達方可然御取計相成
度
本信寫送付先 外務大臣 北平 上海 奉天 吉林 哈爾賓 青島 廣東 長春 朝鮮總督
(別添)
外第三六號
以書翰啓上致候。陳者。本月七日附貴翰ヲ以テ今般朝鮮ニ
於テ勃發セル朝鮮人ノ民國居留民ニ對スル暴行事件ニ關シ
日本官憲力事前ニ之ヲ制止セス又事後ニ於テ適切ナル民國
居留民保護ノ措置ヲ講セサリシハ民國政府ノ遺憾トスル所
ナル旨及本使ヨリ日本國政府ニ對シ本件暴行制止ノ爲適切
ナル措置ヲ講スル様至急電報アリタキ旨御申越ノ次第有之
聞悉致候。

御申越ノ趣旨ハ早速帝國政府ニ移牒致置キタルニ付御諒知
相成度候尙今回ノ朝鮮人暴行事件ハ遼寧省萬寶山内朝鮮人
農場ニ對スル民國地方政府ノ壓迫問題ニ關係アリ右問題ニ
依リ感情ヲ刺戟セラレタル一部朝鮮人ニ付テ今回ノ事件ヲ
惹起セルモノト認メラル處朝鮮總督府ハ當時管内各地ニ

大化スルニ至リタル裏面ニハ中國側官憲内部ニ何等カノ事
情伏在セルニ非スヤトノ疑念ヲ有シ自分ヲ派遣スルニ至レ
ル次第ナリ

三、張作相ハ二日ノ衝突事件以來非常ニ痛心且激昂シ居リ
目下ノ處萬寶山事件ノ急速解決ハ到底望ミ難キ狀況ナルモ
側近者ヨリ現局面ヲ之以上悪化セシメサル様極力勸說中ナ
リ本件當初ヨリノ經過ヲ靜觀スルニ前述ノ如ク中國側ノ内
情極メテ複雜ナル上當地官憲ノ遣口ニ遺憾ノ點多ク過去ノ
コトハ別トシ水田工事モ出來上リタル際之ヲ破壊スルカ如
キコトハ面白カラサルニ付何レ自分（孫）歸奉ノ上作相ニ
對シ復命ヲ爲シ何トカ圓滿解決方ニ付盡力致度ク交渉ハ出
來得ル限り地方的ニ行フコト必要ナルヲ以テ具体案成ル時
ハ特二人ヲ當地ニ派シ領事ト籌備處長トノ間ヲ斡旋取纏ム
ルノ外ナカルヘシ
文、奉天、吉林へ轉電セリ

227 昭和6年7月11日 在中国重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛

朝鮮における排華事件に関する外交部宛回答

於テ嚴重ナル警戒ヲ爲シ此ノ種事件ノ發生ヲ未然ニ防止ス
ルコトニ努メタル次第ナルモ不幸ニシテ平壤其ノ他二三ノ
地方ニ於テ不祥事ノ發生ヲ見ルニ至レルモノニ有之候。朝

鮮總督府ハ事件發生後ニ於テモ全力ヲシテ事態ノ鎮靜ヲ
圖ルト共ニ被害民國民留民ハ勿論一般民國居留民ノ身體及
財產ノ保護ニ付最善ノ措置ヲ講シ來リ幸ニシテ事態漸ク平

穩ニ歸スルニ至レル次第ニ有之候。右不取敢回答申進旁本
使ハ茲ニ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候。

使ハ茲ニ歸スルニ至レル次第ニ有之候。右不取敢回答申進旁本
使ハ茲ニ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候。

敬具。

昭和六年七月十一日

日本帝國臨時代理公使 重 光 葵

國民政府外交部長 王 正 廷 殿

228 昭和6年7月11日 堀切（善次郎）拓務省朝鮮部長より
谷亞細亞局長宛

朝鮮總督府警務局長に朝鮮排華事件に対する
措置振りにつき照会

公信機密第十一號

昭和六年七月十一日

拓務省

（對支交渉上必要アリ）鮮支人衝突事件發生前貴府及關係
地方廳ニ於テ事件ノ發生ヲ防止センカ爲豫メ採ラレタル措
置茲ニ事件發生後貴府及關係地方廳特ニ京城、仁川、平壤、
新義州等ニ於テ防止又ハ鎮壓ノ爲ニ採ラレタル措置具体的
ニ至急御回示相成度シ

（別紙乙號）

昭和六年七月十一日午前〇時十分受

朝鮮部長殿

朝鮮警務局長

答本府ニ於テハ萬寶山事件發生ノ當初ヨリ其成行ニ注意シ
ツツアリタルヲ以テ六月十一日貴官及亞細亞局長ニ宛テ萬
寶山問題ノ成行如何ニ依リテハ鮮内ニ相當ノ影響ヲ齎ラス
可キヲ以テ是レカ善處方ヲ豫報シ置キタル處七月二日長春
領事ヨリ日支官憲衝突シタル旨受報セルニヨリ警戒中ナリ
シカ七月三日午前一時仁川ニ於テ輕微ナル暴行事件アリタ
ルヲ以テ直ニ各道ニ警戒方通牒シ同日夜ヨリ翌朝迄仁川京
城ニ於テ稍騒擾ノ程度ニ至リタルヲ以テ再度各道ニ注意警
戒方通牒シ四日夜ニ至リ事態益惡化シタルニヨリ三度各道
ニ通牒シタルモノナルカ五日夜十時頃ニ至リ平壤ニ於テ事
件勃發スルニ至レリ爾來事件發生地タル京城仁川及平壤ニ
ノ多キ地方ニ對シテハ成ル可ク集團セシメテ保護ニ遺憾ナ
キヲ期シツツアリ又警備力ノ充實ニ關シテハ京畿道ニ對シ
事件發生ト同時ニ應援警察官二百二十ヲ急派シ又平壤ニ對シ
テハ更ニ豫防警戒ニ關シ隨時指揮シツツアルカ特ニ支那人

城ニ於テ稍騒擾ノ程度ニ至リタルヲ以テ再度各道ニ注意警
戒方通牒シ四日夜ニ至リ事態益惡化シタルニヨリ三度各道
ニ通牒シタルモノナルカ五日夜十時頃ニ至リ平壤ニ於テ事
件勃發スルニ至レリ爾來事件發生地タル京城仁川及平壤ニ
ノ多キ地方ニ對シテハ成ル可ク集團セシメテ保護ニ遺憾ナ
キヲ期シツツアリ又警備力ノ充實ニ關シテハ京畿道ニ對シ
事件發生ト同時ニ應援警察官二百二十ヲ急派シ又平壤ニ對シ
テハ更ニ豫防警戒ニ關シ隨時指揮シツツアルカ特ニ支那人

外務省亞細亞局長 谷 正之殿

鮮支人衝突事件ニ對スル措置ニ關スル件

首題ノ件ニ關シ朝鮮總督府警務局長宛別紙甲號寫ノ通照會
候處本日同局長ヨリ別紙乙號寫ノ通返電有之候條及通報候
也

（別紙甲號）

鮮支人衝突事件ニ對スル措置ニ關スル件

拓務省朝鮮部長

朝鮮總督府 警務局長殿

229 昭和6年7月12日 在長春田代領事より
幣原外務大臣宛（電報）

水路復旧工事完了し通水をみたる旨並び万宝

山朝鮮人水田組合創立について

長 春 7月12日後発
本 省 7月13日前着

第六六號（暗）

破壞水路ノ復舊工事ハ其後中國官民ノ妨害モナク平穩裡ニ
進捗シ昨十一日ヲ以テ完了通水ヲ見ルニ至リ鮮農五十餘名
ハ歡喜シテ萬歳ヲ連呼シ我等ハ永久ニ此地ヲ死守スヘシト

絶叫スルモノアリ引續キ堰堤手直シ工事等ヲ行ヒツツアリ
尙本日堰堤附近ニ於テ萬寶山鮮人水田組合創立規約ノ逐條
審議役員ノ選舉等ヲ行ヒタル趣ナリ
我警察官ニ於テハ上水工事完成セルヲ以テ尙一層之力保護
警戒ノ任ニ當リツツアリ

代理公使、奉天、吉林、哈爾賓、關東長官、朝鮮總督、北
平、南京、間島、農安へ轉電セリ

230 昭和6年7月15日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

臧主席を往訪し朝鮮排華事件に際し在東北朝
鮮人保護に尽力方謝意表明等について

奉天 7月15日前發
本省 7月15日後着

第四三四號（暗）

十四日本官歸任ノ挨拶ヲ兼ネ臧主席ヲ往訪シ今次ノ朝鮮ニ
於ケル鮮支人衝突ハ兩國ニトリ潤ニ不幸ノ出來事ニシテ遺
憾ニ堪ヘサルカ貴主席力在滿鮮人ノ保護ニ注意シ治安ノ維
持ヲ計ラレ事件ノ發生ヲ防止セラレタル勞ヲ多トスル旨述

231 昭和6年7月15日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

張作相を訪問し東北治安維持に対して謝意表
明と同時に在東北朝鮮人保護方要請について

奉天 7月15日後發
本省 7月16日前着

第四四〇號（暗）

⁽¹⁾ 七月十五日張作相ヲ訪問シ歸任ノ挨拶ヲ述ヘ本官ノ不在中
萬寶山事件力意外ニ發展シ延テ朝鮮ニ於ケル鮮支人ノ衝突
トナリ多數中國人ノ被害ヲ見ルニ至リタルハ頗ル遺憾トス
ル所ナリ幸ニ朝鮮側ニ於テモ既ニ完全ニ治安恢復セラレ平
穡狀態トナリ東北地方ニ於テモ貴督辨及臧主席等ノ訓令ニ
依リ各地方ノ取締不行届軌外行動ノ發生ヲ見ルニ至ラサル
ハ不幸中ノ幸ニシテ中日兩國ノ爲メ誠ニ欣幸ニ堪ヘスト述
ヘタル處作相ハ自分モ其後錦州ニ赴キ更ニ北平ニ副司
令ヲ訪ネ十數日間當地ヲ離レ其間ニ今回ノ事件發生ヲ見ル
ニ至リ遺憾トル所ナルカ東北地方ニ於ケル治安ハ固ヨリ
之ヲ維持スルニ全力ヲ注ガサルヘカラズ飽迄軌外行動ノ發
生防止ニ努力スヘキヲ以テ安心アリタシト答ヘタリ依テ本

ヘタル處臧ハ安東ヲ始メ省内各地方官憲ニ對シテ兩度ニ亘
リ特ニ嚴重治安維持ノ訓令ヲ發シアリ今後トモ事件ヲ發生
セシメサル様努力シツツアル旨述ヘタルニ依リ本官ハ朝鮮
シムル様注意セラレ度ク彼ノ鮮人雇傭章程ノ如キハ最モ鮮
人ニ惡感ヲ與フルモノナレハ差當リ之力實施ヲ見合ス様取
計ハレ度ク尙今次ノ如キ不祥事件ノ再發ヲ根絕シ東北ニ於
ケル鮮支兩國民ヲシテ安ソシテ業ヲ樂シマシメ以テ中日兩
國ノ共存共榮ヲ計ルタメ此際何等根本的解決ヲ計ル便法ヲ
相互ニ研究スルヲ得策ト考フル處貴意如何ト尋ネタルニ臧
ハ其點自分モ個人トシテハ素ヨリ贊成ナルニ付慎重考慮ス
ヘシト答ヘタルニ依リ本件ハ東北政務委員會ニモ附議シ實
現ヲ見ル様努力アリ度キ旨附言シ置ケリ
支、北平、南京、吉林、長春、哈爾賓、安東、朝鮮總督、
關東長官へ轉電セリ

支、北平、南京、吉林、長春、哈爾賓、朝鮮總督、關東長官へ轉電セリ

232 昭和6年7月15日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

張作相が万宝山事件に關し地方的解決に異議なく吉林にて本件解決并法研究方を希望について

奉天 7月15日後発
本省 7月16日前着

第四四一號（暗）

往電第四四〇號談話ニ引續キ作相ニ對シ今回ノ不祥事件ノ直接原因トナレルハ萬寶山問題ナルカ本件ハ先月本官歸朝前貴督辨ト圓滿交渉ニ依リ地方的ニ解決ヲ計ルコトニ了解シアリタルニ不幸ニシテ其後御承知ノ如キ發展ヲ見ルニ至リ延ヒテ鮮内ノ暴動事件トナリタルカ本件ハ素ヨリ鮮内暴動事件ト性質ヲ異ニシ地方的小事件ナルヲ以テ出來得ル丈早ク之ヲ平和的ニ解決スルヲ得策ト思考ス貴意如何ト質セル處作相ハ先月下旬伊通河堰止工事以後ノ事件進發ノ様子ヲ詳述シ中國側ノ態度ヲ辯明シタル後本件ヲ地方的ニ解決

スルコトハ素ヨリ望ム所ナリト述ヘタルニ依リ吉林總領事ノ報告ニ依レハ施外交主任ハ本件ハ外交部ニ移牒シタルヲ以テ同總領事ト交渉スル勿レト貴督辨ヨリ訓令アリタル由ナルカ果シテ然ルヤト問ヘルニ作相ハ南京政府ヨリ本件ノ顛末報告方ヲ督促シ來レルニ依リ詳細報告ニ及ヒタルカ右報告ニ對シ未タ何等ノ訓令ナキヲ以テ其旨ヲ石射總領事ニ傳ヘタルモノト見ユト述ヘタリ依テ貴督辨ハ本件交渉ヲ南京ニ移スコトヲ希望セサルモノト思考セラル處南京政府ノ訓令ヲ待ツコトセハ自然地方的ニ解決セントスル貴意ト矛盾スルコトナル虞アリ南京ヨリ反對ノ訓令アラハ兎モ角然ラサル限り之ヲ地方的ニ解決セシムル方可ナラスヤト説ケルニ異議ナント述ヘタリ

依テ先ツ非公式ニ吉林總領事ト貴方トノ間ニ何等力解決辦法ヲ研究セシムル事トシテハ如何ト提議セルニ作相ハ右ニ異議無キモ石射總領事ハ曩ニ田代領事ト協議ノ上四ヶ條ノ條件ヲ提議シ來レル處右希望ノ如キハ中國側ノ考ヘトノ距離頗ル遠キモノアリトテ盛ニ不平ヲ述ヘ立テタルカ結局吉林ニ於テ石射總領事ト在哈爾賓特派交渉員鐘毓トノ間ニ非公式ニ本件解決ノ辦法ヲ研究セシムル事トスヘク鐘毓ニ對

（満鐵情報）

本月八日東北政務委員會ハ北平副司令部ヨリ萬寶山事件ニ關スル張學良ヨリノ訓令ニ接シタルカ文意大様左ノ如クナリト云フ

一、和平手段ニ基ツキ政務委員會及吉林省人民政府責任ヲ以テ之力解決ニ當ルヘシ

二、日本ハ軍事的行動誘起ニ努ムヘク若シ一旦開戦セハ東北ノ敗北ハ必定ニシテ日本ハ勝利ノ結果トシテ賠償ヲ要求スヘン故ニ日本側ノ出方如何ニ拘ハラス我方ハ常ニ公理ニ據ツテ之ニ對スヘシ

三、延吉、和龍、琿春、汪清等ノ延邊地方ニ於テハ特ニ注意シ再ヒ不祥事件ヲ發生セシムルコト勿レ

四、東北現在ノ狀態ニ於テハ日本ニ對シテハ宜シク隱忍自重スヘシ若シ日本トノ間ニ戰端ヲ開カハ共產黨、廣東派等ハ必ス紛々トシテ起ツヘクスケテハ收拾スヘカラサル局面ノ展開ヲ見ルヘシ

五、若シ中日間ノ開戦ヲ見ハ露支交渉ハ必然停頓シ南北満洲ハ容易ナラサル狀態ニ陥ルヘシ

233 昭和6年7月15日 中谷關東府警務局長より
永井外務次官宛

万宝山事件に關して東北政務委員會および吉林省
政府が解決に當るべき旨等張學良の訓令について
關機高支第七七三四號ノ二
(7月20日接受)

昭和六年七月十五日

關東廳警務局長

外務次官殿

萬寶山事件ニ關スル張學良ノ訓電

以上

234 昭和6年7月16日 常原外務大臣より
在奉天林總領事宛(電報)

在東北の朝鮮人問題は法権、帰化両問題と共に
に解決方必要だが過渡的弁法として共同調停

委員会組織提示について

本省 7月16日発

第一四五號(暗)

本大臣發在華代理公使宛電報第二三四號後段ニ關シ

在滿鮮人ノ「ステータス」ニ關スル根本問題ハ法権問題交
涉ニ際シ滿蒙ニ關スル特殊事項ト一併シテ解決スルカ又ハ
歸化問題ト關聯シテ之ヲ調整スルノ外無キモノト認メラレ
右ニ付テハ客年來關係各官廳トノ間ニ種々協議ヲ重ね來レ
ル次第ナルカ近年滿洲各地ニ於ケル中國側ノ鮮人壓迫ノ情
勢茲鮮内事件ノ經緯ニ鑑ミ右根本的解決ニ至ル迄現在ノ事
態ヲ放置スルヲ許ササルモノアルヲ以テ差當リ事端ノ發生
ヲ防止スル見地ヨリ東三省當局トノ間ニ鮮人問題ニ關スル
過渡的辦法ヲ協定スルノ必要ヲ認メ居ル處右ハ緊急ノ場合
我方ノ自衛措置ヲ拠棄スル所以ニアラサルハ勿論ナルト共
ニ中國官憲ヲシテ我方ノ眞意ヲ理解セシムル趣旨ニモ合致

スヘシト考ヘラル而シテ當方トシテハ右過渡的辦法ハ凡ソ
次ノ諸點ヲ骨子トスルヲ適當ト認メ居リ

(一)中國官憲ニ於テ在滿鮮人ノ追放又ハ定着禁止ノ如キ方針
ニ出テサルハ勿論中國人民ヲ使嗾若ハ壓迫シテ右ト同様
ノ結果ニ立到ラシメサル一方鮮人側モ亦其ノ居住營業上
中國側ニ損害ヲ與ヘ又ハ其他ノ迷惑ヲ及ホサス以テ共存
共榮ノ實ヲ^(舉カ)與クルコトヲ原則トスルコト

(二)日華兩國ハ在滿鮮人問題ニ關シ國交ニ影響ヲ及ホスヘキ
事端ノ發生ヲ防止スル爲夫々出先官憲及地方官憲ニ右原則
ヲ充分徹底セシメ之ニ依リ各自國民ヲ指導セシムルコト

(三)右ニ不拘不幸ニシテ鮮人ニ關スル問題發生シタル場合ニ
ハ該問題ノ性質ニ應シ平和裡ニ合理的の處理ヲ爲スヘク互
ニ實力ニ訴フルカ如キコトハ絕對ニ之ヲ避クルコト

(四)右平和的處理ニ當ラシムル機關トシテ一ノ共同調停委員
會ヲ組織シ双方ヨリ委員ヲ任命シ問題發生ノ都度現地ニ
移動シテ調查ヲ行ヒ(一)ノ原則ニ依リ公正ナル裁決ヲ爲サ
シムルコト

就テハ國民政府力果シテ冒頭往電我方提議ヲ容レ直チニ關
係當局ニ必要ノ訓令ヲ發シ得ヘキヤ明カナラサルモ右訓令
シムルコト

ノ有無ニ不拘地方實權者タル東三省當局ヲ動カシ前記方針
ニ依ル暫定的辦法ヲ協定スルノ必要ヲ認ムルニ付貴官ハ至
急張作相ニ面會シ本問題ニ關シ隔意無キ意見ノ交換ヲ遂ケ
タル上前記方針ヲ骨子トスル地方的暫行辦法ノ協定ヲ見得
ル様銳意先方ヲ誘導セラレ度シ

尙本件申入ニ對シテハ先方ニ於テ鮮人ニ對スル歸化權ノ許
容又ハ中國ノ警察課稅ニ服セシムヘキコト等ノ條件ヲ持出

スコトアルヘシト豫想セラル處歸化權ノ許容ハ鮮人問題
解決ノ一要素タルヘキハ之ヲ認ムルモ其ノ窮極ノ利害得失

茲之力許容ノ態様及時機等ニ付尙慎重ニ考慮ヲ要スル點少
カラス旁々急速ニ斷行スヘキ時機ニ達シ居ラス又警察課稅

ノ問題モ直チニ法權問題ニ關聯シ早計ニ決定シ難キ關係ア
リ是等重要問題ヲ論議シ居リテハ當面ノ必要タル過渡的辦
法ノ如キ容易ニ埒明カサル次第ナルニ付是等ノ根本問題ハ
今後徐ロニ之ヲ交渉スルコトトシ差當リ現在ノ事態ヲ基礎

トシ之ニ必要ノ調整ヲ加フルコトヲ目的トシテ中國側ト協
力シ度キ趣旨ナルコトヲ徹底セシムル様適宜布衍說示セラ
レ度シ

在滿各公館ニ轉電アリ度

二 万宝山事件関係

242

235 昭和6年7月16日 在中国重光臨時代理公使より

常原外務大臣宛(電報)

朝鮮人問題に関する我が方回答手交の際王外交
部長が中央において交渉の意向表明について

南京 7月16日後發
本省 7月17日前着

第六四三號(暗)

一、十五日南京ニ於テ外交部長ニ朝鮮事件ニ關スル我方回
答ヲ手交シタル後

貴電第二三四號ノ趣旨ヲ以テ地方當局ニ訓令方ヲ申入レタ
ルニ外交部長ノ回答振大要左ノ通

滿洲ニ於ケル朝鮮人問題ノ根本ハ朝鮮人ニ重國籍ト日本ノ
附屬地外警察權行使ニ依ル二重警察ノ問題ニアリ日本ハ朝
鮮人ノ希望スル歸化ヲ認メス右鮮人ニ對シテ警察保護ヲ延
長スル結果茲ニ兩國警察ノ衝突スルハ當然ナリニ重國籍又
ハ歸化問題ハ中央政府ノ問題ニシテ即チ朝鮮人問題ニ付テ

243

ハ中央ニ於テ交渉ヲ開始シタキ所存ナリ又地方ニハ外交ノ「コンミッショナー」アルモ之等ノ問題ヲ處理シ得ルモノナシ

二、右ニ對シ本官ハ右議論ノ内容ヲ今日弱ムルコトハ考へ

モノト思ヒタルニ付成ルヘク之ヲ避ケ朝鮮人ノ地方ニ於ケル待遇問題ノ如キアリ此種鮮人問題ニ付テハ事情ニ通スル

地方官憲ヲシテ之ニ當ラシムルコト然ルヘキ旨ヲ指摘シタルニ地方ニハ充分權限ヲ有スル適當ナル交渉員ナシ或ハ地方ノ事情通ヲ中央ニ呼寄セテ然ルヘシト答ヘタリ

三、本件ハ法權問題等ニ關聯シ早晚持上ル問題ニシテ滿洲ニ於ケル鮮人問題ノミヲ中央ニテ取上ケ交渉スルハ今回ノ暴動事件トモ關聯シ徒ラニ民國側ノ宣傳ニ材料ヲ與ヘ我方ニトリ極メテ不利益ト思考セラレタルニ付餘り深入リスルヲ避ケタリ要スルニ外交部長トシテ地方的交渉ヲ行フヘキモノハ外交部ノ任命セル「コンミッショナー」ナルモ彼ニ

充分ノ權限ヲ與フルコトヲ困難トスルモノノ如シ又假令右「コンミッショナー」ニ交渉ノ權限ヲ與フルコトヲ承諾スルモ地方官憲トハ關係極メテ薄キ右外交部ノ代表トノ間ニ我方ノ希望スル交渉ヲ進捗セシメ得サルヘシ滿洲ノ鮮人問ヲ避ケタリ要スルニ外交部長トシテ地方的交渉ヲ行フヘキ

ハ報告セス參謀長ニ丈ケ報告シ極祕トナシ居タル由ナル處最近哈爾賓其他ノ地方ノ支那紙ニ本官カ四個條ノ條件ヲ以テ省政府ニ交渉セリトノ記事頻出シタル爲^(續)鐘毓ヨリ施ニ對シ實否問合セアリタル由ニテ施ハ本官ニ對シ右消息ハ日本側ヨリ出テタルニ非スヤト質問セリ依テ本官ハ本月十日張主席ヨリ地方的考慮困難ノ旨回答(本省宛拙電第四三號)ニ接シタルヲ以テ茲ニ初メテ本官ヨリ四個條ノ私案ニテ交渉シ來レル次第茲ニ交渉ヲ切りタル旨本省其他關係各館ニ通知セリト答ヘ置キタルニ付支那側其他ヨリ右四個條ニ付何分ノ話出テタル節ハ右事情御含ミノ上然ルヘク應答セラル様致シタン

哈爾賓、農安、北平、間島、南京、支、關東長官、朝鮮總督ヘ轉電セリ

237 昭和6年7月16日 在吉林石射總領事より
幣原外務大臣宛

万宝山事件を朝鮮に報導せし金朝鮮日報長春

昭和六年七月十六日附在吉林石射總領事發信幣原外務大臣

題ニ付テハ外交部トハ關係無ク從來ノ通變則乍ラ地方有力者トノ實際的交渉ヲ續クルノ外無カルヘシ
北平、奉天、吉林、間島、哈爾賓、長春ヘ轉電セリ
上海、南京ヘ轉報セリ

236 昭和6年7月16日 在吉林石射總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

施履本に提出した万宝山問題解決案が石射限りの責任にて提案した経緯につき長春領事宛通報

第六一號(暗)
吉 林 7月16日後発
本 省 7月17日前着

第一四號
本官發長春宛電報

往電第一三號ニ關シ

拙電解決案ハ之ヲ施履本ニ提出スルニ際シ本官ハ右案ハ田代領事モ知ラス本官限リノ責任ニテ提案シ本省其他何レヘモ通知セサルモノナルニ付留守省政府限リノ責任ニテ受諾アリタシト申入レタル次第アリタル爲施履本ハ之ヲ鐘毓ニ

萬寶山事件調査ノ爲在京城謬文新聞朝鮮日報社ヨリ特派セラレタル同社新義州支局記者申榮雨ハ萬寶山實地視察ヲ了ヘタル後朝鮮日報長春支局長金利三ト同道シテ本月十日午後九時着吉長列車ニテ來吉シ商埠地鮮人旅館遠東號ニ宿泊滯在中ナリシガ申榮雨ハ去ル十三日午後五時五十分發吉長列車ニテ長春ニ引揚ゲ金利三ノミ殘留シ居タリ然ルニ先是十二日夕刻金利三及申榮雨兩名ハ旅館遠東號ヲ立出デ某支那料理店ニ晚餐ノ爲赴キ居タル留守中三名ノ鮮人遠東號ニ金利三等ヲ尋ねリタルモ不在ナリシヨリ同家主人李春根ヲシテ呼ビ來ラシメ直ニ金及申兩名ヲ連レ城内ニ立去リタル儘同夜ハ歸宿セズ翌十三日朝申榮雨ノミ遠東號ニ歸ヘリ頗ル恐怖ノ念ニ驅ラレ居タルモノノ如ク慌テ宿料ノ支拂ヲ爲シ同日午前八時發吉長列車ニテ長春ニ引揚ゲタルモノナルガ金利三ハ同日ハ依然歸宿セズ十四日夜十時過頃漸ク遠東號ニ歸來シタル處全身打撲傷ヲ負ヒ居タリト而シテ翌十五日午前八時發列車ニテ長春ニ歸去スベク停車場ニ赴キタルモ遂ニ出發刻限ニ遲レタルヲ以テ遠東號ニ引返シタル

ガ間モナク牧師韓瑞模、全永一等來訪シニ階客室ニ對談中同日午前十一時過頃一鮮人來リ同室ノ扉ヲ排シテ入口ニ立チ金利三ニ向ヒ所携ノ拳銃ニテ續ケテ三發射擊シ金ノ倒ルルヲ見テ屋外ニ飛出シ何レハ力逃走シタル此報ニ接シタル當領事館警察署ニ於テハ支那語ニ精通セル鮮人巡查朴昌廈ヲ即時現場ニ派遣シタル朴巡查ガ現場ニ到着シタル時ハ既ニ多數ノ制私服ノ巡警押懸ケ居リ門前街路ニハ多數ノ彌次馬集リ居リタルガ朴巡查ハ（私服洋服ヲ着ス）直ニ門内ニ入ラントスルヤ數名ノ支那巡警ハ之ヲ阻止セントシタルヨリ日本總領事館ノ警官ニシテ受命調査ニ來リタル旨ヲ告ゲタルモ日本警官何者ゾトテ耳ヲ藉サズ朴巡查ノ「ポケット」内ニ納メ居タル拳銃ヲ取上げ之ヲ繩縛シテ同家ニ居合セ逮捕セラレタル他ノ鮮人三名ト共ニ附近公安局分駐所ニ拉致シタリ先是前記ノ如ク同家入口ニテ巡警ト朴巡查トガ押問答ヲ爲シ居タル際私服セル一支那人ガ拳銃ヲ擬シテ群衆ヲ制止シツツアル中故意力過失力判明セザルモ發砲シタル爲群衆中ノ李某一支那人ニ命中負傷シタリ（現場目撃者ノ談ニ據レバ右發砲セル私服支那人ハ省會公安局候^候偵緝隊長ナリシト）

ハ拔キ取ラレ居レリ於茲田中署長ハ拳銃受領ノ際其ノ銃口ヲ検査セシニ該銃ハ領事館ノ備付品ニシテ新品ナリシ爲銃口内宛モ鏡ノ如ク手入サレ居リテ發砲セシ形跡ナカリシヲ以テ支那側立會人ノ面前ニ之ヲ示シ貴方ハ此ノ拳銃ニテ發射シタル疑アリト稱セラルモ該銃ニ何等發射ノ形跡ナク銃口鏡ノ如ク美麗ナリ爲念銃口ノ掃除ヲ爲シ供覽ストテ更ニ田中署長ハ持參セシ掃使器ヲ通ジタルガ銃口内ハ一點ノ汚點ヲ表ハサザリシヲ以テ詳細ニ説明ヲ加ヘ立會者ヲシテ見證セシメ引揚ゲタリ朴巡查所持品帶皮一本財布中ノ現金一圓餘ヲモ奪取セラレ居タリト

尙十六日附吉長日報紙上ニハ『鮮東亞報記者過害、行兇者

日巡查韓人朴昌廈』ト題シ射殺犯人ハ朴巡查ナリトノ捏

記事ヲ大々的ニ掲載シ居レリ

本件ニ對シテハ石射總領事ヨリ支那側ニ對シ右犯人ノ逮捕引渡方並ニ朴巡查不法逮捕凌辱ヲ加ヘタル責任者ノ戒飭謝罪方並ニ新聞記事ノ取消等ニ關シ抗議ヲ申込ム筈ナリ

金利三ノ被殺害原因其ノ他

訊問ニ對シ談リタル處下記ノ如シ

被害者金利三及支那人李某ハ負傷後直ニ満鐵經營東洋醫院ニ連レ込ミ手當ヲ施シタルガ金利三ハ右側腹部、腰部、左側腋窩部ノ三箇所ニ盲貫銃創ヲ負ヒ内出血甚シク同日午後一時遂ニ絶命シ李某ハ右側頸部ヨリ左肩胛部ニ貫通銃創ヲ受ケタルモ生命ニ異狀ナキ模様ナリ

現場ヨリ附近公安局分駐所ニ逮捕サレ行キタル朴巡查ハ拳銃ヲ携帶シ居タルヲ奇貨トン射擊犯人ナリトノロ實ヲ設ケ身體ヲ検査シテ拳銃ノ外彈丸十四發及財布等ヲ取上げ支那馬車ニテ省會公安局ニ押送シ此處ニテ足銃ヲ施シタル上不法ノ取調ヲ爲シタル後軍法處ニ移送シ同處ニテ更ニ發砲シタルニ相違ナカルベシ尙彈丸十四發ヲ所持シ居タルト云フガ六發外ナキカ如何ト詰問シタルモ朴巡查ハ日本警官ニシテ犯行後調査ノ爲命ヲ受ケ現場ニ赴キタルモノナルヲ以テ訊問ニ應ジ難シトテ反テ支那官憲ノ不法ヲ責メタル由ナリ然ルニ朴巡查ガ不法ニ逮捕セラルルヤ我總領事館ヨリハ小森書記生、田中署長同道シテ支那側ニ嚴重交渉シタル結果朴巡查ノ身柄ハ交渉署ニ送ラレ同處ニテ同日午後三十分頃漸クニシテ引渡ヲ受ケ連レ歸リタリ前ニ朴巡查ヨリ押收セル拳銃及物件ハ返還ヲ受ケタルモ其ノ中銃弾十四發中八發

『十二日夕刻旅館遠東號ニテ三人ノ不逞鮮人ヨリ城内牛馬行居住鮮人黃白河方下手ノ鮮人家屋内ニ運行サレテ其ノ儘監禁セラレ同所ニ居合セタル數人ノ不逞鮮人ヨリ汝ハ日本ノ密偵ニシテ日本人ノ使嗾ヲ受ケ萬寶山事件ニ就キ本國ニ虛報シ暴動事件ノ誘因ヲ作シタルハ不都合ナリトテ毆打脅迫ノ上謝罪聲明書ニ署名捺印ヲ強要セラレ之ニ應ジ且十五日朝離吉スルヲ條件トシテ漸ク許サレタルガ遠東號ニテ自分ヲ射擊シタル犯人ハ氏名ヲ承知セザルモ前記自分ヲ城内ニ連レ行キタル三人中ノ一人ニ相違ナシ早ク犯人ヲ逮捕シテ復讐サレ度シ』云々

一、然ルニ十五日附ノ支那新聞吉長日報紙上ニ「朝鮮日報記者ノ謝罪聲明書」トノ見出ニテ七月十四日附朝鮮日報長春支局長金利三名義ノ謝罪聲明書ノ全文ヲ掲載セルガ其ノ内容萬寶山鮮農等ハ不合理ノ鬭争道具ニ利用サルコトヲ欲セズ既ニ自ラ現場ヨリ退ク者多數アリ殘餘ノ鮮農ハ日警ノ制止ニ依リ自由退出スルヲ得ズ進退苦境ニ陥リ居レリ日警ハ鮮農ガ退去シテ現場ニ居ラザレバ對中交渉ノ材料ナキ爲退去ヲ制止スルモノナリ

等有ラユル中傷的文句ヲ羅列シ最終ニ萬寶山事件ハ日本領事館ノ使嗾ヲ受ケ本國ニ虛報シタル爲遂ニ兩民族ガ衝突スルノ慘境ニ至リタルコトヲ中韓兩民族ニ謝罪ス云々

右新聞記事ハ即チ前記不逞鮮人等ガ金利三ヲ黃白河方ニ監禁シ毆打脅迫ノ上認メシメタル聲明書ヲ吉長日報社ニ送付シ掲載セシメタルモノナリ尙當地發行支那新聞東北實業日報社ニモ右同様ノ聲明書ヲ送付シ來リタルモ都合ニ依リ掲載ヲ見合セタル由ナリ（東北實業日報社ニ送付サレタル聲明書原本ヲ當館員ニ於テ借覽シタルガ其ノ内容ハ吉長日報ノ分ト文句ニ相違ナク末尾ノ金利三名下ニハ捺印シアリ其ノ横ニ更ニ押印シアルヲ認メタリ）

以上ノ事情ニ依リテ之ヲ觀レバ該不逞鮮人等ハ支那官民ノ歡心ヲ買ヒ其ノ保護ヲ求ムベク萬寶山事件ノ通信報道ニ從事セル金利三ノ來吉ヲ機トシ（一説ニハ排日鮮人等ガ本月七日開催セル住民大會關係者等ノ組織セル萬寶山事件討究會ニ於テ金利三ヲ欺キ長春ヨリ呼寄セタリトノ說モアリ）

238 昭和6年7月17日

在吉林石射總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

万宝山事件は東三省全体の問題として弁法協議されるべき旨意見上申

吉林省 7月17日前發
7月17日後着

第六三號（暗）

奉天總領事發閣下宛往電第四四一號ニ關シ

林總領事作相間ノ話合ニ依リ本官及鐘毓ヲシテ非公式ニ萬寶山問題ノ解決ヲ研究セシムルコトトナリタル趣ノ處同問題ハ朝鮮事件ノ發生ニ依リ既ニ吉林省丈ノ地方問題トシテノ域ヲ脱シ東三省ニ於ケル鮮人ノ待遇ナル根本問題ト不可分的ニ關係附ケラルニ至リタルモノト思考セラルヲテ閣下發在支公使宛往電第二三四號及第二三七號後段ノ趣旨ノ如ク鮮人問題ニ付滿洲全体ニ亘ル辨法ヲ東三省外交當局ト研究協定シテヨソ萬寶山問題ハ具体的ニ解決ヲ見ルモノナルヘシ然ルニ當地ニ於テ彼我研究交渉スル場合自然鮮人ニ關スル居住權及歸化問題、法權問題等ニ觸ルニ至ルヘク外交部特派員トハ言フモノノ事實ニ於テ吉林省丈ノ取

之ヲ監禁脅迫シテ前記謝罪聲明書ヲ徵シ支那新聞紙上ニ發表シタルモ金利三方此儘長春ニ歸去スルニ於テハ此ノカラクリノ内面事情ヲ日本側ニ暴露スルナキヤヲ惧レ且ハ親日鮮人等ニ對スル見セシメノ爲特ニ商埠地ニ於テ之ヲ殺害スルニ至リタルモノノ如ク推察セラル早斷ヲ許サツルモ或ハ右ノ如キ聲明書ヲ徵シタルコトニ對シテハ支那一部官憲ト共謀シ居レルモノノ如クモ聯想サレザルニモアラズ

一、右下手犯人ニ就テハ引續キ内査中ナルガ只今迄ノ内偵ニ依レバ金利三ヲ監禁脅迫シテ聲明書ヲ徵シタルハ權秀貞（軍法處通譯密偵）一派ニシテ下手犯人ハ權ノ部下ト目サレ居レリ

一、被害者金利三（本名金永錫、當三十五年）ハ獨身者ニシテ長春ニハ親戚ナク其ノ本籍ハ平安南道平原郡ナルモ實文ハ江原道華川郡ニ居住シ居レルヲ以テ總領事館警察署長ヨリ所管警察署長ニ被殺害ノ通知ヲ兼不死體處分方ニ就キ傳達方打電シ死體ハ本日當地朝鮮人會ニ於テ日本共同墓地ニ假埋葬ニ付シタリ

239

昭和6年7月17日

幣原外務大臣より
江（洪杰）中国臨時代理公使宛

代理人、北平、南京、長春、哈爾賓、奉天、朝鮮總督、關東長官へ轉電セリ

汪公使帰國中の館務取扱い了承について

普通第四三號

昭和六年七月十七日

在奉天

総領事 林 久治郎

在本邦

外務大臣男爵 幣原 喜重郎

外務大臣男爵 幣原 喜重郎

萬寶山問題ニ關スル情報報告ノ件

中華民国臨時代理公使 江 洪杰殿

在京中華民国公使帰國ノ件

以書翰啓上致候陳者本月十一日附書翰ヲ以テ在本邦貴國特命全權公使汪榮寶閣下ヨリ同公使ハ朝鮮ニ赴キ事件調査ノ

上御帰国相成コトトナリ本月十三日御出発相成候ニ付暫ク

貴下ニ於テ臨時代理公使トシテ貴館々務ヲ御処理相成ヘキ旨御通知ノ趣了承致候此段回答旁本大臣ハ茲ニ貴下ニ向テ

敬意ヲ表シ候

240 昭和六年七月十七日 在奉天林總領事より
機密第六〇四號 幣原外務大臣宛

敬具

万宝山問題に関する張作相主席等吉林省官憲の意向につき吉林満鉄公所嘱託峯旗の報告

(7月29日接受)

(別紙)

萬寶山問題ニ對スル張作相主席以下吉林官憲ノ意図

A、劉樹春ノ談話及劉之鋼ノ報告

劉樹春ハ七月五日錦州ヨリ歸來シ同時ニ劉氏ノ弟之鋼氏（萬寶山事件ニ劉氏ノ旨ル受ケテ盡力中ノ人）來吉シ樹春氏ハ萬寶山ニ於ケル正面衝突ノ報ヲ受ケタル以後ニ於ケル張主席以下官場方面ノ抱ケル意図ヲ語レルカ左ノ如シ

1、日本側ノ態度ハ未タ承諾ヲ受ケ居ラサル土地ヲ武力ヲ以テ强行占領セルモノニシテ公理ヲ超越セル非道ナシ

ル遣り方ナリ交渉ノ餘地無シ絶対ニ承認セス
2、日本側ノ非違ニ對シテ武力ヲ行使シテ争フ手段ハ絶對ニ之ヲ行ハス其事情ヲ中外ニ宣明シテ飽ク迄堂々ト之ヲ争フヘシ

3、現地ニ於ケル鮮人ニ對シテハ之ヲ拒絶スル態度ニ出スルト共ニ省内在住鮮人ニ對シテモ漸次壓迫ヲ加フルコト、新來ノ鮮人ニ對シテハ其ノ居住ヲ拒否スルコト
4、今回ノ件ニヨリテ鮮人ノ背後ニハ恐ル可キ侵略的野望ト實力ヲ以テ實現セントスル強力ナル日本官民ノ附隨セルコト判明シタルニヨリ益々反日的工作ニ全力ヲ傾ケテ其力防衛ニ努ムルコト

以上ノ如キ決意ヲ爲スニ至レリ目下ハ其原因ヲ爲セル鮮人ハ寧ロ問題ノ埒外ニ置キ日本側ヲ以テ目標トスル如ク漸次變化シ來レリ但シ反対方法ハ決シテ表面的ニ表ハサス日本ノ爲スカ儘ニ放任スルカ如キ態度ニ出テ專ラ消極的ニ拒否スル方法ヲ取ルニ至ルヘシ右ノ如キ有様ナルヲ以テ今直ニ之ヲ改善セシメント努力シテモ無効ナル可ク予等公平ナル見解ヲ有シ居ル者ノ意見ハ此際表明スルヲ得サル如キ有様ナリ

萬寶山問題ニ關シ吉林満鐵公所嘱託峯旗ノ提出セル吉林官憲意見概要寫別紙ノ通リ何等御参考迄ニ報告ス

本信寫送付先 吉林總領事

昭和六年七月十七日

在奉天

総領事 林 久治郎

次ニ劉之鋼氏ハ樹春ノ弟ナルカ樹春氏ノ内意ヲ受ケ反対農民中孫某一派ノ鎮撫ニ當リ來リンモノナルカ其經過ヲ報告ノ爲來吉セリ同氏ノ報告ニヨレハ郝永徳ハ三年以前ニ萬寶山ニ永田計畫ヲ爲シ不成功ニ了リ今回ハ二回目ナルカ郝ハ長春ニ於テ以前娼家ヲ營ミ若干財ヲ積ミシ遊ビ人ニテ地方ニ名望信用無ク萬寶山方面ニモ何等根據無ク僅カニ水田候補地ノ地主ニ、三ト知合ナリシヲ利用シ今回ノ件ヲ企テシモノニシテ水田設定地ハ廢地ナル爲縛リシモ水路用地ノ内約六支里程ノ熟地ノ地主ハ郝ノ言ヲ借用セス相談容易ニ整ハサリシ際郝ハ縣知事ニ對シ水田開設許可願ヲ提出シ其中ニ水路トシテハ從來廢地トナリ居ル溝形低地約二支里ノ水溝ヲ掘ル云々トアリ、縣ニ於テモ差支無キモノトシテ許可ヲ言明セルモノナリ聞ク所ニヨレハ公安局ト縣知事方面ニ約四千元ノ贈賄ヲ爲セント言フ、縣知事ヨリ許可ノ言明ヲ得タルヲ以テ郝ハ高壓的ニ不承諾地主ニ臨ミ反感ヲ買ヒシカ今問題發生ノ原因ヲ爲セシモノニシテ地主連ヨリ告訴ヲ提起シ遂ニ問題ヲ大キクセシモノナリ。鮮人ノ事ニ就テハ郝ハ最初地方民ニ對シ歸化鮮人十名位ヲ定住セシムト言ヒテ納得セシメ

居リシモノナルカ俄カニ風俗言語習慣ヲ異ニスル民族力豫想以上ニ入り込ミ地方民ニ嫌惡ノ念ヲ起サシメシ際鮮人ノ一部ニテハ予等ノ背後ニ日本人アリ腕ニカケテモ行ツテ見セルト云フカ如キ言辭ヲ弄シ嫌惡ト不安トヲ與ヘシコトト、彼ノ地方ハ大雨ノ際寧ロ伊通河ノ水ヨリハ東方一帯ヨリ流下スル山水ノ氾濫ヲ恐ルモノニシテ東支鐵道ノ修築ニヨリテ苦シキ經驗ヲ嘗メタルカ今回水路掘鑿ニヨリテ盛リ上ケタル廢土ノ堤防ノ爲排水ヲ妨ケラレ低濕地ト化スル恐アリ、尙一つノ原因ハ郝ヨリ地主ニ對シ損害見舞金ヲ出スト言明シ居リシニ一向出ス様子無クシテトシトシ掘鑿ヲ始メシ等ノ諸原因輻輳セシナリ、孫永清一派ハ水田其者ニハ反対ニ非ス郝ニ反感ヲ有スルニ至リシハ反対ニ立チシモノニシテ其後劉氏側ヨリ内密ニ申入レシニヨリ本人ハ將來損害ノ賠償ヲ受クルナラハ此際反対ヲ中止スル意図ヲ表明セントセシ際ニ當リ事件益々悪化シ反対仲間ヨリ監視ヲ受ケツツアリ、目下ハ相互ニ監視ヲ爲シツツアル如キ有様ナリ茲處暫ラクハ全ク手ノ下シ様ナキ有様ナルモ若干時日ヲ経過セハ孫一派ハ溫和行動ニ出テシムル可能性アリ

主任ノ意見

(イ)張作相ノ意見

萬寶山事件ハ日支双方ニ於ケル近來ノ紛擾事件トシテ憂慮サレツツアル問題ナルカ地元反対農民中劉樹春氏ノ遠縁ノ者有リ去ル六月十八日長春駐在田代領事ヨリ大岩長春地方事務所長、武波警察署長ト相談ノ結果余（峯旗）ヲ經テ劉氏ニ内密ニ反対者鎮撫方依頼ヲ申越サレ田代領事ト面談ノ上情況ヲ聽取シ劉氏ニ面接依頼シ劉氏ハ表面ニ顏ヲ出サヌシテ鎮撫ニ骨折ルコトヲ承諾セルト同時ニ農民ノ反対ハ現在ニ於テハ第二次的ノモノトナリ寧口省政府竝ニ張主席ヲ說得スルヲ必要トストノ注意ヲ受ケシニヨリ張主席ト私的親交ヲ有シ吉林省人民政府顧問林鶴臯氏ニ依頼シ林氏ヲ出奉セシメテ張主席ヲ說得セシムルコトセリ、說得ノ要點ハ

- (1) 武力對抗ノ如キ方法ヲ中止スルコト
- (2) 是非曲直等ハ事後ノ交渉ニヨリテ之ヲ決シ現在ハ

人道上ノ立場ヨリ關係鮮人多數ノ生活問題ヲ顧慮

シテ善處スルコト

- (3) 日支間最近感情ノ尖銳化セル際輕微ナル動機ノ爲

シコトト、彼ノ地方ハ大雨ノ際寧ロ伊通河ノ水ヨリハ東方一帯ヨリ流下スル山水ノ氾濫ヲ恐ルモノニシテ東支鐵道ノ修築ニヨリテ苦シキ經驗ヲ嘗メタルカ今回水路掘鑿ニヨリテ盛リ上ケタル廢土ノ堤防ノ爲排水ヲ妨ケラレ低濕地ト化スル恐アリ、尙一つノ原因ハ郝ヨリ地主ニ對シ損害見舞金ヲ出スト言明シ居リシニ一向出ス様子無クシテトシトシ掘鑿ヲ始メシ等ノ諸原因輻輳セシナリ、孫永清一派ハ水田其者ニハ反対ニ非ス郝ニ反感ヲ有スルニ至リシハ反対ニ立チシモノニシテ其後劉氏側ヨリ内密ニ申入レシニヨリ本人ハ將來損害ノ賠償ヲ受クルナラハ此際反対ヲ中止スル意図ヲ表明セントセシ際ニ當リ事件益々悪化シ反対仲間ヨリ監視ヲ受ケツツアリ、目下ハ相互ニ監視ヲ爲シツツアル如キ有様ナリ茲處暫ラクハ全ク手ノ下シ様ナキ有様ナルモ若干時日ヲ経過セハ孫一派ハ溫和行動ニ出テシムル可能性アリ

彼ノ地方ニ於テ大地主ハ多ク現地ニ居住セス名望アル有力者無ク又結束力等モ強カラサルニ付官憲側ノ暗々裡ノ使嗾サヘナクハ斯ク迄問題ヲ惡化セス解決ノ途アリシコトト思ハル云々

尙劉樹春ノ解決ニ關スル私見左ノ如シ

事茲ニ至リテハ日支双方當局者共俄カニ其態度ヲ變更スル事能ハサル可ク已ム無ク暫次睨ミ合ノ儘若干時日ヲ經過シ其間ニ工事ヲ進行セシメ承認ヲ經スシテ自然默認スル形ヲ取ラシメ其内漸次適當ノ人物ヲ利用シ適當ノ緩和策ヲ取り無理強ヒニ成立セシムル以外ニ方法無シ、地方民カ再度暴力ヲ用ヒテ反抗スル如キ事ハ多分無カルヘント思ハル、郝永德カ商埠地ニ有セル二百間ノ家屋ハ之ヲ沒收シ農民ノ損害賠償ニ充ツルコトニナル可ク或ハ地方擾亂ノ大問題ヲ起セシ張本人トシテ死罪ニ行ハルル様ノ事アルヤモ知レスト思ハル、尙今回ノ件ヨリシテ日支ノ感情益々惡化ス可ク不測ノ事件ヲ惹起スルナキヤヲ恐ルルカ故ニ今後極力其點ニ注意セサル可ラス解決ニ際シテハ予ハ暗々裡ニ盡力ヲ續ク可シ

B、萬寶山事件ニ就キ側面盡力者竝ニ張作相主席及施交涉

重大事發生ノ危險無キニシモ非サルニ就キ此際充分ナル注意ヲ爲スコト

ノ三點ヲ力説スルコト依頼セリ林氏ハ二十四日頃余ニ來奉ヲ求メシニヨリ赴奉シ二十六日張作相主席ニ面談シタルカ張主席ハ左ノ如キ意見ヲ吐露セリ

一、大局論トシテハ

(1) 東三省ト日本トハ經濟的三分離シ可カラサルコトヲ了解シ居ルニツキ根本的相互提携ヲ謀ル趣旨ナルコト
 現在ノ如キ小ナル技節ニ拘泥セル考ヲ改メテ大キク拘（拘）キ込ミ日露戰爭當時地方人力日本ニ對セシ如キ好感ヲ有セシムル様日本ノ態度ヲ改メラレントヲ希望ス

(3) 共產問題ニ對シテハ共同ノ敵ナルニヨリ相互ニ提携善處シ度シ

(4) 鮮人問題ニ對シテハ日本側ノ現在ノ如キ鶩的態度ヲ改メテ何レニカ徹底的態度ヲ取ラルコトヲ希望ス

二、萬寶山事件ニ對スル意向

- (1) 合理的ニ居住シ水田耕作ニ從事スル鮮人ニ對シテハ之ヲ拒否セス現ニ自分ハ二十數戸ノ鮮人ヲ使用シテ數十天地ノ水田ヲ經營シ居レリ但シ万寶山ノ件ハ手續不合理ニシテ地方民ノ反対アリ殆ント無理ヲ强行スル態度ニ出テ日本官憲カ之ヲ支持シツツアルハ不可ナリ之ヲ承認スル能ハス
- (2) 武力解決ノ如キ手段ハ之ヲ中止ス地方官最初取りシ態度不都合ナリシコトハ之ヲ認ム今後ハ平和手段ニヨリテ地方的ニ解決スルコトトスヘシ
- (3) 多數關係鮮人ノ生活問題ニ對スル人道上ノ立場ハ別ニ考慮スルヲ要ス
- (4) 日本側カ今回ノ件ヲ無理押シニ强行スルコトハ今後大惡例ヲ殘シ今後鮮人ノ問題ハ到底圓滿ニ進行シ難キコトヲ覺悟セサル可ラス
- 以上ノ如キ内意ナルヲ以テ武力衝突ヲ避ケ他ノ方法ニテ交渉ヲ繼續スル意思ナルコトヲ確メ得タリ
- 張氏トハ極メテ打解ケタル態度ニテ二時間餘懇談セリ猶張第二夫人（最モ勢力アル）ノ希望アリ余夫妻同日
- 其相違ニ基因シテ問題ヲ發生スル無キヤヲ恐ル
- (2) 余ヨリ人道上ノ問題ナル旨述ヘタルニ際シ此問題ニツイテハ大ニ尤モナリト思フカ其ノ解決法ニ就テハ日本側ノ自主聯盟鮮人民會等ノ同情者ニ依頼シ見舞金ヲ募集シ支那側ヨリモ慰藉金ヲ送ルコトニシテハ如何ト思フトノ意見ヲ述ヘ居レリ
- (3) 鮮人今回ノ資本及奉天總領事ノ言明ニヨル今後交渉ノ進行ノ都合如何ニヨリテハ地主等ニ損害見舞金ヲ送リテモ宜シトノ事ニ對シ其資金ノ出處ニ就テ政府方面又ハ東拓等ノ方面ニテ支辦サルモノト解シ居ル如ク自然國家ノ尻推シニヨリテ行ヘル國家侵略事業ノ如ク誤解シ居ルニ非スヤト思ハル
- 最近日支間ノ感情兎角尖銳化セルカノ恐アル際本件ヲ動機トシ如何ナル付測ノ事態ヲ惹起スルヤモ知レサルニ就キ事前ニ之ヲ防克コトニ努力ヲ乞フ旨懇談シタルニ其事ハ充分誠意ヲ以テ努力スヘシト述ヘ居レリ
- C、萬寶山問題ニ對スル張作相主席ノ意図
- 七月六日奉天ヨリ歸來セル省政府顧問林鶴臯氏ニ面談（七日午後）ノ際萬寶山問題ニ對スル張主席方面ノ消息

午后改メテ夫人ヲ訪問時餘懇談シ辭去シタリ

劉氏ハ自ラ此問題ニ表面上口出スルコトハ却ツテ問題ノ爲ニ不利益ヲ來ス恐レアルニヨリ内面的ニ同氏ノ弟劉之鋼氏ヲシテ之ニ當ラシムルコトニ爲シ居レリ、但シ一度表面的ニ地方民ノ反対ヲ表明セシ事ナレハ直ニ之ヲ撤回スルコトハ爲シ難ク漸次沈默セシムル方法ヲ取ルコトニ爲ス可シト言ヒ居レリ

(四)施吉林交渉主任ノ意見

六月二十八日施主任ヲ訪問シ第三者友誼的立場ニ在ルモノトノ前置キニヨリ意見ヲ交渉シタルカ施氏ノ意見モ施氏カ奉天ヨリ歸來後ノ事トテ張主席ノ余ニ談話セルト大差無ク左ノ三點ハ稍ヤ注意スルニ足ル

(1) 奉天ニテ林總領事トモ會見シタルカ林總領事ハ張主席ノ圓滿解決トノ意見ヲ根本的承認ト解釋シ居ラレシ如クナルカ張主席ノ意見ハ現在ノ狀況ニテハ根本問題ハ不承認ナルモ之カ爲武力ヲ動カス事ハ不可ナルニヨリ中止セシムヘク地方官ヲシテ日本領事ト交渉ヲ繼續シ圓滿ナル結果ヲ得ル様ニ希望ストノ意ヲ述ヘタルモノニシテ其邊相違ヲ來シ居ルニ就キ將來

ニ就テ次ノ如ク洩セリ

主席ハ日支衝突ノ報告ヲ受ケテ非常ニ痛心シ且ツ非常ニ激昂セシ様子ナリシカ其後潘秘書長ヤ予等カ勸說ヲ容レテ不取敢根本方針等ハ後ノ事トシ現局面ヲ是以上悪化セシメサル様ニスルコトニ決定シ其旨ヲ潘秘書長ヲシテ歸途周籌備處長ニ傳ヘシメルコトトナリ尙余ヨリ双方ノ當事者同志ノ交渉ニ任シ置キテハ從來ノ面子ヤ行掛リ上困難ヲ感ス可ク寧ロ第三者ノ調停ニ任カシテハ如何例へハ支那側ニテハ農會、商會ノ如キ團体、日本側ニテハ吉林總領事等ニ依頼サセテハ如何ト提議シタルニ對シ主席ハ大ニ然リト爲シ併セテ其意見ヲ周氏ニ傳ヘ周氏ノ採量ニ任カス事ニナレリ。但シ主席ハ總領事ヲ調停人ニ依頼スルコトハ處ハ變リテモ同シ政府ノ代表者ナレハ不可ナリ、尙此事ハ支那側ノ軟化シタルモノナリト推測サルル虞アルニヨリ或時機迄秘密ニ爲シ置クヘキナリトセリ因ニ潘秘書長ハ七月六日午后周氏ニ面會セシ箒ナリト

二 万宝山事件関係

241 昭和6年7月18日 常原外務大臣より
在長春田代領事宛（電報）

堰止で中国側に損害を与えるため今後の交渉に不利益となる恐れあるため一部放水方訓令

本省 7月18日後発

第三〇號（暗）
貴電第六八號ニ關シ

御來示ニ依レハ堰止及水路工事ハ豫期ニ反シ浸水又ハ漏水等幾分不結果ノ點モアル趣ナル處本件農場問題ニ付テハ貴方ニ於テ中國側ニ對シ最初ヨリ隣地中國農民ニ損害ヲ及スコト無ク萬一損害アリタル場合ハ之ガ賠償ヲ爲スヘシトノ立前ヲ取り來ラレタル關係上中國側ニ餘り目立チタル損害ヲ與フルコトアリテハ今後ノ交渉上ニモ面白カラザルニ付本年度ノ收獲望無キ趣ニモアリ此ノ際堰止ノ一部ヲ放水シテ水面ヲ降下セシムル等折角完成シタル工事ヲ無ニセサル範圍内ニ於テ附近民國ヘノ浸水ヲ出來得ル限り防止スル様現地ノ實情ニ應シ適當ノ措置ヲ講セシムルコト寧ロ我方ノ立場ヲ鞏固ナラシムル所以ナリト思考セラル右ハ夙ニ御氣附ノコトトハ存スルモ爲念

代理公使、奉天、吉林、間島、哈爾賓、北平、南京、朝鮮總督、關東長官へ轉電セリ

242 昭和6年7月19日 在長春田代領事より
常原外務大臣宛（電報）

中国側の百天地に浸水被害を受けたとの風説に関する朝鮮人民會長より現場の実情等聴取について

長春 7月19日後発

本省 7月20日後着

第七一號（暗）

本十九日奉天ヨリ歸任貴電第三〇號拜見十五日歸朝ノ中川警部ノ報告ハ往電第六八號ノ通ニシテ堰止及水路工事ノ完成ニ依リ及ホシタル影響左迄大ナルモノトモ認メラレサル處中國側ニテハ百天地ニ浸水ヲ蒙レリ等誇大ニ吹聴シ居ル趣ナルニ付爲念鮮人民會長ヲ招致シ昨ニ於ケル現場ノ實情竝十七日ノ水田組合役員會ノ模様ヲ聽取シタル處

一、現場ノ水害狀況目下ノ所格別ノコト無ク且本年ノ收穫絶對ニ見込ナキ次第ニハアラサルモ僅力ナル收穫ヲ得ル爲ニ通水ヲ續行シ伊通河増水ノ場合水路氾濫スルカ如キコト

243 昭和6年7月21日 常原外務大臣より
在吉林石射縦領事宛（電報）

万宝山事件に関する過渡的弁法協定方訓令

本省 7月21日後発

第一九號（暗、至急）
貴電第六二號ニ關シ

アリテハ徒ニ中國側ニ損害ヲ與フルノミナルヲ以テ本年度ノ收穫ヲ斷念シ水路入口ヲ閉鎖シ且堰止ノ一部ヲ取除キテ中國農民ニ迷惑ヲ掛ケサルコトニ役員會ニ於テ決定セル趣ナリ

二、鮮農ハ堰止完成シ水路ニ依リテ完全ニ水田迄水ノ達シタル結果ヲ見大イニ安堵シテ來年ノ水田經營ヲ樂ミ二六戸八二名現地ニ止マリ水田豫定地中ノ住宅用地ニ簡單ナル住居（約二百圓程度ノモノ）ヲ建設スルコトニ決セリ

三、水田豫定地本年度地代ハ收穫ナキニ付免除ノコトニ地主トノ間ニ諒解済トノコトナルカ來年度收穫迄ハ現場鮮人ハ種播未完了ニ依リ殘存セル種（二字）等ヲ以テ生活シツツ畦ノ完成水路ノ修理等ニ從事スル豫定ナリ

尙爲念明早朝警部普及巡查一名ヲ聯絡ノ爲現場ニ派シ實情調査及出先警官ニ對シ附近民田ヘノ浸水防止方ニ關シ此上トモ適當ノ措置ヲ講セシムル様指示方取計ハシムル事トセリ

支、奉天、吉林、間島、哈爾賓、北平、南京、朝鮮總督、關東長官へ轉電セリ

電報過渡的辦法ニ關スル我方方針ヲ体シ現地ノ實情ヲモ充

分斟酌セラレ本件ノ圓滿解決ヲ見ル様速力ニ話合ヲ進メラ
レ度爲念

奉天、長春、哈爾賓ニ轉電アリ度

代理公使、南京、北平、朝鮮總督、關東長官ニ轉電セリ

244 昭和6年7月21日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛（電報）
朝鮮人の帰化許可と交換的に居住、水田耕作を束
縛する法令を撤廃させるべき旨意見具申

奉天 7月21日後発
本省 7月21日後着

第四五八號（暗）

貴電第一四五號張作相トノ間ニ鮮人問題ニ關スル過渡的辨
法ヲ協定交渉方御訓令ノ次第拜承然ル所本件ニ關シテハ去
ル十五日本官作相ニ面會ノ節大体御來示ノ次第ト同様ノ趣
旨ヲ申入レ作相ニ於テハ趣旨ニ於テ贊成ナルモ張學良尙病
氣ノ折柄ナルヲ以テ其歸奉ヲ待チ商議スヘキ旨答ヘ居リ十
九日峰烟力作相ニ面會セル際ニモ本官ハ同人ヲシテ當方ノ
申入レニ作相ヲシテ同意セシムル様慾憲セシメタルカ峰烟

ハ張學良病氣中ト雖モ東北ノ實權者ハ作相ナルヲ以テ直ニ
右交渉ヲ開始スル方得策ナル旨ヲ說キ勸メタルニ作相ハ協
定ノ必要ハ切ニ之ヲ認ムルモ學良ノ歸奉後ニ非スンハ之ヲ
相當ノ時間ト努力トヲ要スヘク本官ニ於テハ如何ナル機會
開始スルニ便ナラスト述ヘ數日前本官ニ語リタルト同様ノ
趣旨ヲ答ヘタル趣ナリ

作相ハ其性格健實ナルモ事ヲ運フニ頗ル遲々タルノ習癖ア
リ彼ヲシテ今直ニ御訓令ノ協定開始ニ同意セシムルニハ尙
相當ノ時間ト努力トヲ要スヘク本官ニ於テハ如何ナル機會
ヲモ逸セス御訓令ヲ遂行スヘク心得居ル處

御來示ノ四箇條ノ條件ハ畢竟目下交渉中ノ萬寶山事件解決
ニ對スル當方主張ノ骨子ニシテ中國側ヲシテ之ヲ容レシム
ルニハ容易ノ業ニ非スト思考セラレ唯幸ニ作相カ同事件ノ
地方的解決ヲ希望シ居ル際ナレハ同事件ノミハ或ハ曲リナ
リニモ前記四箇條ノ「ライン」ニ依リ解決ヲ見ルコトヲ得
ルヤモ計ラレサルモ過渡的便法トシテ原則的ニ前記條件ヲ
骨子トスル協定ニ公然同意セシムルハ四圍ノ狀況ヨリ見レ
ハ殆ト不可能ニ近キ困難事業ナルヤノ感アリ卑見ニ依レハ
東北官憲ヲ誘導シテ過渡的辨法ヲ成立セシメ鮮人壓迫ヲ緩
和スルニハ我方ヨリハ少クトモ歸化ヲ許可スルコトトシ東

北側ヲシテ交換のニ鮮人ノ居住及水田耕作ヲ羈束スル爲ニ
設ケタル奉天吉林兩省ノ各種ノ法令ヲ撤廃セシムルノ外途
ナキカ如ク之トテモ果シテ相手方ノ同意ヲ獲得シ得ルヤ頗
ル疑無キ能ハサルモ比較的可能性アル條件ト考ヘラル固ヨ
リ本官ニ於テハ不取敢御來示ノ條件ヲ以テ作相ニ對シ交渉

ヲ進ムルコトヲ怠ラス目下交渉中ノ萬寶山事件ト相關聯シ
テ出來ル丈作相ノ誘導ニ努ムヘキモ御來訓遂行上ニハ前述
ノ如キ困難アルコトヲ御了解相願ヒ度茲ニ御含ミ迄卑見電
稟ス

245 昭和6年7月24日 在吉林石射總領事より
幣原外務大臣宛（電報）
中國側は日本警察の無条件撤退の外形をとり
たき意向につき対案上申について

吉林省 7月24日後発
本省 7月24日後着

第六四號（暗）
往電第六二號ニ關シ

一、林總領事並田代領事ト打合ノ上本官十八日顏合セ^{旁鐘}
特派員ヲ往訪シ林總領事ノ話ニ依レハ我等兩人ノ任務ハ萬
寶山問題ノ解決案ヲ非公式ニ研究スルニアリトノ事ナルカ
貴官ニ於テ張主席ヨリ如何ナル命令ヲ受ケラレタリヤト切
出シタルニ^鐘ハ地方的ニ交渉シ解決セヨトノ命令ナルカ解
決案ヲ見出スカ爲ノ研究ナラハ双方目的ハ一致シ居ル譯ナ
リト云ヒ本官之ヲ諒承シ次^鐘ヨリ本件交渉ノ前提トシテ
先ツ警察官ノ即時撤退方ヲ要求セリ本官ハ日本警察ノ出動
ハ支那側カ誘致シタルモノナル事ヲ説明シタル上若シ支那
側ニ於テ問題解決迄鮮農ノ現住及工事ノ現状ノ保護ニ付責
任ヲ負ハルルナラハ右撤退ヲ考量スヘシト述ヘ詳細ハ吉林
ニテ話合フ事トシ會談ヲ打切りタリ尙會談中^鐘ハ本件朝農
耕作ノ可否ヲ一刀兩斷的ニ（解）決スル事トシテハ如何左
スレハ細目ノ解決ハ出來易シト云ヒタルニ付耕作ニ付双方
主張ヲ異ニスレハコソ問題トナリタルモノ故一刀兩斷的ニ
急速ニ解決シ得サルヘシト應酬シ置キタリ

二、^鐘ハ廿日來吉廿一日本官ヲ來訪シ問題解決迄鮮農ノ現

住及工事ノ現状保護ハ責任ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ之ヲ以テ警察撤退ノ交換條件トハ爲シ難シト述ヘタルニ付本官ハ交換條件トセストモ可ナリ但シ日本側ハ警察撤退ノ事情トシテ支那側方問題解決迄右保護ヲ爲ス事ト爲レル旨ヲ外部ニ發表セサルヲ得スト云ヒタルニ鐘^(鐘カ)ハ日本側ハ默ツテ警察ヲ引キ外部ニハ何等發表セラレサル事トシタシテ黨部及民衆ニ對スル支那側ノ立場ヲ持出シ蟲ノ良キ事ヲ云ヒタルニ付日本側ノ立場ニ付反省ヲ求メ尙現住及現状保護ト謂フ以上ハ鮮農力現場ニ簡單ナル居宅ヲ建テ(長春領事發閣下宛往電第七一號)或ハ工事ノ自然的破損又ハ水害防止ノ爲鮮農力自發的ニ爲ス破壞ヲ復舊スルハ差支ヘ無キ譯ナルニ付誤解無キ様願フト申入レタル處鐘^(鐘カ)ハ斯ノ如キ事ハ又シテモノ目ヲ惹キ問題ヲ紛糾セシムルニ付總テ現状維持トシ建築及復舊工事等ハセサル事ニ願フ又水害ノ虞アルトキハ支那側ニ於テ自衛上堰ヲ壞ス事アルヘシト云ヒタルヲ以テ本官ハ居宅ノ建築及復舊工事ハ必要ノ場合已ムヲ得サル事ナリ又水害ハ鮮農ヲシテ責任ヲ以テ豫防處置ヲ執ラシムルニ付支那側ハ手ヲ觸ルヘカラスト主張シタルモ鐘^(鐘カ)ハ首肯セス尙本官ハ會談中本件ニ關スル長春地方官ノ措置及態度ノ不シニ付本官ハ右ニ付一應本省ノ意見ヲ仰クヘシトテ打切りタリ

四、右ノ如ク支那側ハ何處迄モ無條件ニテ日本警察ヲ引カシメタリトノ外形ヲ執リ度キ肚ナルヲ以テ寧ロ我方ハ支那側ト關係ナク自發的ニ至急警察官ヲ引クコトトシ現場ノ鮮人ヲ壓迫シ工事ヲ破壊スルカ如キコトアラハ何時ト雖モ再ヒ警察官ヲ派遣スヘキ旨支那側ニ對シ聲明スルコト得策ナラスマヤト思考ス至急何分ノ御回訓ヲ請フ

五、本問題ノ解決ニ關スル卑見ハ拙電第六二號ノ通ナルモ我方ニ解決ノ誠意アルコトヲ示スコト必要ナリトノ林總領事ノ御意見モアリ本件ヲ引受ケタル次第ナルカ支那側ハ借地契約ノ手續ノ不備整理工事ノ不合法ヲ一點張トシテ非妥協的ニ詰メ寄ル方針ナルコト明カルヲ以テ解決ハ御請合致シ兼ヌル次第ナリ

尙本件交渉ノ内容ハ外部ノワイ々ヲ避ケル爲暫ラク新聞等ニ知ラササル様双方注意スルコトニ話合タルニ付其尙ニ願度ク警察撤退ノ件ハ御承認ノ上ハ實行ト同時ニ當方ニテ發表スルコト致度シ

支、北平、南京、長春、哈爾賓、奉天、朝鮮總督、關東長

(別紙)

都合ナルヲ強調シタルニ鐘^(鐘カ)ハ不合法ナル鮮人ニ耕作ヲ支持スルハ今後鮮人ノ爲ニ却テ不利ナリトテ田代領事ノ事ヲ云々シ尙作相ノ交渉方針トシテ鮮農ノ損害ヲ何トカシテ遺ルハ可ナルモ其耕作ハ絶対不可ナリト命令アリタル旨洩ラセリ二、二十二日鐘ハ病氣引籠リト稱シ二十三日午後本官ヨリ往訪シ右作相ノ命令ヲ引用シ張主席ノ態度斯ク絶体的ナル以上本官ノ考ヘ居ル解決案ヲ提示シテモ貴官ヨリ主席ノ考量ヲ求ムル餘地ハナカルヘキニ付本官トシテハ警察撤退ノ問題モ林總領事ニ返納シテ張主席トノ交渉ヲ願フコト然ル可シト考フルニ至レリト切出シタルニ鐘ハ種種辯疏ニ努メ本官ノ提案ヲ速急考慮スヘキコトヲ約シ双方ノ提案ノ何レカ合理的合法的ナルカヲ比較研究シ事ヲ決シ度シト云ヒタルニ付本官ハ支那側ヨリ見タル合理合法ニ依リテノミ之ヲ決シ難ク日日政府ハ省政府ノ對鮮人態度ヲ改メテ貰ヒ度キ力爲本問題ヲ爭フモノナル所以ヲ説明シ置ケリ次テ警察官問題ニ移リ鍾ハ沈黙的撤退ヲ主張シテ止マス本官ハ發表ハ支那側ニ害ニナラサル文句トシテモ可ナリト讓リタルニ鐘ハ「日本側ハ武裝平服共ニ警察官ヲ即日撤退シ双方協同解決ヲ待ツ」ト顧ミテ他ヲ言フ案文ヲ作レリ(脱?)果テナ

官へ轉電セリ

246 昭和6年7月24日 在中国重光公使より
幣原外務大臣宛 機密公第三一五號

王外交部長よりの万宝山事件に関する抗議証 文写送付について

昭和六年七月二十四日 (7月31日接受)

在中国 外務大臣男爵 幣原 嘉重郎殿 公使 重光 葵

萬寶山事件ニ關スル外交部長公文送付ノ件

本信寫送付先 北平 奉天 吉林 哈爾賓 長春

照會（本省譯）

二 万宝山事件関係

以書翰致啓上候陳者吉林省政府ヨリ屢次電報ヲ以テ「長農稻田公司經理郝永德ハ本年四月中長春縣第三區萬寶山所在未墾地既墾地約五百晌地ヲ十年ノ期限ヲ以テ借受タルカ右契約中ニ本契約ハ縣政府ノ認可ヲ得タル日ヲ以テ效力ヲ發生ス縣政府ノ認可ナキトキハ無効トストノ規定アリ而モ本件契約カ未タ正式ノ認可ヲ經サルニ拘ハラス郝永德ハ上述ノ土地ヲ朝鮮人李昇薰等九名ニ轉貸耕作セシメ亦十年ヲ期限トセリ該朝鮮人李昇薰等ハ右契約カ未タ地方官廳ニ届出サルニ該朝鮮人李昇薰等ハ擅ニ鮮人百八十餘人ヲ該地ニ引入レ全長約二十餘里ノ水路ヲ開鑿シテ伊通河岸ニ達セシメ之ニ因リテ郝永德及李昇薰等トノ間ニ初メヨリ何等ノ契約ナカリシ馬寶山等ノ民有田地ヲ侵占シ同時ニ又伊通河ノ水流ヲ截斷シテ堰堤ヲ築造シ河水ヲ水路ニ導キテ稻苗ニ灌溉セリ馬寶山等ハ該鮮人等ノ掘鑿セル水路及堰堤カ一般ノ田地ヲ侵害スルヲ以テ當時代表等ヲ集メテ縣政府及市政籌備處ニ出頭シ親シク制止方ヲ請願シタルニ依リ縣政府及籌備處ハ民衆ヲ諭シテ調査ノ結果ヲ待タシムルト共ニ他面警官ヲ派シテ鮮人ノ水路掘鑿及堰堤築造工事ノ停止ヲ命セシメ

ヲ固執シテ毫モ解決ノ見込ナキヲ以テ日本公使ニ對シ嚴重交渉アリ度」旨申越ノ次第有之候
查スルニ朝鮮農民ノ吉林省內ニ於ケル耕作ハ宣統元年日清圖們江界取極ニ依レハ僅カニ圖們江北地方即現在ノ延吉、汪清、和龍、琿春四縣ノ特定地域ヲ以テ限ト爲セル處萬寶山ハ長春縣ノ北ニ位シ墾地居住ノ區域ニアラサルヲ以テ今回鮮民李昇薰等力同地ニ赴キ耕作セルハ毫モ條約上ノ根據ナキモノナルモ遂ニ郝永德ト借地小作契約ヲ訂立シタル次第ナル力右契約亦未タ地方官署ニ届出サルニ卒然トシテ鮮民百八十餘人ヲ引率入境シ水路ヲ開鑿シ流ヲ斷ツテ堰堤ヲ築造シ爲ニ附近民田ニ損害ヲ與ヘタルハ其ノ行動既ニ條約ニ根據セス且明カニ秩序ヲ妨害シ公共ヲ危險ニ致シ其ノ他毀棄損壊等刑事犯罪ノ嫌疑アリ被害人民等ニ於テ之ト論辯スルモ措テ顧ミサルヲ以テ已ムヲ得ス官廳ニ之力制止方ヲ請願シタル次第ナル處地方官廳カ公安維持ノ責任上現場ニニ貴國長春領事ハ專ラ鮮農取締、衝突防止ヲ理由トシテタル次第ナルカ右衝突發生後貴國各新聞カ中國地方官憲ニ
數警官ヲ同地ニ派遣シタル爲七月一日ノ衝突事件ヲ發生シ

タル處我方警官ノ現場ニ到着スルヤ意外ニモ在長春日本領事亦既ニ警官六名ヲ現場ニ派遣シ居リテ我方ニ干渉シ鮮人等ハ之ヲ恃ミテ反抗更ニ甚シカリンカ在奉天日本總領事ヨリ吉林省主席ニ商議ヲ提起シタル結果双方警官ヲ撤退シテ再議スルコトトナリ次テ我方ハ縣政府ヲシテ即時警官ヲ撤去セシメタルモ日本警官ハ二日ノ後始メテ撤去セリ仍テ市政籌備處長ハ在長春日本領事トノ間ニ鮮人先ソ工事ヲ停止シ雙方立會調査ノ結果ヲ俟ツヘキコトヲ約定シタルカ立會調査ノ後我方ハ掘毀セル耕地ノ回復、堰堤工事ノ中止ヲ主張セルニ日本領事ハ全然之ヲ拒絶シ更ニ多數鮮人ヲ招來シ同時ニ私服警官五六十人ヲ派遣シ機關銃ヲ携帶シテ民家ニ占據セシメタリ本月一日民衆ハ鮮人ノ水道堰堤工事毫モ停止セラレサルヲ見テ遂ニ忍フ能ハス各自鍬鋤ヲ以テ該水路ヲ填塞シタルカ日本官憲ハ俄然民衆ニ向ツテ發砲シタルモ彼我幸ニ死傷者ナカリシ處日本側ハ却テ我官憲カ暗ニ民衆ヲ助ケタリト稱シ更ニ警官二十餘名ヲ增派シタリ吉林省政府ハ報告ニ接スルヤ嚴重ナル電報ヲ以テ縣政府及市政籌備處ニ對シ人民ノ妄動禁止方ヲ命スルト共ニ依然該處長ヲシテ理ニ基キ交渉方訓令スル所アリタルモ日本側ハ其ノ主張

ルニ於テハ中國地方官ニ於テ查明ノ上當事者ヲシテ補償セシムヘク又右鮮人等ノ水路掘鑿及堰堤築造ニ依リ被リタル華農ノ損害ニ對シテハ當然鮮人等ニ於テ責ヲ負フヘキ義ニ有之候右補償問題ニ關シテハ當部在吉林特派員ト貴國領事依リ解決セシムヘキ義ニ有之候右御了悉ノ上夫々至急御取計相成且成ルヘク速カニ御回示ヲ得度此段照會得貴意候

敬具

大中華民國外交部長 王 正 廷

大日本國駐華臨時代理公使 重 光 葵 殿

247 昭和6年7月26日 在吉林石射総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

中国側は我が方の警官撤退さえ見れば一先ず

成功との意向と推測されるについて

吉林省 7月26日前發

第六五號（暗）
往電第六四號ニ關シ

本官鍾特派員間ノ前三回ノ會見ニ於テハ問題ノ實質ニ觸レタル議論モ行ヒタルカ本格的詰合ハ警察問題力極リテカラノ事トナシ居ル處在支公使發閣下宛電報第六六八號外交部長ノ抗議文ハ鮮農ニ對スル取調問題ニ限り本官鍾毓間ノ交渉ニ任セントスル意味ト解セラレ是ニ依リ前記拙電作相力鍾ニ與ヘタル交渉方針ノ眞意モ一層明白ニ讀メル譯ト存ス支那側ハ京津方面ノ時局ニ依リ日本ノ好意ヲ講フ如キ必要ニ迫ラルレハイサ知ラス此儘ニテハ右方針ヲ狂ケサルヘク今分ノ處地方的交渉ノ前途ニ光明ヲ認メ得サル次第ナルカ本官鍾間ノ通譯ニ當リ居ル特派員秘書趙心哲カ同窓ノ誼アル當地滿鐵公所長ト對談中漏セル所ニ依レハ支那側ニテハ解決シ得ルモノトハ考へ居ラサルモ林總領事ノ申出ニ敬意ヲ表シ地方的交渉ニ應スル事トナリタルモノナリトノ趣又鍾力本官ニ對シ哈爾賓ノ忙シキ事ヲ度々口ニシ居ル處ヨリ考フレハ彼ハ我方警察サヘ退イテ貰へハ一先成功トシ後ハ自分ノ言分丈ヲ言張リ哈爾賓ノ用事ヲ口實ニ未解決ノ儘引揚ル底意ナルカト推セラル御参考迄

尙前記外交部長ノ抗議ニ對スル我方回答振至急承知致シタシ

支ヨリ南京へ轉報アリタシ

哈爾賓、長春、奉天、北平、支へ轉電セリ

248 昭和6年7月27日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

臧主席に朝鮮人問題に關する過渡的弁法交渉
促進の急務なるを説得について

再應力說シタル上本件ハ張學良歸奉後ニアラサレハ之カ話合ノ開始不可能ナル次第ナルヤト間ヒタルニ臧ハ本官ノ所說ニ全然同感ノ意ヲ表シ別段張學良ノ歸奉ト否トニ關係無ク成ルヘク速ニ詰合ヲ遂クルコト必要ト思考スル旨述ヘタルニ依リ本官ヨリ三、四日中旅大旅行ヨリ歸奉後（本官二十八日出發二、三日旅大ニ出張ノ豫定）直ニ作相ニ會談シタキニ付其前ニ臧ヨリ作相ニ懇談セラレタキ旨依頼セルニ臧ハ快諾シ作相ノ說得ニ努ムヘキ旨ヲ約セリ

代理公使、吉林へ轉電セリ

第四七六號（暗）
往電第四四〇號ニ關シ

鮮人問題ニ關スル過渡的辦法交渉促進ノ爲二十七日臧主席

ヲ往訪シ本件辦法制定ノ急務ナルコトヲ説キタル上汪公使竝張作相ヨリ何等詰合アリタルヤ否ヤ尋ねタルニ臧ハ汪

公使ハ特ニ本件ニ言及セス張作相ヨリ詰合アリタルノミナルカ中國側ニテハ未タ意見決定ノ運ニ至リ居ラスト述ヘタ

山事件ノ如キ不祥事ノ發生ヲ見ルトキハ更ニ日華兩國ノ關係ヲ惡化セシムルノ虞鮮カラストテ本件辦法ノ急務ナルヲ

貴電第六四號及第六五號ニ關シ
第二〇〇号

249 昭和6年7月28日 在吉林石射総領事宛（電報）
我が方警官撤退に關する交渉は東三省との間で
地方的解決を見る様尽力方訓令

本省 7月28日發

一、萬寶山事件ニ付テハ中國側ハ貴見ノ如ク容易ニ其非妥協的態度ヲ改メサルヘク從テ我方既定ノ方針通り解決

250

長春、哈爾賓、奉天ニ轉電シ貴電ト共ニ問島ニ轉電アリ度
代理公使、上海、南京、北平、朝鮮總督、關東長官ニ轉電
張作相はじめ東北首脳に対し至急地方官憲に朝
鮮人圧迫中止を嚴重戒飭方要求すべき旨訓令

セリ

（幣原外務大臣より
在奉天林總領事宛（電報）

究ヲ遂ケラレタル上實行可能ノモノハ之ヲ交渉ノ内容

ニ取人レラレ差支無シ

四、本件ニ關スル外交部長ノ抗議ニ對シテハ諸般ノ關係上
充分慎重ニ回答スルヲ要スルヲ以テ目下折角考量中ナ
ルカ國民政府力表面上東三省ノ案件迄ヲ統制セムトス
ルモ實質上ハ結局東三省當局ノ意図ニ依リ左右セラル
ル實情ナルノミナラス我方トシテモ東三省ノコトハ東
三省ノ手ニテ解決セシムル様絶エス仕向クルヲ要スル
次第ナルニ付本件ニ付テモ右我方回答ノ内容如何ニ拘
泥セス既定ノ方針ニ依リ省政府トノ間ニ地方的解決ヲ
見ル様此上トモ盡力アリ度

スルコトハ仲々困難ナルヘシトハ想察セラルモ當方
トシテハ同事件ハ廳テ奉天宛往電第一四五號過渡的辨
法ノ「テストケース」トモナルヘキモノタルニ鑑ミ其
ノ解決ノ困難ナル丈夫レ丈之力解決ヲ重要視シ居ル次
第ナルヲ以テ貴官ハ鍾特派員ノ態度ニ對シ見切ヲ附ケ
ラルカ如キト無ク林總領事及田代領事トモ連絡呼
應シ根強ク交渉ヲ進メラレムコトヲ切望ス
二、我派遣警察官ハ現地ノ實情ニ照ラシ鮮人ニ對スル中國
官民ノ實力壓迫ノ虞全ク去リ又撤退ニ依リ今日迄築キ
成立チタル上ハ成ルヘク早キ機會ニ於テ自發的ニ撤退
スルヲ可トスヘキモ撤退ニ當リテハ今後交渉ニ依リ本
問題ノ解決ニ至ル迄鮮農ノ居住ヲ妨害シ又工事ヲ破壊
セサルコトニ付中國側ニ充分責任ヲ負ハシムルト共ニ
特ニ貴電第六四號四ノ趣旨ヲ徹底セシメ置クノ要アル
ハ勿論ナリ（右撤退ハ我方ノ自發的措置ナルヲ以テ貴
方ニ於テ特ニ之ヲ發表スルノ必要無キト同時ニ中國側
ニ於テモ右貴電三鐘特派員案ノ如キ發表ヲ爲スコトハ
此際見合ハサシムルコトシ度）

三、本件解決ニ關スル我方根本方針ハ要スルニ前記奉天宛
往電過渡的辨法案（一）ノ趣旨ニ盡クルモノニシテ中國側
ニ於テ借地契約ノ手續ノ不備及水路工事ノ不合法ヲ主
張シ居ルニ付テハ我方トシテモ無理ノ存スル所ハ之ヲ
救正シ中國側ニ損害ヲ及ホシタルモノアラハ適宜之ヲ
補償スル等出來得ル限り公正ノ態度ニ出テ以テ先方カ
此上鮮人ノ定着ニ反対スルノ口實ヲ作ルノ餘地無カラ
シムルヲ必要トスル次第ナリ以上ノ見地ヨリ例ヘハ（一）
借地契約ニ付テハ鮮農ヲシテ先方ノ不備ト稱スル點ヲ
補フノ手續ヲ履マシタル上正式ニ官憲ノ許可ヲ取付
ケシムルコトノ可否（中國側ニ於テハ鮮人ノ定着ヲ禁
止スルノ方針ヲ執リ居ラスト言明シ居ル手前契約ノ手
續完備セハ許可ヲ與フルニ躊躇スヘキ理由無キ譯合ナ
リ）（二）水路又ハ堰止工事等ニ依リ中國側ニ實害ヲ及ホ
シタル事實アラハ如何ニシテ之ヲ補償セシムヘキカ（三）
水路工事ハ兎角先方ノ口實ト爲ス所ナルニ鑑ミ農場ノ
灌漑ニ付テハ伊通河ヨリノ引水ニ依ラス例ヘハ長春宛
貴電第一五號ノ如キ方法又ハ鮮農ノ手隙ヲ利用シテ掘
抜井戸若クハ用水堀ヲ設ケシムル等ノ能否ニ付充分研
究ヲ遂ケラレタル上實行可能ノモノハ之ヲ交渉ノ内容
ニ取人レラレ差支無シ

第一五九號（暗）

在滿鮮人驅逐中止方ニ干シ張作相ヘ（申カ）中入ノ件

長春發本大臣宛電報第七九號ニ關シ

萬寶山事件後モ依然トシテ所在各地ニ於ケル鮮農驅逐熄マ
ス甚シキハ中國官憲ニ於テ萬寶山事件ニ藉口シテ鮮農ニ立
退キヲ命スルカ如キ狀アルハ長春、齊々哈爾、哈爾賓等各
地領事累次電報ニ依リ御承知ノ通ナル處東北當局カ鮮農驅
逐ノ方針ヲ執レルコト無キヲ一再ナラス言明シ又往電第一
四五號過渡的辨法ノ交渉ニ對シ少クトモ主義上贊意ヲ表シ
居ル矢先殊ニ先般ノ朝鮮事件ノ苦キ經驗ニ顧ミ中國側トシ
テモ朝鮮人ニ對スル措置ヲ慎マサルヘカラサル今日以上ノ
如キ地方官憲ノ擅行ヲ看過シ居ルカ如キハ頗ル不誠意ナル
態度ト謂フノ外無クスケテハ今後鮮人問題ニ關スル平和的
商議モ自然覺束無ク感セラルノミナラス此儘ニ放置セハ
此上鮮内ノ民心ヲ刺戟シテ第二第三ノ朝鮮事件ヲ惹起スル
ノ虞アル次第ナルニ付此種鮮人壓迫事件發生ノ際ハ關係領
置ヲ執ルヲ要スルハ申ス迄モ無キコト乍ラ此際貴官ハ張作
置ヲ執ルヲ要スルハ申ス迄モ無キコト乍ラ此際貴官ハ張作

相又ハ其他ノ東北首脳者ニ對シ以上ノ事實ヲ一括シテ指摘セラレタル上我方ノ重大ナル關心ヲ充分警告セラレ至急地
方官憲ニ對シ鮮農ノ驅逐ヲ中止セシムル様嚴重戒飭方要求セラルルト共ニ事件ニ對スル善後交渉ハ之ヲ將來ニ留保スヘキ旨強ク申入レ置カレ度今後モ必要ニ應シ同様措置セラレ度右ハ既ニ御手配中ノコトトハ存スルモ爲念訓令トシテ哈爾賓、吉林、齊々哈爾、長春ニ轉電シ問島、安東、北平ニ轉電アリ度

在支公使、南京、朝鮮總督、關東長官へ轉電セリ
~~~~~  
251 昭和6年8月3日 在吉林石射總領事より 帪原外務大臣宛（電報）  
本官發長春宛電報第一七號  
第七〇號（暗）  
本官發長春宛電報第一七號  
外務大臣發本官宛電報第二〇號ニ關シ  
~~~~~

251 昭和6年8月3日 在吉林石射總領事より 帪原外務大臣宛（電報）
本官發長春宛電報第一七號
第七〇號（暗）
本官發長春宛電報第一七號
外務大臣發本官宛電報第二〇號ニ關シ
吉 林 8月3日後発
本 省 8月4日前着
~~~~~

鍾特派員と会談の結果我が方警官の撤退を行  
うよう長春領事宛電報

外務大臣發本官宛電報第二〇號ニ關シ  
~~~~~

知スヘシト答ヘ置ケルカ鍾ハ本交渉ヲ委任セラレタル
自分ノ言ヲ信用シ安心セラレタシト繰返シ居リタルニ
付一應之ニ信頼シ撤退ヲ實行セラレ然ルヘシト存ス尙
日取ハ省政府ヨリ派員ノ要モアルニ付御決定ノ上本官
ヘ御通知ヲ請フ

三、前記「交渉ニ依ル解決ヲ待テ」ナル意味ノ不徹底ナル

コトヲ指摘シタルニ鍾ハ支那側ニテハ之ニテ充分分
モノニシテ日本側ノ危惧セラルル如キ事態ハ萬生セス
ト言ヘルニ付我方トシテハ事故發生ノ場合本電第一項

ノ（二）ノ申入力空言ニ終ラサル様覺悟ヲ極メ置ク必要ア
リト思考ス

四、御來吉ノ際御話セシ通り先方ノ希望ヲ容レ鮮農ノ家屋

建築ハ問題解決迄見合スコト但シ家主ヲ壓迫シテ鮮人
ヲ追出ス等ノ行爲（貴官御話ノ例ヲ引キ）アルトキハ

鮮農ハ家屋ヲ建築スヘキコト今年ハ農作ヲ中止スル意
嚮ナルコト水害防止ノ爲ニハ鮮農ヲシテ必要ノ程度丈
堰止ヲ取壊サシムルコト及復舊工事ハ解決迄見合スヘ
キコト等ニ話合ヒタルニ付右御承知ノ上然ルヘク先方
ヲ指導セラルル様致度シ

一、鍾毓ハ歸吉後病臥セルニ付昨二日彼ト會見（施履本列席）更メテ（）問題解決迄鮮農ノ居住ヲ妨害シ又工事ヲ破壞セサルコト（）之ニ反セル行爲アリタルトキハ我方ハ自衛ノ必要ニ應シ何時ト雖警察ヲ派出スヘキコトヲ申入レ自發的ニ撤警スル旨ヲ告ケタルニ先方ハ從來ノ主張通り（）ハ交換條件ニアラス又新聞ニ出サレテハ困ルトテ之ヲ了承シ（）ハ支那側トシテ之ヲ承認シ得サルモ斯ノ如キ必要ヲ生セシメサル様措置スト云ヘリ
二、撤警ノ時期ニ付テハ貴方トノ御協議ニ基キ前項ノ（）ニ關スル命令力地方官ニ徹底シ居ルヤ否ヤヲ貴官ニ確メタル上直ニ撤退スル筈ナリト告ケタル處鍾ハ地方官ニ對シテハ不敢交渉ニ依ル解決ヲ待テト傳ヘ置キタル力自分ヲ信用セラレ田代領事ヨリ地方官ニ確ムルコトハ無用ニセラレタシト主張シ尙撤退ノ日取確定ノ上ハ之ヲ自分ニ通知願度ク左スレハ當日ハ省政府ヨリ特ニ人ヲ現場ニ派シテ（）ノ趣旨ヲ地方官憲及地方民ニ充分申渡スコトニ取計フ考ナリト言ヘリ本官ハ撤退ノ實行ハ田代領事ノ裁量ニ一任スルヨリ外ナシ又前記ノ目的ニテ省政府ヨリ現場ニ派員スルナラハ撤警ノ日取ヲ通支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ
外務大臣、哈爾賓、奉天、間島、北平、支、南京、朝鮮總督、關東長官へ轉電セリ
~~~~~

252 昭和6年8月4日 帪原外務大臣より 在中國重光臨時代理公使宛（電報）  
朝鮮事件に關する王外交部長の第二回抗議に対  
する回答内容につき訓令  
本省 8月4日発  
第二七三號（至急、略）  
貴電第六四八號ニ關シ  
朝鮮事件ニ關スル外交部長第二回公文ニ對シテハ左ノ趣旨ニテ回答セラレ度（尙本公文ハ今後必要ニ應シ發表スヘキニ付右ニ御含置アリ度）  
一、朝鮮事件ノ直接ノ動機カ萬寶山事件ニ在リタルコトハ論議ノ餘地無シ外交部長カ同事件ニ於テ中國地方官憲ニ何等鮮農壓迫ノ事實無キコトヲ論斷セラレタルハ自ラ鮮農壓迫ノ意思ナキコトヲ明ニセラレタルモノト諒悉セラルルト共ニ右事實ノ否定ハ實情ニ違背スルモノ

ナリ萬寶山事件ニ關シテハ別ニ詳細申入ル所アルヘ  
キ處昭和二年中國官憲ノ鮮人壓迫問題喧傳セラレタル  
際ニモ鮮内ニ今回ト同性質ノ事件起リ客年間島事件敦  
化事件等ノ際亦鮮内ニ動搖アリタル事實ハ以テ鮮人一  
般力如何ニ在滿同胞ノ境遇ニ敏感ナルカヲ證スルニ足  
ルヘシ故ニ朝鮮總督府ニ於テハ七月初鮮内ニ不穏ノ狀  
アルヲ見ルヤ機ヲ逸セス新聞紙發行地所轄官憲ニ對シ  
想像ニ亘ルモノハ勿論事實ニ基クモノト雖著シク民心  
ヲ刺戟シ又ハ誇大且煽動的ナル記事ハ一切掲載セシメ  
サル様訓達スル所アリ右ハ同府ニ於テ從來ノ經驗ニ鑑  
ミ斯クノ如キ狀勢ノ歸趣ヲ憂慮シ不祥事件ヲ未然ニ防  
止セムカ爲早キニ臨ミ警戒ヲ加ヘタルモノニ外ナラス  
而シテ鮮支人衝突ノ結果不幸中國人ニ死傷者ヲ出シタ  
ルハ平壤外少數ノ都邑ニシテ其他ノ地方ニ在リテハ多  
クハ何等事故ノ發生ヲ見ス其ノ發生シタルモノニアリ  
テモ何レモ大事ニ至ラスシテ經過シタリ其間朝鮮總督  
府當局ニ於テ在留中國人ノ保護ニ如何ニ最善ヲ盡シタ  
ルカハ既ニ七月十五日附帝國政府回答中ニ詳悉セル所  
ニシテ外交部長公文中帝國官憲力事前及事後ノ措置宜

ト思考セラル帝國政府トシテハ今回ノ事件ノ爲犠牲ト  
ナリタル中國人ニ對シ深ク同情ヲ寄セ右法理及實例ニ  
拘泥スルコト無ク專ラ人道上ノ見地ヨリ夫々救恤ノ途  
ヲ講シタル次第ニシテ本件ニ關スル帝國政府ノ公正ナ  
ル態度ハ中國側ニ於テモ深ク諒トセラルヘキコトヲ疑  
ハス

三、朝鮮内ノ事態ハ夙ニ平靜ニ歸シ關係地方ノ民心モ全ク  
收マリ今日ニ於テハ中國人ノ生命財產ノ安全ニ付復々  
憂惧スヘキモノ無キニ至レルモ地方官憲ニ於テ今後共  
在留中國人ノ保護ニ付最善ヲ竭スヘキハ言ヲ俟タス今  
回ノ事件ニ付テハ國民政府ニ於テモ當初ヨリ事態ノ擴  
大ヲ防止スルノ方針ヲ表明セラレタルハ帝國政府ノ深  
ク多トスル所ナルカ最近中國内各地ノ狀況ヲ見ルニ中  
國各地ノ新聞紙ハ今尙擅ニ煽動的記事ヲ掲ケテ底止ス  
ル所無ク甚シキハ帝國政府カ中國現下ノ政情ニ關與シ  
テ何等カノ策動ヲ試ミタルカ如キ荒唐無稽ノ浮説ヲ傳  
フルモノサヘアリ而モ排日貨運動ハ上海有力實業家ノ  
組織セル私的團体カ其中心ヲ成シ是等團体ニ於テハ日  
貨抵制ノ爲實力干涉行動ニ出テ居ルノミナラス其決定

シキヲ失ヒタル爲暴動全鮮ニ蔓延シ中國人ノ生命財產  
共ニ無保護ノ狀態ヲ呈シタリト爲スカ如キハ甚シク事  
實ニ副ハサルモノト謂フヘク帝國政府トシテハ此際中  
國官民力鮮内ニ於ケル通信員又ハ一部避難民等ノ無責  
任ナル報道又ハ宣傳ヲ輕信セラルコトナク慎重公平  
ニ事實ヲ判斷セラレムコトヲ希望セサルヲ得ス

二、凡ソ普通ノ治安維持狀態ヲ有スル國家間ノ通則ニ據ル  
ニ一國ノ個人外國人ノ身體又ハ財產ニ對シ加ヘタル  
損害ニ關シテハ該國家ハ當時ノ事情ニ照ラシ加害行爲  
ノ豫防鎮壓又ハ處罰ノ爲通常講セラルヘキ措置ヲ執リ  
タル場合ハ責任ヲ負ハサルモノトセラレ又暴動ニ因ル  
外國人ノ損害ニ付テモ損害豫防及加害者ノ處罰ニ付相  
當ノ注意ヲ加ヘタル以上國家ハ原則トシテ責任ヲ負フ  
コト無キモノトセラルハ國民政府ノ詳知セラル通  
ナルト同時ニ從來帝國臣民殊ニ鮮人力中國内ニ於テ當  
然ノ保護ヲ享クルコトヲ得ス甚シキハ中國官憲ノ行爲  
ニ依リ身體上及財產上不法ノ侵害ヲ蒙リタル實例極メ  
テ多數ニ上リ而モ其ノ大多數ハ未タ賠償ヲ受ケ居ラサ  
ルノ事實モ亦夙ニ國民政府ノ充分認識セラル所ナリ

ニ係ル所謂辦法中ニハ個人ニ對スル罰則ヲ包含シ居ル  
旨ノ確報アリ斯クノ如キ私的團体ノ組織的行動ハ中國  
ノ國權ヲ否認シ且國民政府ノ意思ニ背反スルニ拘ラス  
國民政府トシテ之ニ對シ事實上適切有效ノ取締ヲ行フ  
コト能ハサルモノト解スヘキヤ否ヤ此事態ニ方リ帝國  
政府ハ國民政府ノ深甚ナル考慮ヲ求メサルヲ得ス（以  
上）

上海南京ニ轉報シ貴電ト共ニ漢口廣東ニ轉電アリ度  
奉天、吉林、長春、哈爾賓、間島、北平、朝鮮總督府ニ轉  
電シ

貴電ト共ニ天津、青島、濟南、關東長官ニ轉電シ在歐各大  
使、國際聯盟事務局ニ轉報セリ

253 昭和6年8月4日 今井田總督府政務總監より  
堀切拓務次官宛

在朝鮮中國居留民に対する我が方慰問金を申

官秘第一一〇號

昭和六年八月四日

拓務次官 堀切 善次郎殿

鮮支人衝突事件ニ關スル件

七月十六日附拓務次官發電機密第四號中國側ニ於ケル慰問金拒否ニ關スル今日迄ノ經過参考ノ爲申報ス

一 事件直後京城ニ於ケル中國居留民等ハ極度ニ昂奮シ居リタル爲外國人ノ慰問品ハ受クヘキモ日本側ヨリノ寄贈ハ一切之ヲ受クベカラズト稱シ居リシモ總領事ガ夫ノ然ルベカラザルヲ論シタル爲日本側ノ慰問品モ民間側ノ分ハ喜ンデ受納スルノ態度ニ出デタリ平壤ニ於テハ當初ヨリ此ノ如キ氣分ナク食料及避難所等道廳ノ救恤ヲ喜ンデ受ケツツアリタリ

一 七月十日京畿道ニ於テ京城仁川ノ避難民慰問ノ爲地方費ヨリ二千圓ヲ支出スルコトニ決シ内務部長ヨリ京城中國商務會會頭宮鶴汀ニ對シ其ノ旨ヲ通ジタル處宮ハ官廳ヨリノ慰問品ハ總領事ト相談ノ上ナラデハ受ケ難シト回答シ總領事ト協議ノ上本國政府ニ電報ニテ伺送シタルガ如シ

一 京城ニ於ケル中國側ノ態度此ノ如クナリシヲ以テ内務

部長ハ慰問金ノ半額千圓ヲ携帶シ十一月仁川ニ赴キ中國總領事館仁川分駐所主任蔣文鶴立會ノ上商總會會頭傳紹禹ニ之ヲ交付シタル處兩人共深ク道廳ノ同情ヲ謝シ喜ンデ受納シタリ

一 京畿道ノ慰問金ニ對スル中國側ノ態度京城ト仁川トスノ如ク區區ナリシヨリ後日豫備金支出ノ弔慰見舞金ノ問題モ生ズルコトテ本府外事課長ハ十二日總領事並商總會會頭訪問ノ際坐談トシテ今回ノ事件ハ誠ニ遺憾トスル處ナルガ之ニ對スル官民ノ慰問弔慰ハ眞ニ同情ノ念ノ發露ニシテ官廳トシテモ國內ニ事件ノ生ジタル際ハ罹災者ノ内國人タルト外国人タルトヲ問ハズ慰問スルヲ常例トスルモノナルヲ以テ居留民ガ一時ノ激昂ヨリ道廳ノ厚意ヲ拒否スル等ノコトアルトキハ事件ハ事件トシテ今後益々友誼ヲ厚クスベキ兩國民ノ間ニ氣マヅキ感情ヲ<sup>(遺)</sup>ス基トナルベシ此ノ點充分考慮セラレタキ旨述ベシニ兩人共自分達トシテハヨク理解シ居ルモ本件ニ關シテハ目下本國ニ經伺中ナリト語レリ

一 其ノ後外交部ヨリ總領事ニ對シ慰問金ヲ受クベカラズトノ電命アリシ如ク察セラルモ總領事ハ總督府ニ對シ割合順調ニ運ビ得ベク想像セラル内務局ニ於テハ目下至急死傷者ノ身元等ニ關スル調查ヲ進メ出來得ル丈ヶ迅速ニ交付ヲ完了スベク手配中ナリアリトノ來電アリシニヨリ内務局ヨリ道廳ニ對シ第二豫備金勅裁前ト雖モ至急救濟ノ必要アルモノニ對シテハ便宜ノ方法ニ依リ立替交付スベキ旨申送リ十八日道ニ於テ遣族九名負傷者四十四名ニ對シ夫々弔慰金見舞金ヲ道地方費ヨリ立替交付シタリ

ノ困難ハアルベキモ平壤ニ於テハ既ニ一部受納シ居リ仁川ニ於テモ道廳ノ慰問金ヲ受取り居ル等ノ事實ヨリ見テ割合順調ニ運ビ得ベク想像セラル内務局ニ於テハ目下至急死傷者ノ身元等ニ關スル調査ヲ進メ出來得ル丈ヶ迅速ニ交付ヲ完了スベク手配中ナリ以 上

254 昭和6年8月6日

在長春田代領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

我が警察官撤退後の不安を持つ朝鮮人を慰留並び同撤退を八日に予定と吉林總領事に通報について

長春 8月6日後着

本省 8月6日後着

第八二號（略）  
本官發吉林宛電報

第一二號

貴電第一八號及第一九號ヲ以テ取急キ警官撤退方御來示ノ次第アリタルニ付明七日早朝藏本及中川警部ヲ現地ニ派シ撤退後ノ居住ニ付不安ノ念ニ馳ラレツツアル鮮人（最近ノ

一 二十一日汪公使汪榮寶ガ平壤ヲ訪問シタル際内務部長ハ遣族並負傷者ニ慰問金ヲ交付シタル旨ヲ語リシニ公使ハ其ノ厚意ヲ深謝シタル由ナリ

一 中國駐日公使汪榮寶ガ平壤ヲ訪問シタル際内務部長ハ

課長ニ對シ自分ハ視察ノ結果弔慰金等ノ性質モ了解シタレバ平南知事ニ對シ謝辭ヲ述べタル程ナリ  
ト語レリ

一 弔慰金等ノ問題ハ上述ノ如キ經過ニテ中國政府ヨリ總領事ニ對シ拒否ノ電命アル如ク察セラル點ヨリ尙多少

二 万宝山事件関係

257 昭和6年8月8日

在長春田代領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

支、北平、奉天、吉林、哈爾賓、長春、朝鮮總督へ轉電セ  
リ

外相ト鮮人ノ國籍問題ニ付テモ討議セルカ若シ本件カ徹底  
的ニ解決シ得ルニ於テハ其他ノ問題ハ解決ニ難カラス云々  
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

者ニ對スル談話要領左ノ通  
朝鮮事件調査狀況ニ關シテハ北平、天津、上海各地ノ新聞  
記者ニモ一通り話シ置キタルカ政府ニ報告スル迄ハ之以上  
話シ得ス今回ノ調査ニハ十二日間ヲ要シタリ損害ノ最大ナ  
ル京城、鎮南浦兩地ノ統計ハ明確トナリ又平壊ノ分ハ京城、  
鎮南浦、平壊ノ商會ヲシテ詳細取調方命シ置ケリ華僑ニ對  
スル善後處置トシテハ死亡者ハ埋葬シ負傷者ニハ治療ヲ加  
ヘ失業者ニ對シテハ目下日本側ニ於テ醸金撫恤シツツアリ  
余ハ奉天ニテ張作相張景惠トヨリ萬寶山事件ニ關スル詳細  
ナル經過ヲ聞キ又北平ニ於テハ張副司令ニモ面會セルカ張  
ハ總テ中央ノ命令ニ從ヒ何等固執スル所ナシ余ハ過日幣原  
外相ト鮮人ノ國籍問題ニ付テモ討議セルカ若シ本件カ徹底  
的ニ解決シ得ルニ於テハ其他ノ問題ハ解決ニ難カラス云々

尙堰止一部取除キ工事ハ目下伊通河ハ増水ノ爲着手不能ノ  
狀態ナルヲ以テ減水次第實施ノ豫定ナルモ或ハ撤退後トナ  
ルヤモ計ラレス

大臣、支、北平、奉天、哈爾賓、間島、南京、朝鮮總督、  
關東長官へ轉電セリ

255 昭和6年8月7日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

遼寧省當局は朝鮮人驅逐密令を否定するも吉林  
省で駆逐事実あり張作相に嚴談の手筈について

奉天 8月7日後着 発

本省 8月7日後着 南京 8月7日後着

第四四五號（暗） 貴電第一五九號ニ關シ

當省ニ於テモ傾日來鮮人驅逐ノ密令發セラレタリ等ノ情報  
汪榮寶ハ七日上海ヨリ來京即日王部長ニ面會セルカ新聞記  
者我が方は万宝山派遣警察官撤退を無事完了し  
た旨吉林總領事に通報について

長春 8月8日後発 本省 8月8日後着

第八四號（暗） 第八四號（暗）

本官發吉林宛電報

第一三號 往電第一二號ニ關シ

萬寶山派遣警察官全員本八日午後一時馬廠溝出發同五時半  
歸長無事引揚ヲ了シタリ右不取敢  
往電第一二號ノ通り轉電セリ

258 昭和6年8月13日 在中國重光公使宛  
幣原外務大臣より

万宝山事件に関する国民政府抗議に対する日  
本政府の回答公文について

亞二機密第一六四號

調査ニ依レハ六戸二五世帶百五名）ニ對シ安シテ現地ニ踏  
止ル様充分言ヒ含ムルト共ニ警官宿泊中國人家屋ニ對スル  
家賃支拂等ノ整理ヲ爲サシメタル上八日一齊ニ警官ヲ撤退  
スル事トセリ

尙堰止一部取除キ工事ハ目下伊通河ハ増水ノ爲着手不能ノ  
狀態ナルヲ以テ減水次第實施ノ豫定ナルモ或ハ撤退後トナ  
ルヤモ計ラレス

大臣、支、北平、奉天、哈爾賓、間島、南京、朝鮮總督、  
關東長官へ轉電セリ

尙堰止一部取除キ工事ハ目下伊通河ハ増水ノ爲着手不能ノ  
狀態ナルヲ以テ減水次第實施ノ豫定ナルモ或ハ撤退後トナ  
ルヤモ計ラレス

大臣、支、北平、奉天、哈爾賓、間島、南京、朝鮮總督、  
關東長官へ轉電セリ

ニ接シタルニ依リ臧主席及王交渉員ニ對シ報道ヲ端緒ニ警  
告ヲ與ヘタルニ對シ臧主席等ハ關係ノ向ニ確メタルモ斯ル  
密令ヲ發シタル事實ナキコト及省政府ニ鮮人驅逐ノ意思ナ  
キコトヲ表明シ遼寧省ニ關スル限り鮮人ニ對シ不法壓迫ノ  
事態ハ發生セシメスト斷言シ居リ將又實際問題トシテモ未  
タ格別問題ヲ生シ居ラサルニ依リ暫ク深甚ノ注意ヲ拂ヒツ  
ツ成行ヲ靜觀スル所以ナル處吉林省ニハ既ニ所在鮮人驅逐  
ノ事實發生シ居ルニ依リ張作相ニ對シ嚴談スル手筈ヲ定メ  
居ルモ作相引籠リノ爲尙一兩日遲ルコトトナルヘシ  
支、吉林、長春へ轉電セリ

在中國

公使 重光 萩殿

萬寶山事件 民國抗議 二對スル帝國政府回答文ニ關スル件

萬寶山事件ニ關スル七月二十二日附國民政府外交部長公文ニ對シテハ別紙公文案ノ通り回答セラレ度

本信寫送付先

在滿各總領事、在長春、安東、南京、各領事、在天津、青島、濟南、上海、漢口、廣東各總領事、在北平參事官

朝鮮總督、關東長官

在歐米各大使、國際聯盟帝國事務局長

(別紙)

以書翰啓上致候陳者萬寶山事件ニ關シ七月廿二日附貴翰ヲ以テ御申越ノ趣旨悉致候貴翰ノ趣旨ハ早速帝國政府ニ移牒シ置キタル處今般帝國政府ノ訓令ニ基キ本使ハ貴部長ニ對シ左ノ通り回答スルノ光榮ヲ有シ候

一、外交部長公文中ニ引用セラレタル吉林省人民政府ノ萬寶山

事件ニ關スル報告中ニハ事實ニ符合セサルモノト認メラル所多ク此種事件ヲ公正ニ處理スル力爲メニハ正確ナル事實ニ立脚スルヲ要スルヲ以テ先ソ帝國政府ノ精査セル本件ノ真相ニ關シ國民政府ノ注意ヲ喚起セサルヲ得ス

ト無クシテ工事ノ大半ヲ竣成セリ然ルニ其後地主等ノ態度一變シテ鮮農ノ工事ニ反対ヲ唱ヘ民國地方官憲亦五月二十五日突如武<sup>(襲)</sup>警數名ヲ現場ニ派遣シ鮮人工事監督ヲ逮捕引致シタル外鮮農二名ヲ強打重傷セシメタルヲ以テ在長春帝國領事ハ直チニ市政籌備處長ニ對シ地方官憲ノ暴行制止方ヲ要求スルト同時ニ其ノ諒解ヲ取付ケタル上館員一名ニ警察官四名及醫師一名ヲ附シ現場ニ急行調査セシメタルカ萬寶山公安分局長ハ鮮農壓迫ノ意思無キ旨ヲ言明シ逮捕セラレタル鮮人モ釋放セラレ事態平穩ニ歸シタルヲ以テ直チニ歸還シタルニ同三十日公安局長ハ省政府ノ命ナリト稱シ突如二百名ノ巡警及馬隊ヲ現場ニ派遣シ工事中ノ鮮人十名ヲ強制押送スルニ至レリ依テ帝國領事ハ双方農民間ノ調停及民國出先官憲トノ聯絡ノ目的ヲ以テ六月二日私服警察官六名ヲ民國護照携帶急行セシメ事態ノ紛糾ヲ防止スル爲鮮人ノ工事ヲ一時中止セシムルト共ニ在奉天及吉林帝國總領事トモ連絡シ吉林省人民政府及民國地方政府憲ト和平解決方ニ付百方折衝シ更ニ双方ヨリ共同調査隊ヲ組織シ兩日ニ亘リ實地調査ヲ行ハシメタル結果民

國側ニテハ鮮農力善意ニテ耕作ニ著手シタル事實ヲ承認シタルモ借地契約ニ手續上缺陷アルコト及地主側ノ反対强硬ナルコト等ヲ理由トシテ鮮人ノ定着ヲ肯セサリシヲ以テ在長春領事ヨリ更ニ工事ニ依リ生スルコトアルヘキ民國人側ノ損害ニ對シテハ鮮農ヲシテ適宜賠償セシムヘク且交通上ニ及ホスコトアルヘキ支障ニ對シテハ橋梁ノ建設其他ノ方法ヲ講セシムヘキ旨ヲ提議シ條理ヲ盡シテ交渉ヲ重ねタルモ民國側ノ顧ミル所トナラス徒ラニ時日ヲ經過シ爲メニ鮮農ハ播種ノ期ヲ失フノ惧アルニ至リタルヲ以テ已ムヲ得ス一旦中止セル工事ヲ再開シタル處七月一日約四百名ノ民國農民ハ暴力ヲ以テ工事ノ破壊ヲ企テ事態容易ナラサルニ至レリ。依テ我領事ハ至急市政籌備處長ニ對シ暴民ノ鎮壓方要求シタルモ其ノ見込無シトシテ明白ニ責任ヲ回避シタルヲ以テ双方農民ノ衝突ヲ防止スルノ緊急ノ必要上民國側ニ知照ノ上兩度ニ分チ警察官十八名ヲ增派シタルニ翌二日民國暴民約五百名ハ更ニ武器ヲ携帶シテ再び現場ニ殺到シ我警察官ノ鎮撫ヲ聽カス遂ニ之ニ向ツテ發砲スルニ至レルヲ以テ我ニ於テモ自衛上之ニ應射ス

ルノ已ム無キニ至レリ右ノ報ニ接シ我領事館ニ於テハ急<sup>(速)</sup>據十三名ノ應援警察官ヲ派遣スルト共ニ民國官憲ニ對シ危急ヲ告ケテ善處ヲ求メタルモ我警察官ノ撤退セサル限り暴民鎮壓ノ見込無シトテ依然誠意ナカリシヲ以テ暴民ハ一旦退散シタルモ事態ノ急變ヲ保セサルニ鑑ミ三日更二十名ノ警察官ヲ増派シテ萬一二備ヘシメタルモノナリ

二、以上ノ事實ヨリ凡ソ次ノ諸項ヲ結論スルコトヲ得ヘシ第一ニ鮮農ノ行動ハ全然善意ニシテ其ノ契約ニ基ク行動上不法且失當トシテ非難セラルヘキ點ヲ認メス民國側ニ於テハ該契約カ未タ官憲ノ許可ヲ得サルニ擅ニ入境シテ工事ヲ開始シタリト爲スモ其ノ當ラサルコト前陳事件ノ經緯ニ徵シ明力ナルヘク又鮮農ハ條約上墾地居住ノ權利無キヲ以テ其ノ借地契約ハ無効ナリトノ所論ハ鮮農ノ條約上ノ權利ニ關スル根本的誤謬ニ基クモノニシテ後ニ詳述スヘキ理由ニ依リ帝國政府ノ承認シ得サル所ナリ更ニ地主側ニ反対アリタリトル民國側ノ主張ヲ查スルニ水路工事ニ依リ沿岸民田ニ浸水スルカ如キハ現地ノ地形上其ノ危<sup>(一チ分アキ)</sup>少キノミナラス萬一浸

ヒ又萬寶山事件ニ關スル我關係領事トノ會談等ニ於テ張吉林省主席及其他ノ省政府主腦當局ハ民國側ニ於テハ毫モ鮮人排斥ノ意思無ク又地方官憲ニ對シ之ヲ命シタルコト無キ旨ヲ言明シ居ルモ萬寶山事件善後交渉ニ於テ工事ニ依リ民國人ニ及ホスコトアルヘキ損害ハ之ヲ補償セシメ且交通ニ及ホス障害除去方ニ付テモ適宜考慮スヘントノ我領事ノ公正ナル提議モ民國官憲ノ顧ル所ト爲ラス民國巡警力實力ヲ以テ鮮人ヲ逮捕押送シ又民國農民ノ暴行ニ對シ辭ヲ設ケテ何等制止ヲ加ヘサリシ等民國官憲ノ根本方針力鮮農驅逐ニ在リタルコトヲ歸納セサルヲ得サル反證多々アルノミナラス確聞スル所ニ依レハ五月初吉林省府ハ長春市政籌備處長ニ對シ鮮人ノ新移住者ニハ絶對ニ居住ヲ許ス可ラサルト共ニ從來ヨリ居住スル者ニ對シテモ適宜手段ヲ講シテ退去セシムヘキ旨ノ密令ヲ下シタル趣ニシテ當初鮮農ノ開墾工事ニ對シ何等妨害ヲ加ヘサリシ地方官民力俄カニ其態度ヲ翻ヘシタルノ事實ハ偶以テ其間ノ消息ヲ裏書スルモノト解スヘシ

第三ニ外交部長公文中我警察官力<sup>(一チ分アキ)</sup>ニ民國內地ニ侵入

水シタル場合ニハ鮮農ニ於テ工事ノ一部ヲ決壊スルト共ニ之力爲メニ民國農民ニ與フルコトアルヘキ損害ヲ補償スルノ用意アリタルコト、水路工事ニ付地主側ニ對シ十分ノ報償ヲ拂フヘキコトハ借地契約中ニ明記スル所ナルコト並鮮人ノ開墾ニ依リ何等收穫無カリシ荒蕪地ハ水田ト成リ又水路ハ同時ニ排水溝トナリテ兩側ノ荒蕪地ヲ畑地タラシメ得ヘキ等地主側ノ利益トナルヘキモノ尠カラサルコト等ノ事實ニ顧ミ右民國側主張ノ理由ナキコトヲ證スルニ足ルヘシ當初地主側ニ於テ好意ヲ以テ鮮人ヲ迎ヘタルノ風アリタルハ前陳ノ如クナル處其後俄カニ之ニ反対スルニ至リタルハ其間何等爲ニスル者ノ不純ナル策動介在シタルモノニ非サルナキヤ何レニスルモ右ハ地主側ノ眞意ニ基クモノトハ認メラレス要スルニ外交部長ノ指摘セラレタルカ如ク鮮農ニ於テ秩序ヲ妨害シ公共ノ危險ヲ誘致シ其他毀棄損壞等刑事犯罪ヲ構成スルカ如キ行動無カリシコトハ實地ノ情形ニ徵シ明瞭ナリト信ス

第二ニ朝鮮事件ニ關スル七月七日附外交部長公文ニ萬寶山事件ニ於テ民國側力鮮人ヲ壓迫シタル事無シト謂

サルニ至ルカ如キ事態ノ發生セサラムコトヲ希望ス

尙民國駐在帝國領事館警察官ハ居留民ノ保護取締上實情之  
カ駐派ヲ必要トスルニ鑑ミ配屬セシメ居ルモノナルカ民國  
官民ノ誤解ヲ避ケ並其ノ職務執行上民國警察官ト連絡協調  
ヲ保タシムルコトニ出來得ル限り配意セシメ居ル次第ハ客

年五月二十九日附外交部照會ニ對シ同七月十六日附在華重  
光代理公使覺書ヲ以テ回答申入ノ通ナリ帝國政府ハ右警察  
官ノ駐派ニ依リ毫モ民國行政權ヲ侵害セムトスルモノニ非

サルト同時ニ在留民ノ保護取締上已ムヲ得サル必要無クシ  
テ擅ニ之ヲ民國內地ニ侵入セシムルカ如キコト有リ得ヘカ  
ラサルハ亦聲明ヲ要セサル所ナリ

第四ニ吉林省府報告中ニハ民國農民ノ工事破壞後同政府  
ハ縣政府及市政籌備處長ニ對シ人民ノ妄動禁止方ヲ命スル  
ト共ニ同處長ヲシテ理ニ基キ交渉方訓令セルモ日本側ハ其  
主張ヲ固持シテ毫モ解決ノ見込無カリシ旨ヲ述ヘ居ル處地  
方官憲カ我領事ノ要求ニ拘ハラス民國農民ノ暴行取締ニ付  
明白ニ其責任ヲ回避シタルハ前陳ノ通ニシテ從ツテ右暴民  
ノ暴行ハ民國官憲ノ默過又ハ不作爲ノ裡ニ行ハレタルモノ  
ト謂ハサルヲ得ス又我領事ハ事件ノ當初ヨリ鮮農ノ借地契

約ニ瑕疵無ク從ツテ民國側ヨリ追放セラルルノ理由無キ事  
實ニ立脚シ之力爲前陳ノ如キ公正ナル條件ヲ以テ圓滿解決  
方ニ付民國地方官憲トノ間ニ銳意交渉ヲ重ネタルニ不拘遂  
ニ其ノ顧ミル所トナラサリシモノニシテ鮮農驅逐ノ根本方  
針ヲ貫カム力爲實力ヲ以テ其善意ノ行動ヲ壓制シ遂ニ農民  
ノ暴行ヲ看過シテ事態ノ紛糾ヲ招クヲ辭セサリシ民國官憲  
ノ態度ト我領事ノ措置トヲ對比シ其ノ何レニ理アリヤハ自  
ラ明白ナルヘント思考ス

之ヲ要スルニ萬寶山事件ノ理非曲直ニ付テハ國民政府ニ於  
テ今少シク事件ノ眞相ニ付公平ニ判斷セラルルコトヲ希望  
スルト同時ニ元來些細ナル一地方問題ニ過キサル本件ヲシ  
テ今日ノ如ク紛糾擴大スルニ至ラシメタルハ歸スル所民國  
側ノ鮮人驅逐方針ニ起因スルモノナルコトニ付同政府ノ深  
甚ナル省慮ヲ求メムト欲ス

三、東三省ニ於テ鮮農ノ墾地居住シ得ルハ圖們江北延吉、  
汪精、和龍琿春ノ四縣ニ限ラレ右以外ノ地域ニ於テハ  
條約上鮮農ニ其ノ權利無シト斷定セラルル外交部長ノ  
所論ハ帝國政府ノ承認シ得サル所ナリ蓋シ明治四十二  
年（宣統元年）ノ協約ニ在リテハ帝國ハ民國ニ對シ新

ニ圖們江北地方ノ領土權ヲ認ムル代償トシテ民國ニ於  
テ同地域居住鮮人ニ對シ獨リ墾地居住ノ權ノミナラス  
土地所有權ヲ含ム權利ヲ認メタルモノナルカ其ノ後兩  
國政府ハ滿洲方面ニ於ケル兩國ノ特殊緊密ノ關係ニ條  
約上ノ規整ヲ加フル爲大正四年（民國四年）別ニ南滿  
洲及東部內蒙古ニ關スル條約ヲ締結シ之ニ依リ帝國臣  
民ハ南滿洲ニ於テ自由ニ居住往來及營業ヲ爲シ並ニ各  
種商工業上ノ建物ヲ建設スル爲メ又ハ農業ヲ經營スル  
爲メ必要ナル土地ヲ商租スルノ權利ヲ與ヘラレタル次  
第ハ國民政府ノ詳知セラルル通ニシテ延邊四縣以外ト  
雖モ該條約ノ適用セラルル地域内ニ於テ帝國臣民タル  
鮮人力居住往來シテ農業ヲ營ムハ勿論農業用ノ土地ヲ  
商租スルノ權利ヲ有スルコトハ該條約ノ明文上一點ノ  
疑ヲ容レス况ヤ萬寶山地方ニ於テ鮮農力民國人トノ契  
約ニ依リ取得セル權利ハ商租權ニ非スシテ普通ノ借地  
權ニ止マニ於テヲヤ

四、抑々鮮人ノ滿洲移住ハ鮮滿兩地ノ接壤關係上古キ歷史  
ヲ有シ其ノ滿洲地方ニ於テ社會的並經濟的ニ一勢力ヲ  
成スニ至レルハ既ニ數十年前ノコトニ屬ス當初同地方

而シテ民國官民ハ鮮人排斥ノ口實トシテ動モスレハ鮮  
人ノ身體財產上ニ損害ヲ受ケタルコト亦稀ナリトセ

万宝山事件の過渡的解決弁法に関する交渉経過要領報告について

敬具

~~~~~

人ヲ以テ日本ノ満蒙侵略ノ先驅ナリヘ爲スノ風アル處斯カル憶斷ノ如何ニ荒唐無稽ナルカハ茲ニ特ニ指摘スルノ要ナカルヘシ又最近ニ至リテハ共産黨取締ニ藉口シ不當ニ鮮人ヲ彈壓驅逐スルカ如キ事例稀ナリトセス共産黨ノ取締ハ日華兩國共通ノ利害ニ關スルヲ以テ應ニ兩國ノ協力スヘキ所ニ屬スルニ鑑ミ帝國政府ハ共匪ニ關スル情報交換等之力取締上ノ聯絡協調方に付夙ニ東三省當局トノ間ニ開談スル所アリタルモ該當局ニ於テハ不幸ニシテ虛心坦懷我ト協力スルノ襟度ヲ示サス多クノ場合一方的ニ取締ヲ行フモ事前ノ查察周密ナラサル爲往々ニシテ眞個ノ共匪ヲ逸シ却テ何等共匪ニ關係無キ無辜ノ鮮人ヲ處罰追放スルカ如キ弊アルハ極メテ遺憾トセサルヲ得ス萬寶山農場ニ移住セル鮮農ノ一團ノ如キモ共匪關係者タルノロ實ニ下ニ敦化方面ヨリ追放セラレタル避難民タルノ事實ハ前陳ノ通ニシテ若シ此等鮮人中眞ニ共產運動ニ關係ヲ有スルモノアラハ帝國出先官憲ニ於テ進テ之カ取締ヲ爲ササルノ理無キ所ナリ民國官憲ノ如上ノ態度ハ前記條約上ノ見地ヲ暫ラク離ルルモ鮮人力過去數十年來民國人ト和親雜居シ

人ヲ以テ日本ノ満蒙侵略ノ先驅ナリヘ爲スノ風アル處斯カル憶斷ノ如何ニ荒唐無稽ナルカハ茲ニ特ニ指摘スルノ要ナカルヘシ又最近ニ至リテハ共産黨取締ニ藉口シ不當ニ鮮人ヲ彈壓驅逐スルカ如キ事例稀ナリトセス共産黨ノ取締ハ日華兩國共通ノ利害ニ關スルヲ以テ應ニ兩國ノ協力スヘキ所ニ屬スルニ鑑ミ帝國政府ハ共匪ニ關スル情報交換等之力取締上ノ聯絡協調方に付夙ニ東三省當局トノ間ニ開談スル所アリタルモ該當局ニ於テハ不幸ニシテ虛心坦懷我ト協力スルノ襟度ヲ示サス多クノ場合一方的ニ取締ヲ行フモ事前ノ查察周密ナラサル爲往々ニシテ眞個ノ共匪ヲ逸シ却テ何等共匪ニ關係無キ無辜ノ鮮人ヲ處罰追放スルカ如キ弊アルハ極メテ遺憾トセサルヲ得ス萬寶山農場ニ移住セル鮮農ノ一團ノ如キモ共匪關係者タルノロ實ニ下ニ敦化方面ヨリ追放セラレタル避難民タルノ事實ハ前陳ノ通ニシテ若シ此等鮮人中眞ニ共產運動ニ關係ヲ有スルモノアラハ帝國出先官憲ニ於テ進テ之カ取締ヲ爲ササルノ理無キ所ナリ民國官憲ノ如上ノ態度ハ前記條約上ノ見地ヲ暫ラク離ルルモ鮮人力過去數十年來民國人ト和親雜居シ

吉林省 8月14日前發
本省 8月14日後着

第七六號（暗）
貴電第二〇號ニ關シ

ニシテ曩ニ七月十五日朝鮮事件ニ關スル帝國政府回答交付ノ際鮮人問題ニ關スル暫定的⁽¹⁾法協定方ニ付在華代理公使ヲシテ外交部長ニ對シ提議セシムル所アリタル主意モ畢竟前記方針ニ立脚セルモノニ外ナラス

六、以上ノ理由ニ依リ帝國政府ハ萬寶山事件ニ關シテハ鮮農ノ水田開拓及ヒ之ニ附隨スル工事ニ依リ若シ民國側ニ不測ノ損害ヲ及ホスコトアラハ鮮農ヲシテ適宜之ヲ補償セシムルノ條件ヲ以テ圓滿ニ事件ノ解決ヲ見ルニ至ラムコト庶幾フト共ニ鮮農ノ同地定着ヲ阻止セムトスルカ如キ民國官憲ノ態度ハ帝國政府ノ自國民ニ對スル職責上到底默視シ得サル所以ヲ十分ニ諒解セラレムコトヲ希望ス

右回答申進旁本使ハ茲ニ閣下ニ向テ重ねテ敬意ヲ表シ候

昭和6年8月14日 在吉林石射總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

万宝山事件の過渡的解決弁法に関する交渉経過要領報告について

テ有無相通シテ平穩裡ニ今日ノ既成關係ヲ作ルニ至レル歴史的事實ヲ全ク否認セムトスルモノニシテ人道上並條理上到底正當視スルヲ得サルト共ニ在滿同胞力其ノ多年ノ貢獻ニ對シ却テ排斥ヲ以テ酬イラレツツアルノ薄倖ナル境遇ニ付一般鮮人力如何ニ敏感トナリツツアルカハ這回ノ鮮末事件ノ立證スル所ニシテ今後右事態ヲ放任スルニ於テハ其ノ民族的感情ヲ益々硬化セシメ第二第三ノ鮮内事件ヲ誘發スルノ虞アリ旁々帝國政府トシテハ重大ナル關心ヲ以テ之ヲ注視セサルヲ得サル所ナリ

五、帝國政府ノ在滿鮮人ノ爲メニ庶幾スル所ハ其ノ居住營業ノ安全ヲ享受シ以テ自ラ經濟上ノ安定向上ヲ計ルノ途ヲ得ルト同時ニ他面其ノ努力ニ依リ荒蕪地ヲ開拓シ以テ民國側ノ福利ヲモ招徠シ兩者ノ間眞ニ共存共榮ノ實ヲ舉ケシムルノ外他意無ク之力爲メニハ民國官憲ニ於テ不法且ツ不當ニ鮮人ノ移住定着ヲ禁遏シ擅ニ之ヲ壓迫スルコト無キヲ要望スルト共ニ帝國トシテモ鮮人ヲシテ其ノ居住營業上出來得ル限リ民國側ニ損害ヲ與フルコト無カラシムルノ方針ヲ以テ一貫シ來レル次第

之ニ對シ右條約ハ一方的廢棄ニ依リ效力ヲ失フコトナシ但

シ強テ之ニ言及スルヲ欲セサルモ必要ナル場合ハ言及已ム
ヲ得スト應酬セリ

次^(二、説)テ先方ハ解決策トシテ(一)鮮人ヲ即刻退去セシメ不合法ノ
契約ヲ廢棄シ水溝及堰止ヲ原狀ニ復スルコト(二)中國民ノ受

ケタル直間接ノ損害及前記恢復費用ハ日本側及鮮人力負擔
スルコト(三)今後ノ保障及本問題ニ關スル日本側責任者ノ嚴
重處分(四)若シ鮮人カ善意ナリシトセハ其失費ハ郝永徳ヲシ
テ賠償セシムヘキコトヲ提案シ先ツ(一)ノ根本問題ヲ決シタ
ル後他ノ事項ヲ研究シタント申出テ(一)ノ理由トシテ同地ハ

墾民區域ニ非サルコト水田豫定地ノ地主ト郝永徳トノ借地
契約ハ(契約ニハ縣政府ノ許可ナケレハ無効トストノ規定
アリ)縣政府ノ許可ナク無効ナリ從テ郝ト鮮農トノ間ノ土

地又貸シ契約ハ無効ナルコト河川ノ堰止ハ吉林省水利規則
ニ依リ(昭和四年公第七三一號拙信報告章程第十一條參照)
支那人ニ對シテモ禁止シ居ルコトヲ舉ケタリ右ニ對シ本官
ハ支那側ノ所謂墾民區域トハ問島ヲ指スモノナランモ萬寶
山ニ於ケル鮮人ノ農業經營ハ大正四年條約上當然ノ權利ナ
ルコトヲ主張セルニ先方ハ假ニ右條約力有效ナリトスルモ

長春縣ハ旗盟ノ地ニシテ東部内蒙古ニ屬スルヲ以テ日支合

的ニシ水溝及堰止ヲ改善シテ地方民及交通ニ害ナカラシム

ルコトb案、農場ヲ中日合辦事業(官民何レニテモ可)ト
シ小作人ニハ鮮支人ヲ以テ之ニ當テ水溝及堰止ハ改善ノ上

該設備ヲ中國官憲ノ管理ニ歸セシムルコトノ二案ヲ提示シ
a案ハ支那側ノ苦情ニ迎合スル案ニシテ堰止ハ開閉式トシ

水溝ハ苦情ノアル地面ヲ土管ニスルモ可ナル旨ヲ説明シ同
意ヲ求メタルニ先方ハ右案ハ襄ニ本官ヨリ省政府ト交渉セ
ル四ヶ條案類似ノ案ナルコト四ヶ條案ハ林總領事張主席間
ノ會談ニ基キ本官ニ於テ撤回セル筈ナルニ之ト類似ノ案ヲ
持出スハ誠意ナキコト並a案ハ民國四年條約ニ即シ居ルコ

トヲ理由トシテ反対セルニ付必シモ四ヶ條案ハ本官ニ於
テ撤回セルモノニアラス唯之ヲ基礎トスル交渉力立消トナ
レルニ付四ヶ條ハ自然消滅ノ形トナレル次第及新ニ右四ヶ
條案ヲ出スヤ否ヤ未定ナル旨ハ襄ニ奉天ニ於テ貴官ノ質問
ニ御答ヘシ置キタル通リナルニ付誤解ナキ様願フ(先方之
ヲ了解セリ)又a案ハ條約ヲ頭ニ置キテ考ヘタルモノニア
ラス全ク貴方ノ認メテ缺點トスルモノヲ矯正スルモノナル

ニ付所謂恩惠主義ニ鑑ミルモ之ヲ承認セラレ差支ナカルヘ
シトノ趣旨ヲ説キタルモ鍾ハ輿論及條約廢棄ニコタワリテ
ノナリ又自分カ中央ヨリ受ケタル命令ハ鮮人ノ退去ヲ催促

辨農業ニ非サレハ不可ナリト言ヘルニ付本官ハ常識的ニ考
ヘテ長春附近力南満ニ屬スルコトハ今日疑ナカルヘク又假
ニ同地カ東蒙ナリトスルモ支那側ノ所謂恩惠主義ニ依リ鮮

人ノ該地農業ヲ認メ差支ナカルヘキ旨ヲ強調セリ

三、尙本官ハ田代領事累次ノ報告ニ基キ本問題ノ原因及經
過ヲ詳細説明シ特ニ鮮農ノ善意及彼等ノ入耕ニ關シ長春領
事館員ニ與ヘタル馬縣知事ノ諒解ヲ強調シ縣知事ノ正式許
可ナキノ故ヲ以テ更契約ヲ無効ナリトスルヲ得ス然シ支
那側ノ不可ト認ムル點ハ之ヲ是正スルニ吝ナラサル旨ヲ述
ヘタルニ鐘ハ本件ハ朝鮮事件ト關聯シ今ヤ全國民ノ輿論沸
騰シ居ル問題ナルヲ以テ到底鮮農ノ居坐リヲ認ムルヲ得ス
ト言ヒ本官ハ本件ハ朝鮮事件ト關係ナク解決スヘキ問題ニ
シテ之カ爲ニハ双方歩寄リヲ爲スコト必要ナルニ支那側ノ
提案ハ餘リニ非妥協的ナリ日本側ニテハ朝鮮人ヲ壓迫スル
ノ意思ナシトノ支那側ノ聲明ノ試金石トシテ本問題ヲ重大
視シ居ルニ付貴方ニ於テ證明スル事例トシテ妥協的ニ本件
ヲ解決シ以テ不愉快ナル空氣ヲ一掃スルコトシタント申
入レタリ

四、本官ヨリa案、中國側ノ不備トスル契約並手續ヲ合法

承服セス

五、依テ本官ハb案ニ移リ其妥協的ニシテ解決案トシテ世
間ヲ首肯セシメ得ヘキコト並日支親善ノ趣旨ニ適フヘキコ
ト等ヲ説明之レ努メタルモ先方ハ右ハ實質的ニ見テ日支條
約中ノ合辦農業ナルヲ以テ愈國民ノ反對ヲ買フヘクa案ニ
更ニ輪ヲ掛ケタル條件ナリ要スルニa b共ニ日支條約ノ換
骨脫胎ニ過キナルヲ以テ同意シ難シ日本側ハ何故飽ク迄鮮
農ヲ現地ニ居据ラセントスルヤ支那側ハ前述ノ通鮮人ニ對
シ寛大ナラストスルモ日本官憲ノ強制ニ依リ已ムナク留マ
リ居ル趣ナリト言ヘルニ付日本側ハ強ヒテ鮮人ノ所(志)
ニ干渉スルモノニアラサルモ萬寶山(問題?)ノ如キハ支
那側ノ誠意ノ存スル處ヲ實例ニ依リ承知シタキカ爲ニ交渉
スル次第ナル旨繰返シ説明セルカ鍾ハ自己ノ提案ハ省政府
及東北政務委員會カ中央ノ趣旨ヲ体シテ一致決定シタルモ
ノナリ又自分カ中央ヨリ受ケタル命令ハ鮮人ノ退去ヲ催促

セヨト言フニアリ故ニ之ニ反シタル解決方法ヲ執リ難キ立

場ニアリト頑張リ本官ハ往電第六四號第三項ノ會談ニ付注

意ヲ喚起シテ反省ヲ求メタル上地方の交渉ノ目的ハ互讓ニ

依ル圓滿解決ニアルモノナレハトテ妥協ノ必要ヲ再説セル

處鍾ハ自分トシテハ他ニ案ノ考へ様ナキニ付支那側案ニ付

最寄ノ方法アラハ貴官ニ於テ研究シ見ラレタシト不貞腐レ

的態度ヲ執ルニ至レリ本官ハ其餘リニ自我的態度ヲ注意シ

支那側案ニ同意スルニアラスンハ此ノ上ノ交渉ヲ拒絕スル

趣旨ナリヤト反問セルニ鍾ハ決シテ其趣旨ニアラスト辯明

セルニ付然ラハ支那側案ノ緩和ハ支那側ニテ考ヘラレタク

本官ハ自己案ヲ考慮シ如何ナル程度迄讓歩シ得ルカヲ研究

シ其結果ヲ御話スヘシト述ヘタルニ鍾ハ支那側ハ之以上如

何トモシ難シト言ヒ張レリ

哈爾賓、長春、奉天、間島、支、北平、南京、朝鮮總督、
關東長官へ轉電セリ

260 昭和6年8月14日

在吉林石射縦領事より
幣原外務大臣宛（電報）

万宝山事件の過渡的解決弁法交渉は飽くまで繼

ニシ轉住ノ希望等持チ居ラスト語レル處鍾ハ意外ナリトノ
面持ヲナシ居タリ尙鍾ハ各地排日團体及黨部等ノ監視ニ怯
ヘツツアル様子ナリキ

我方此上ノ讓歩案トシテハイ堰止ニ依ラス「ポンプ」ヲ使
用スルコトスルカ伊通河ヨリノ引水ヲ全然斷念シ掘抜

井戸ニシテ小貯水池ヲ農場内ニ設クルコトスルカニアリ
ト思考ス右ハ長春領事館ノ調査ノ結果ヲ待タサレハ確定シ

難キモ曩ニ同地附近ヲ調査セルコトアル滿鐵峰畠囑託ノ經
驗ヨリスレハ井戸ハ有望ナリト推測セラル由ナリ
本件カ今日ノ如キ問題トナレルハ支那官憲ノ鮮人ニ對スル
強力壓迫及地方農民ニ對スル不取締及我方ニ對スル不誠意
等カ原因ナルモ法理的ニ云ヘハ支那側ノ主張モ立ツ理ト存
考迄

セラルル處我方ハ今更引ク譯ニ行カストセハ支那側カ又
ハ(口)案ニ同意セサル場合明年ハ最少限度(口)案ノ趣旨ニテ一
方的ニ其主張ヲ遂行スルヨリ外ナカルヘシト存ス卑見御參
考迄

尙今後ノ交渉振リニ付御氣付ノ點指示ヲ仰ク
奉天、長春、哈爾賓、間島、支、北平、南京、朝鮮總督、
關東長官へ轉電セリ

統の考え方なる旨並び我が方讓歩案考究中について

吉 林 8月14日後発

本 省 8月15日前着

往電第七六號ニ關シ

會談ニハ毎回長時間ヲ費シ根氣良ク説明ニ努メタルモ先方
ノ態度ハ絶対非妥協のニシテ遺憾乍ラ距離接近セス遂ニ鍾
ハ一先ツ歸哈シ一週間位ニテ再ヒ來吉スヘキニ付留守中施

主任（同人ハ引續キ會談ニ列席セリ）トノ間ニ話ヲ繼續セ

ラレタシト申出テ本官之ヲ拒絶スル理由ナキヲ以テ承諾シ

置キタルカ右ハ既報ノ如ク鍾特派員豫定ノ行動ニシテ近ク

再ヒ來吉スヘシトモ思ハレス鍾毓トノ交渉ハ之ニテ一先ツ

物分レノ態ナルモ本官ハ飽ク迄交渉ヲ進ムル考ニテ前記往

電末段ノ通り研寄^(究カ)餘地ヲ殘シ置キタル次第ナルカ支那側

ハ已ムヲ得サレハ本件ヲ此ノ儘放置シ其間ニ現地ノ鮮人ハ

四散スルモノト考ヘ居ルカノ如ク前記往電會談中鍾力萬寶

山鮮人ノ轉住希望云々ヲ持出シタル折本官ハ現地鮮人力米

ヲ相當所有シ且ツ曩ニ新聞力彼等ノ爲ニ募集セル同情金モ

大分持チ居リ今後一年位ハ暮ラセルニ付明春ノ耕作ヲ樂ミ

261 昭和6年8月20日

中谷閨東府警務局長より
永井外務次官宛

昭和六年八月二十日

我が方警官引揚げ後の現地状況について

關機高鮮第三七三二號ノ二

昭和六年八月二十日
關東廳警務局長 中谷 政一

外務次官 永井 松三殿

警務官引揚後ニ於ケル萬寶山三姓堡鮮人農場ノ狀況

本月八日萬寶山鮮農現地保護ノ爲派遣中ノ我方警察官全部
撤退シタルカ爾來前記ノ狀況等引續キ注意中ナルモ左記ノ

通り別段何等ノ變化ヲ認メス平穩ナリ

記

一、中國官民ノ態度

第三區公安分局ニテハ巡官一名警士五名ヲ馬稍口ニ駐

在セシメ水田水路ノ警戒及在留鮮農ノ保護ニ任シツツ
アリ地方部落民モ何等不穩ノ言動ナク鮮農等ハ居住ニ
關シ何等ノ不安ヲモ抱キ居ル模様認メラレス

二、在留鮮農ノ狀況

現地居住中ノ鮮農二十六戶百十名ハ如何ナル困難ヲモ

排除シテ來春耕作期迄殘留スヘシトノ悲壯ナル決心ノ
下ニ配給ヲ受ケタル種^(一)ヲ脱穀シ蓬等ヲ混シタル粥ヲ
ススリ水田及水田附屬工作物ノ管理ニ當リツツアリ
~~~~~

吉林省政府が郝永徳設立の長農稻田公司を違  
法として強制的に解散命令発出について  
公第五三七號

昭和六年八月二十一日 在吉林石射總領事より  
幣原外務大臣宛

吉林省政府が郝永徳設立の長農稻田公司を違  
法として強制的に解散命令発出について  
公第五三七號

昭和六年八月二十一日 在吉林石射總領事より  
幣原外務大臣宛

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

長農稻田公司ノ取消命令ニ關スル件

當地滿鐵公所ヨリ得タル情報ニ依レハ吉林省府ハ在長春  
長農稻田公司（郝永徳設立）ハ萬寶山事件ノ禍根ニシテ違  
法行爲アリトナシ強制的ニ解散セシムルコトトシ八月十三  
日實業廳ヲシテ長春縣ニ對シ左ノ如キ命令ヲ發セシメタル  
趣ナリ

南 京 8月24日後発  
本 省 8月25日前着

第四九六號 第四五六號<sup>(1)</sup>ノ一  
本官發支宛電報

鮮人暴動事件ニ關スル八月四日附外第四九號貴翰ハ正ニ閱  
悉本件ニ付汪公使及各地領事ヨリノ報告ヲ接到シタルヲ以  
テ右ニ基キ貴官ニ對シ左ノ如ク説明及答復ス

一、本件ノ發生ニ關シ他ニ内幕ノ存否ハ之ヲ以下ノ事實ニ  
付之ヲ見ルニ鮮各新聞紙ハ黑白顛倒ノ宣傳ヲナシ殊ニ朝  
鮮日報七月二、三兩日發行ノ號外ハ鮮人ヲ刺戟シ本件暴動  
ノ導火線トナレリ朝鮮總督府ハ昭和二年鮮人暴動ノ經驗ニ  
依リ彼等ノ敏感性ヲ知リ乍ラ何故カ七月三日以前ニ新聞言  
論竝ニ鮮人ノ行動ニ對シ何等取締ヲナサス七月二日夜仁川  
暴動起ルモ警察ハ之ヲ制止セス同地總領事館ヨリ武裝取締  
方ヲ要求シタルモ警察署ハ署長ノ命令ナキ故ヲ以テ之ヲ肯  
セス騒擾一晝夜ヲ經五日朝ニ至リ京城ヨリ武裝警官及憲兵

長農稻田公司ハ何年何月何日何人ノ出資ニ依リテ組織セ  
ラレ其ノ内容ハ如何ナルモノナルヤ曾テ實業部ノ認可ヲ  
經タルモノナルヤ否ヤ未タ報告ニ接セサルカ聞ク所ニヨ  
レハ今回ノ萬寶山水田事件ハ該公司ト關係セルモノナリ  
トノコトナレハ其ノ内幕ハ概々窺知シ得ラルルヲ以テ實  
業廳ハ縣ニ命シテ該公司ヲ取消サシムヘシ、若シ實業部  
ノ認可ヲ經タルモノナレハ當省政府ヨリ手續スヘキヲ以  
テ回報相成度右該廳ニ遵照辦理ヲ命ス

右報告ス

本信寫送附先

公使 北平 南京 奉天 長春 哈爾賓  
關東長官 齊々哈爾 間島  
朝鮮總督

263 昭和6年8月24日 在南京上村領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

朝鮮事件の解決条件につき王外交部長より重光公  
使宛公文

シ當地ニ暴動發生ノ場合ハ極力保護スヘキカ成ルヘク鮮人ノ挑發ヲ避ケ早目ニ閉門セヨ云々ノ說示ヲナシタルニ拘ラス同夜半猛烈ナル暴動ノ發生ヲ見タリ當時警察ハ僅ニ阻止

制止ニ努メタルノミ更ニ六日徐副領事ハ報ニ依リ平壤ニ赴タル爲數日間慘殺情況ヲ視察スルヲ得サリキ其他元山、釜山、新義州等悉ク暴動アリ公州、海州、群山、木浦等騒擾各道ニ亘リ居レリ

斯ノ如キ大規模ノ團体的暴動ニ對シ華人ハ到ル處無抵抗ヲ以テ其所爲ニ委セタル次第ニテ右ハ鮮華人ノ衝突トシテ輕々ニ看過シ難シ

以上ノ事情ニ徵スルニ貴官所說ノ如ク朝鮮總督府カ七月月初旬新聞紙ノ誇張煽動的記事登載ヲ禁止シ暴動ヲ未然ニ防止セソ爲早目ニ警戒ヲ加ヘタリ云々ハ事實ニ相違シ又池田警務局長ノ言ニ依ルモ朝鮮總督府ハ七月五日以前ニ何等暴動取締ノ措置ヲナサス平壤ノ暴動發生ハ仁川、京城事件ノ數

日後ナリシモ尙無準備ナリシコト明カナリ而シテ朝鮮各地ノ被害力平壤ノ如ク甚タシカラサリシコトヲ以テ朝鮮總督府當局力華僑ノ保護ニ最善ノ措置ヲ盡シタリト認ムル如キ

コト疑義無キ所ナリ

又日鮮人ノ中國ニ於テ蒙レル損害事件ニシテ未タ賠償ヲ得サルモノアルトヨコトナルモ右ハ各事件ノ性質上或ハ然ラシモ其何事件ナルヤヲ指摘シ居ラサルヲ以テ之ニ付詳述シ難シ但シ茲ニ貴國側ノ注意ヲ喚起シタキハ中國人民力貴國官憲、軍隊或ハ人民ヨリ受ケタル身体及財產上ノ侵害ニシテ多年解決セサルモノ長沙六一事件、歐洲大戰當時ニ於ケル山東人民ノ損害、東京地震ノ際ノ中國人慘殺、濟南五三事件損失、民國十六年朝鮮暴動事件等枚舉ニ違アラサルコトナリ而シテ本國政府ハ貴國政府カ本件ニ對シ單ニ救恤ノミヲ固執スルコト無ク終始公正ノ態度ヲ保持セラレントコトヲ切望ス

### 第三章 第四五六號ノ四

本國政府力終始本件ノ擴大防止ノ方針ヲ執リ來リタルコトハ貴國政府御承知ノ通ニシテ今尙毫モ之ヲ變更セルコト無ク又各地新聞記事モ本件經過ヲ記シ被害同胞ニ同情ヲ表セラ外何等煽動的言論無ク偶々無稽ノ言說ノ傳播スルコトハ免カレスト雖モ之モ事實ノ證明アリ次第消滅ニ歸シツアリ只商取引ハ人民ノ自由意思ニ依ルモノナルヲ以テ政府ハ唯其越軌行動ヲ取締リ得ルニ過キサルカ中國人民ノ本件災害ニ對シテ激昂スルハ素ヨリ自然ノ趨勢ニシテ本件ノ圓滿解決ヲ見レハ自然消滅スルニ至ルヘン

之ヲ要スルニ本件ハ初メ日鮮新聞力群衆ノ盲動ヲ煽動シタルニ起因シ次ニ地方官廳力其固有ノ職權ヲ行使シテ未然ニ防止スルコト無ク臨機ノ措置ヲ怠リシ爲斯ル未曾有ノ慘劇ヲ惹起シタルモノニシテ貴國政府ハ其責任ヲ辭スル能ハス各地ノ被害報告ニ依レハ現在迄ノ所死者一百二十一人失踪者七十七人負傷者三百人財產損害日本金數百萬圓ニ達ス依

ハ本國政府トシテ如何ニ公平ニ判斷スルモ其理由ヲ了解シ難シ

### 本官發公使宛電報第四六五號ノ三

二、人民ノ暴動ニ依ル外國人ノ損害ニ對スル國家ノ責任問題ニ關シ論センカ貴國ハ治安ノ維持完備セル國家ニシテ朝鮮總督府ハ憲兵警察併用ノ下ニ完備セル組織ヲ有シ平時言論及鮮人群集ノ行動ノ取締ニ絕對ニ權威ヲ有シ居リ苟クモラハ今次ノ如キ慘案ハ發生セサリシナランモ各方面ヨリ實際ノ報告ニ依レハ總督府ハ新聞カ再三配付セル煽動的號外ヲ禁止セス鮮民ノ集合動搖ヲ禁止セス駐在領事及商民ノ請求アルモ適切有效ノ措置ヲ執ラサリン爲慘禍擴大後始メテ武裝警官ノ彈壓アリタルモ華人ハ既ニ莫大ノ損害ヲ蒙レリ國際公法ヲ案スルニ國家ハ其領土内外國人ノ生命財產保護ノ義務ヲ有シ此義務ヲ怠リ外國人ニ損害ヲ及ホシタル場合ハ國際責任ヲ免レサル所ナリ

然ルニ總督府及各地官廳ノ態度及行爲ハ前記ノ如ク本件前後ニ於テ充分其責任ヲ盡シ居ラサルコト明カニシテ又貴官所說ノ一國ノ個人云々ニ付テ言フモ今回ノ鮮人暴動ハ群集ハ國際責任ヲ免レサル所ナリ

## 二 万宝山事件関係

テ本國政府ハ本縣ノ解決ヲ計ル爲ニ左記要求ヲ提出ス

### 一、正式謝罪

南京ニ於テハ駐華日本公使ヨリ外交部ニ對シ之ヲ行ヒ朝鮮ニ於テハ朝鮮總督府ヨリ同地中國總領事ニ對シ之ヲ行フコト

二、各地有責官吏ニ對シ直ニ相當ノ處分ヲ爲スコト

三、煽動及加害ヲ爲シタル暴徒ハ法ニ依リ嚴重懲罰ヲ爲ス

コト

四、各地華僑ノ生命ノ被害者ニ對シ賠償ヲ爲シ失踪者ニハ死者同様ノ賠償ヲ爲スコト

五、負傷者ニハ其傷害ノ形狀ニ應シ夫々賠償ヲ爲スコト

六、財產上ノ損害ハ双方立會調査ノ上賠償ヲ爲スコト

七、本事件ニ依リ歸國セル華僑カ將來赴鮮スル場合特別ノ便宜ヲ與フルコト

八、今後ニ於ケル不祥事件ノ發生豫防方ニ對シ適切ナル保障ヲ爲スコト

右ノ次第貴國政府ニ御轉達ノ上何分ノ御回答相煩度シ云々原文郵送ス

支ヨリ上海ヘ奉天ヨリ吉林、長春、哈爾賓、間島ヘ暗送ア

在吉林

總領事 石射 猪太郎殿

萬寶山水田經營方法研究ニ關スル件

本件ニ關シ曩ニ貴電ヲ以テ御照會ノ次第モアリ其後引續キ

東亞勸業専門技師トモ連絡ヲ取り諸種ノ方法ニ付研究中ナ

リシカ最近東亞勸業齊藤技師ノ來長ヲ求メ詳細意見ノ交換

ヲ行ヒタル結果同技師ノ意見ハ別紙ノ通リナル處右ニ依ル

時ハ現在ノ規模ニテハ他ノ設備ノ孰レヲ採ルモ收益アル事

業トハナリ得ス又今秋相當ノ工事ニ進ミ得サルモノトセハ

來春ニ入りテノ新規改造工事ハ時日ノ點ニ於テ相當困難ナル事情アルヘキ等結局來年ハ現在ノ堰止ヲ鮮農ノ手ヲ以テ改良ヲ加ヘ得ル處ハ改良ヲ加ヘ用水路ノ不完全個處ノ手入

修繕ヲ爲スコトニ依リ本件水田ノ經營ヲ決行セサルヘカラ

サル運命ニアルカ如ク見受ケラル處（但シ資金ヲ得テボ

ンブヲ使用スル場合ハ來年ニテモ間ニ合フヘシ右ニハ貯水池ヲ河岸ニ設クルヲ要ス）右ニ關シテハ本月二十六日當館

件カ

リタシ

大臣、北平、奉天、天津、青島、濟南、朝鮮總督、關東長官へ轉電セリ

（9月2日接受）

264 昭和6年8月29日 在長春田代領事より

幣原外務大臣宛

万宝山水田經營方法に関する東亞勸業技師の

意見につき報告

機密第三六四號

昭和六年八月二十九日

在長春 領事 田代 重徳

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

昭和六年八月二十九日附機密公領第一一號

石射總領事宛拙信寫送付

件名

一、萬寶山水田經營方法研究ニ關スル件

機密領第一一號

藏本書記生ヲ貴官ノ下ニ派シ詳細報告セシメ置キタルモノ尙

爲念茲ニ一應書面ヲ以テ報告ス  
本信寫送付先 外務大臣 在華公使 奉天

（別紙）

東亞勸業株式會社齊藤技師ノ意見

一、水田豫定地附近ニ於テ井戸ヲ掘リ之レニ依ル水田經營

ノ可能性ノ有無ニ就テ

深ク掘ルヲ要セヌシテ水ノ湧出ツル關係ニアルコト

ハ同地方ノ各井戸ニ徵シテ明カナルモ左リトテ水田

用水トシテノ井戸タルニハ採算ヲ度外シテ多數ノ井

戸ヲ掘ルナラハ兎ニ角然ラサレハ先ツ期待出來ス井

戸水ノ水量ナルモノハ餘程多量ノ水脈ニ通セサル限

リ案外少量ニ限ラレタルモノナリ

二、水田豫定地附近ニ溜池ヲ掘リ之レニ依ルコトノ見込ニ就テ

溜池ヲ設ケ雨水ヲ利用スルコトハ全然見込無シ  
設備ト其費用額

可動式堰止ノ方法ニ依リ堰止ノ一部開閉ヲ自由ニシテ民船ノ往來ニ不便ナキ設備ハ無論可能ナルモ右ニ要スル費用ハ金七千圓乃至七千五百圓トス但シ右工事ハ今秋着手スルニ非ラサレハ來年度ノ經營ニ間ニ

合ハス  
ポンプヲ使用スルトセハ河水ヲ一旦河岸ニ設クヘキ貯水池ニ貯水スルヲ要ス伊通河ノ流レノ儘ニテハポンプノ使用ハ一ツハ泥ヲ吸ヒポンプヲ傷メ一ツハポンプノ全能力發揮ノ水量ニ缺ク貯水池ハ相當面積ヲ要シ工費亦安カラス

#### 四、堰止ヲ廢シテポンプヲ用フルコトニ就テ

河水豊富ニシテ土管ヲ用フル場所カ適當ノ高低傾斜ヲ有スルニ於テハ土砂ノ沈積ヲ免レ得テ用ヲ爲スモ少シノ凹凸ヲモ許シ得サル窮屈ナル狀態ニアル全水路ノ高低斜面ハ埋管後ニ於テ有リ得ヘキ寒氣或ハ埋管箇所ノ地盤動搖ノ爲メ土管ノ狂ヒハ送水ニ支障ヲ來シ沈積スル泥ノ掃除ニ施ス途無シ

#### 六、如何ニスレハ本件水田經營ニ最モ適スルコトトナルヘ

勸業トシテ之ヲ見ル時現在ノ五百天地ト十年ノ期間ニテハ事務的ニハ之カ投資ハ絶對不可能ナリ（先般

ノ金融ハ採算カラノ支出ニ非スシテ政策ヲ加味サレタモノナルヘケレハ右ハ別ナリ）資金ハ無シ他ノ設計容易ナラストセハ現狀ニ多少ノ手ヲ入レテ堰止ニ對シテハ他ノ各地河流堰止同様ナルヲ理由トシ此際アク迄實力ヲ以テ押シ切ルコトトスルヲ最モ自然ナリト思考ス

確實ナル測量ヲ了スルニ非サレハ設計書ト用費ノ見積ハ出來難キモ堰止ニヨル伊通河流ノ水田豫定地送

水及排水ハ見込アリ又用費ハ採算ト離レ特別ナル事情トシテ總テノ設計ヲ爲スニ於テハ土管ヲ伏スヘキ

コトニ就テノミハ不可ナルモ其他ハ出來得ルコトナリ（但シ井戸ハ保障ノ限リニ非ス）若シ堰止工事改

築ニ決定シ明年ノ蒔付ヲ試ミムトスル場合少クトモ今秋伊通河渴水期ニ於テ基礎工事ノミナリト進メ春ハ水中工事ナクシテ完成セシムル様用意ヲ要ス堰止改築完成ニハ急ヶハ約四十五日ノ見込ミ基礎工事

キヤ

中國側ノ苦情トスル用水路堤防ノ爲附近烟地ノ排水不能ニ陷ル云々ニツキテハ用水路堤防ニ添ヒ排水溝ヲ設ケヤルコト民船往來ニハ堰止ニ門ヲ設ケテ不

便無キ様致シヤルコトトナルヘキモ奉天省ニ於テモ

對シ現ニ到ル處ニ中國官憲ハ堰止ヲ許可シ居リ又默認シ居リ獨リ伊通河ノミニ之レカ反対ヲ受クヘキ理由ナク況ソヤ河船ノ航行極メテ稀ナル同河ニ於テヲトスルカ如キハ餘リニ實際ヲ離レタル主張ナリ又現ニ開墾セントスル五百天地ニシテモ現在ノ用水路ノ溝幅ト斜傾ニテハ必要ノ灌水ニ充分ノ用ヲナサス是非共倍幅ノ用水路ニ改築ヲ要ス

尙ホ孰レニシテモ現狀ノ設備ニテハ許サレサルモノトシテ改善ヲ加フルモノトセハ堰止ニシテモ又ポンピニシテモハ井戸ニシテモ二十年見當ノ期間ト現豫定地附近一帶千五百天地以上ノ水田經營ニ非サレハ採算ニナラス從テ入費ノ金融モ亦困難否絶望トナ

ノミナラハ一ヶ月見當ニテ追ツヘキ處明春解水期ノ起工ハ簡單ナラス解水ニ因ル増水ト河底ノ凍結ハ相當工事ヲ困難ナラシメ灌水蒔付ノ用ヲナサスポンプハ豫備ト共ニ二臺ヲ要シ据付及附屬設備費用ハ二臺ニテ金壹萬五千圓見當（五十馬力二臺）其他用水路ノ送水口ニ設クヘキ水門ノ費用合計約金二千圓（堰止工事ヲナス場合ニ限り必要）井戸ハ一ツニ付金八百圓五百天地ヘノ用水ニハ百七十ヶ處ノ掘割ヲ必要トス（井戸一ツハ三天地ノ用水ニ間ニ合フトシテ）伊通河類似ノ河流ニ現ニ堰止ヲ施シ居ルモノノ河名ヲ舉クレハ次ノ如シ

奉天省 清河（開原縣遼源縣地方）

渾河（瀋陽縣興京縣地方）

官設ノモノモアリ

太汎河（鐵嶺縣地方）官許ノモノモアリ

吉林省 牡丹江支流（敦化縣地方）

（黃泥河子地方）

牡丹江本流

河

拉法河（額穆縣地方）

蛟河

其他吉海線附近一帶

以上

265 昭和6年8月31日 在ハルビン大橋總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

張景恵が土地問題解決案を北平に持参し張學良の決裁を求める意向について

ハルビン 8月31日前発  
本省 8月31日後着

第一六五號（暗）

在奉天總領事發本官宛電報第二四號ニ關シ

當地地敵局長臧啓芳ノ松本ニ内話スル處ニ依レハ臧ハ土地問題解決ノ爲張景恵ヨリノ招電ニ依リ今夜當地發奉天ニ赴ク由ニテ臧ハ既ニ、二ノ解決案ヲ用意シ之ヲ來ル二日ノ東北政務委員會ニ附議シ市會通過ノ上ハ張景恵之ヲ持參シテ北平ニ赴キ學良ノ決裁ヲ求メタル上當方ト解決商議ヲ開

266 昭和6年9月5日 在長春田代領事宛（電報）

朝鮮人農民の技術に適応し同時に中国人農民の苦情を緩和する方策を研究方訓令

本省 9月5日発  
本省 9月5日前着

吉林宛機密公領第一號貴信ニ關シ

東亞勸業技師ノ意見ハ多少採算ニ拘泥シ過キ又關係鮮農ノ營農技術ニ照ラシ高級ニ失スルモノアルヤニ認メラル處吉林宛往電第二〇號（三）當方ノ意見ハ斯ル高級且大規模ノモノヲ豫見セル次第ニハ非スシテ同技師ノ意見ニ依ルモ深ク掘ルヲ要セスシテ水ノ湧出スル實狀ナル趣ニモアリ例へハ目下手隙トナレル鮮農自身ノ力ニ依リ閑ヲ利用シテ掘抜井

戸ヲ試掘セシメ相當量ノ水ノ湧出アラハ、不斷ニ之ヲ溜池ニ貯ヘ置クノ方法（雨水ノミヲ利用セントスル趣旨ニ非ス）

吉林 9月5日前後  
本省 9月6日前着

第八九號（暗）

等ニ付尙研究ノ餘地アルヘシト思考セラル要スルニ鮮農ノ原始的經營（高級ナル機械力ニ依ル設備ニテハ鮮農ハ却テ持テ餘スヘキノミナラス之力維持修繕等ニ要スル費用ハ到底彼等ノ負擔ニ堪ヘサルヘシ）ニ適應セル手段ニ依リ何等カ中國農民ノ苦情ヲ緩和シ得ル方法アルニ於テハ之ヲ萬寶山事件解決ノ爲メ利用スルコト得策ナルヘシト思惟セル次第ニシテ何レニスルモ明年ノ種播キヲ無事ニ過コサス爲メニハ今秋中ニ種々準備ノ都合モアルヘク旁々此ノ際速力ニ本件ノ地方的解決ヲ計ルコト必要ナルニ付以上御含ミノ上吉林及奉天トモ連絡セラレ銳意御盡力アリタシ訓令トシテ奉天及吉林へ轉電アリタシ

始スル手筈ナリトテ方法形式ハ別トシ今回ハ必ス解決スル決心ナル旨繰返シ述ヘ居タル趣ナリ今次張景恵ノ運動ハ彼等舊派ノ對日協調政策ノ發現ニシテ今後本件ニ對スル東北政務委員會及學良ノ態度ハ舊派主張ノ勝敗ヲ示ス一個ノ「パロメイター」ナラスヤト思考ス

267 昭和6年9月5日 在吉林省射總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

交渉再開するも鍾が朝鮮人農民の退去を絶対的的前提とするため遅滞の次第について

鍾ハ曩ニ本官ヨリ提出セル二案ヲ奉天ニ報告セルニ到底同意シ難シ鮮農ノ急速退去ヲ催促セヨト回答アリタル旨ヲ語

リ本官ノ讓歩案ノ提示ヲ求メタルカ本官ハ本官ノ考へ居ル  
案力果シテ實行ノ可能性アルヤ否ヤ研究ニ尙多少ノ日子ヲ  
要スル旨答へ置キタルニ鍾ハ之ヲ機會ニ作相ノ不幸悔ミノ  
爲六日發錦州ニ赴ク事トシ其ノ後ハ一先ツ哈爾賓ニ眞直ク  
引返ス由ナリ

拙電第七八號讓歩案ニ對スル研究ノ結果ハ田代領事發本官

宛機密公領第一一號信ノ通リニシテ何レモ思ハシカラス假  
ニ採算ヲ度外視シ又曩ニ提示セル第一案ノ趣旨ヨリ考へ比  
較的適當ト思ハルハ唧筒ヲ据付ケ水溝ヲ現在ノ儘使用ス  
ル方法ナル處之カ爲ニハ河岸ニ新設スヘキ貯水池ノ爲ニ新  
ニ土地ヲ借入レ又水溝ニ對スル反對地主ノ同意ヲ取付ケサ  
ルヘカラス而シテ右借地及同意取付ハ鮮農ト關係地主ハ今  
自由契約ニ依ル建前ヲ取ラサル處關係地主ハ今

日迄ノ行懸上（脱？）恐レテ到底契約ニ應セサルヘキヲ以  
テ此ノ案ニ對シ假ニ支那側カ同意シテモ言フヘクシテ行ハ  
レ難ク結局（一）伊通河ヨリノ引水ハ斷念シ井戸ニ依ル灌漑ノ  
可能ナル範圍ニテ小規模ニ經營ヲ試ムルカ（二）堰止及水溝ニ  
依ル原計畫ヲ實行スルカニ歸著スル處（一）ハ支那側ノ苦情ト  
スル所ヲ大部分除去スルノ名目ハ立ツモ餘リニ讓歩的ナル

シタシト申出テ又今回鍾ヨリモ農民ヨリ頻リニ催促シ來レ  
ル趣ヲ以テ同様申出アリタルニ對シ右ハ警察撤退ノトキノ  
了解ニ悖ルノ理由ヲ以テ前後共拒絕シ置キタルカ右不便ハ  
尤モナリト思ハルニ付自發的ニ要所要所架橋又ハ埋立ヲ  
爲シ緩和シ遣ル様致度シ尙右苦情ヲ申出來レルハ第二區ノ  
地主ノミナリト謂フ右ハ御考量中ノ事ト存スルモ爲念

大臣、奉天、哈爾賓、支、朝鮮總督、關東長官へ轉電セリ  
……  
269 昭和6年9月7日 在長春田代領事より  
幣原外務大臣宛（電報）  
県知事に交通路を増設するにつき調査申し入れの旨吉林總領事宛電報  
長春 9月7日後発  
本省 9月7日後着

第八九號（暗）

本官發吉林宛電報第一五號  
貴電第二一號ニ關シ  
收獲期ニハ現狀ノ儘ニテハ不便ナルハ尤ノ次第ナルヲ以テ  
豫テ本官ニ於テモ考慮中ナリシカ鮮人ヨリノ願出モアリ旁

268 昭和6年9月5日 在吉林石射總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）  
中国側農民の收穫物運搬に多大の不便あるため  
水溝一部埋め立て方施主任より申し出について  
第九〇號（暗）

吉 林 9月5日後発  
本省 9月6日前着

本官發長春宛電報  
第二一號

本官發大臣宛電報第八九號ニ關シ、ニ鍾毓不在中施主任來  
訪シ追々收穫期モ近ツキタルニ水溝横断ノ爲農民ハ收穫物  
ノ運搬ニ多大ノ不便ヲ感スルニ付一部分丈テモ埋メル事ト  
委細郵報ス

三日藏本ヲ縣知事ノ許ニ派シ鮮人ノ希望トシテ必要數ノ交  
通路ヲ增設スヘキニ付其個所調査方申入レ置キタル處知事  
ハ其好意ヲ謝シ早速手配スルコトトン中國側ヨリ勝手ニ溝  
ヲ自由ニスルコトハ嚴禁スヘシト誓ヒタリ  
架橋ハ相當材料費ヲ要スルニ付必要ノ幅ヲ埋立テル考ナリ  
電セリ

270 昭和6年9月8日 在奉天林總領事宛（電報）  
外務大臣 奉天 哈爾賓 公使 朝鮮總督 關東長官へ轉  
電セリ  
湯爾和に対し在東北朝鮮人が土地の耕作、開墾に從事するとの正当なる旨を説示について  
第一八七號（暗、至急）  
本省 9月8日後発

八月二十二日湯爾和來訪滿洲問題ニ付談合ノ際本大臣ハ萬  
寶山事件ニ言及シ理論ヲ離レ常識ニ基キ本件ヲ看ルニ朝鮮  
人ノ存在ハ何等中國ノ主權ヲ侵害スルモノニ非ス彼等ハ土  
匪トカ共匪ニ非サレハ地方ノ治安素スコト無ク全然無害ノ

ヲ以テ之ヲ提案スルハ如何カト思ハレ又（二）ノ實行ハ來春又  
一騒キヲ覺悟セサルヘカラス此等ノ點ニ付長春奉天トモ親  
シク意見ヲ交換シ今後ノ對策ヲ講シタキニ付往復三日ノ豫  
定ニテ奉天ニ出張方至急田代領事及本官ニ御下命ヲ請フ  
奉天、長春、哈爾賓、間島、公使、北平、南京、朝鮮總督、  
關東長官へ轉電セリ

人間ナルノミナラス放任セラレタル土地ノ耕作開墾ニ從來スルモノナルヲ以テ中國側ニ於テモ之ヲ歓迎スベキ理由コソアレ何等排斥スヘキ謂ハレナク况ソヤ日本側ハ關係地主等ガ鮮人ノ水溝開鑿ノ爲メ損害ヲ受クルニ於テハ之ヲ補償スヘキ旨提議シ居リ中國側ハ國家ヨリ見ルモ地主ヨリ見ルモ何等實害ヲ受ケサル次第ナルヲ以テ法律問題ニ拘泥セス常識ヲ以テ取扱ハハ簡単ニ解決シ得ベク思考スル旨述ベ尙吉林方面ヨリノ一致セル報道ニ依ルニ同省ニテハ秘密命令ヲ以テ鮮人ハ日本ノ侵略ノ手先ナル故之ヲ定着セシメサル様驅逐ニ努ムヘキ旨ヲ示達シ居ル趣ナルカ作相ハ果シテ之ヲ承知シ居ル次第ナリヤト訊シタルニ湯ハ甚ダ不都合ナル譯合ナルモ下級官吏ガ恣ニ各種ノ法令ヲ發布スル場合アルヲ以テ本件ノ如キ秘密命令モアリシヤモ知レサルモ右ハ全然東北當局ノ方針ニ非スト辯明スル處アリ次デ九月五日重ネテ來訪シ前記密令ノ件ニツキ湯ニ於テ書面ヲ以テ張學良ニ報告セル處本月一日學良ヨリ「直ニ東三省全體ノ地方官憲ニ訓令シ日鮮人ヲ親切ニ取扱ヒ綿密ニ保護スヘキコトヲ命シタリ」トノ返電アリタル旨述ヘタルニ付本大臣ハ切角學良ノ趣旨ノ徹底センコトヲ希望シテ止マス萬寶山事件ノ

271 昭和6年9月8日 幣原外務大臣より  
在吉林石射總領事宛（電報）

我が方としては朝鮮人、中國側双方に損害を与える意味で石射案<sup>(一)</sup>にて交渉を進めるよう訓令

本省 9月8日発

第二七號

貴電第八九號ニ關シ

鐘<sup>(一)</sup>特派員ノ申出ニ係ル關係鮮農ヲ他ニ轉住セシムルノ案ハ勿論換地案ノ如キモ我方從來ノ方針ニ反シ殊ニ萬寶山事件カ今日ノ如ク大問題トナレル此際到底詮議ノ餘地無キ所ナルカ我方トシテハ當初ヨリ鮮人側ニモ中國側ニモ損害ヲ與

ヘルシテ落着セシムルノ方針ニ始終シ居レル次第ナルニ付貴電末段<sup>(一)</sup>ノ方法ニテ圓滿ニ鮮農ノ定着ヲ見ルヲ得ルニ於テハ必シモ大ナル讓歩ト謂フ可ラス長春宛往電第三四號モ畢竟右<sup>(一)</sup>案ト趣旨ヲ同シクスルモノニシテ中國側ノ反對ヲ緩和スヘキ有ラユル考案カ何レモ實行不可能ナル場合ハ

（二）ノ方法ニ依ルコト已ムヲ得サルヘキモ夫レ迄ハ右往電ノ趣旨ニ依リ貴電<sup>(一)</sup>案ニ重點ヲ置キ今一段ト研究ヲ進メラレ度又長春宛貴電第二一號末尾必要ノ箇所ニ架橋シ遣ルコト

如キハ中國官憲ニ誠意サヘアリシナラハ圓滿ニ妥結シ得ヘキモノナリシニ回避ヲ事トセル結果今日ノ事態ヲ擡來シタル次ニテ之ニ對スル差當リノ辦法トシテ我方ヨリ一ツノ提議ヲ爲シ居レリト云電第一四五號臨時辦法案ヲ讀ミ聞セタルニ湯ハ右ハ寔ニ公正且妥當ノ案ト思考ストテ其字ヲ求メタルニ依リ同電中段<sup>(一)</sup>ヨリ四ニ至ル四項ヲ抜粹シテ手交シ置ケリ（但<sup>(二)</sup>ノ項ハ同電前段記載ノ通り緊急ノ場合我方ノ自衛的措置ヲ拠棄スルノ意ニ非サル以上同項中「絕對ニ」ノ字句ヲ存スルハ面白カラスト認メ之ヲ削除シテ交付シ置キタルニ付今後貴方ノ交渉ニ於テモ同様削除セラレ度シ）尙湯ハ六日退京貴地ニ向ヒ後北平ニ赴ク豫定ナル趣ノ處北平ニテハ張學良ト本件ニ付テモ種々談合アルヘント豫想セラルニ付テハ以上御含ミノ上往電過渡的辦法協定方ニ關シ此上トモ御盡力アリタシ

在滿各公館へ轉電又ハ暗送アリタシ

訓令トシテ北平へ轉電シ北平ヲシテ参考トシテ青島、濟南、天津へ暗送セシム  
公使へ轉電シ公使ヲシテ南京、漢口、廣東へ暗送セシム  
朝鮮總督、關東長官へ暗送セリ

ハ寧ロ當然ノコトナルモ埋立ノ件ハ能フ限り之ヲ避ケ度ク（警察官ノ撤退カ我方ノ讓歩トシテ内鮮人間ニ不満ノ聲アル此際水路ノ埋立ハ假令一小部分且一時的ナルニセヨ我方從來ノ方針ノ拋棄トシテ誤解サル虞アリ）是非トモ埋立ヲ要スル場處アルニ於テハ土管ヲ埋ムルナリ其他通水ニ差支ナキ方法ヲ溝スルト共ニ中國官民ニ對シテモ右ハ全ク臨時ノ措置ナルコトヲ理解セシメ之ニ依リ先方カ水路全部ヲ破壊シ又ハ使用ヲ不可能ナラシムルカ如キ端ヲ啓カサル様充分慎重ニ措置セラレ度爲念

奉天、長春、公使へ轉電セリ

272 昭和6年9月9日 在吉林石射總領事より  
幣原外務大臣宛

中國側は目下万宝山事件をさほど重視せざ根本問題解決方に注意を転じおる旨報告

（9月17日接受）

昭和六年九月九日

在吉林

總領事 石射 猪太郎

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

萬寶山事件交渉ニ關スル中國側意向ニ關シ報告ノ件

本件ニ關シ當館諜報者ノ齋ラシタル情報左ノ如シ中國側要求ハ(一)萬寶山ニ於ケル鮮人全部ノ撤退(二)農民損害賠償ノ二項ヲ日本側ニテ責ヲ負フコトヲ主旨トシ當初解決ノ可能性アリタル力如キモ日本側ノ主張全然相反セル爲今後如何ニ接衝スルモ何等結果ナカルヘク一方國民政府外交部及省政府ハ鮮人問題ニ關スル根本辦法ヲ協議中ナルヲ以テ目下中國側ハ萬寶山事件ヲ左程重視セス根本問題解決方ニ注意ヲ

轉シ居レリ(八月三十一日附機密公第五六〇號及九月八日附機密公第五八七號拙信參照)只當地各界殊ニ省城學界ハ本件交渉ノ成行ニ多大ノ注意ヲ拂ヒ今週中茶話會ヲ開キ鐘(鐘)特派員(目下歸哈中)及省政府側ヨリ交渉ノ經過及今後ノ對策ヲ聽取シ政府應援ノ方法ヲ決定スル趣ナリ右ニ關シ當地官民共今日ノ處本件交渉ノ經過ヲ靜觀シ居ルモノノ如ク中國側新聞モ本官鐘ト交渉中僅ニ斷片的記事三四ヲ掲載シタルニ止マリ學生側亦平靜ナリ

本信寫送附先  
公使、北平、南京、奉天、長春、哈爾賓、齊々哈爾、  
幣原外務大臣宛(電報)  
幣原外相は在東北朝鮮人問題を東北側のみと  
解決方思考しある旨張學良に説明について  
北平 9月16日後發  
本省 9月16日後發  
第四〇四號(暗)  
奉天宛貴電第一八七號ニ關シ  
十六日張學良ニ會見ノ序ヲ以テ本件ニ關スル臨時具体的辦法設定ノ必要並ニ貴大臣カ湯爾和ニ與ヘラレタル辦法案ニ言及シ本件ハ定メテ湯ヨリ報告濟ナルヘキカ貴見如何ト尋ニ對シテモ話置キタル次第ナルカ自分ハ南京政府トモ相談ノ上適當ノ辦法ヲ考案中ナリ例へハ日支間ニハ數百件ノ懸案モアルニ付同案中ノ日支委員會ハ他ノ問題ヲモ考慮スル權限ヲ與フル事トスル如キモ一案ナリト言ヘルニ付本官ハ本件辦法ニ付討議スル立場ニ非サルモ大臣ノ意図ハ恐ラク差當リ朝鮮人問題解決ノ爲南京政府側ヲ交ヘスシテ日本側ト東北側トノ間ニ委員會ヲ設置セントスル趣旨カト思考ス

273 昭和6年9月11日 在ハルビン大橋總領事より 幣原外務大臣宛(電報)

臧啓芳の解決案は大体の遼寧省當局者から贊同を得てゐる旨同人内話について ハルビン 9月11日後發

本省 9月12日前着 第一七九號(暗)

臧啓芳九日歸來シ十一日往訪ノ館員ニ對シ左ノ通内話セリ自分ノ提示セル解決案ハ臧主席張景惠ヲ始メ大体奉天當局派ノ贊同ヲ經タルモ恰モ張作相ノ實父死去シ張ノ同意ヲ取付クルコトヲ得サリシモ大体右案ニテ解決ノ見込付キタルニ付茲二三ヶ月中ニハ日本側トノ懸案モ必ス解決シ得ル見込ナリ云々

因ニ臧ハ今十一日更ニ奉天ニ赴ク由  
公使、北平、奉天へ轉電セリ

ル旨説明シ置ケリ  
支、南京、天津、奉天へ轉電セリ

275 昭和6年9月18日 在中国重光公使より 幣原外務大臣宛

万寶山事件に関する中國側第一次公文訳文写送付  
機密第三九二號 昭和六年九月十八日  
(10月5日接受) 在中国

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿  
萬寶山事件ニ關スル中國側第二次公文送付ノ件  
公使 重光 葵

本件ニ關シ王外交部長ヨリ本月十五日附ヲ以テ第二次公文ノ送付アリタル次第及其ノ要領ハ不敢電報致シ置キタル通リナル處右全文寫別添ノ通り送付ス

本信寫送付先 北平、奉天、哈爾賓、長春、吉林  
朝鮮總督、上海、南京

以書翰致啓上候陳者萬寶山事件ニ關シ外字第五三號貴翰ヲ

以テ御照會ノ趣致閱悉候查スルニ當部ノ七月二十二日附往翰ハ正確ナル事實ニ基キ本件處理ノ公正ナル態度ヲ表示シタルモノニシテ固ヨリ急速公平ナル解決ニ依リ紛糾ヲ避ケムコトヲ期シタル次第ニ有之候然ルニ貴翰ニ敍述セラレタル所ハ事實ノ眞相ト相違スルモノ頗ル多ク特ニ郝永徳ニ鮮農ト契約ヲ締結スルノ權利ナク鮮農ニハ更ニ萬寶山耕地ヲ占有スルノ權利ナキ點ニ對シ注意ヲ拂ハレサリン結果日本領事ノ派遣セル武裝日本警官ハ鮮農ノ不法作業援助スルヲ以テ必要事ト爲シ萬寶山耕地ヲ不法ニ開墾シテ水溝ヲ開鑿シ堤防ヲ修築セル鮮農ニ對シ中國警察ニ於テ適法ニ解散ヲ命シタルコトヲ以テ壓迫ノ方針ヲ貫徹スルモノト認メラルニ至レルハ殊ニ本件ノ公平ナル解決ヲ希望スル當部ノ趣旨ト大イニ懸隔スル所ニ有之候扱テ中國政府ハ再ヒ本件ノ實情ニ就キ公理ニ基キテ答復シ以テ貴國政府ノ考慮ニ資シ本件ノ解決ヲ促サムトスルモノニ有之候。

一、御照會ニ依レハ中國側ノ萬寶山事件ニ對スル處理ハ鮮農壓迫ヲ以テ方針トスル旨ノ語句アル處査スルニ中國側ハ鮮民ニ對シ毫モ壓迫ノ意ナシ今回鮮農力不法ニ萬寶山ノ土地ヲ開墾シ溝ヲ掘リ堤ヲ築キ刑事問題ヲ起ス

ルニ至リタルヲ以テ中國警察ニ於テ公安維持ノ爲之ヲ阻止シタルハ行政權ニ基キ當然ノ職責ヲ適法ニ行使シタルモノニシテ鮮農ヲ壓迫シタルモノト謂フヲ得ス然ルニ日本側各新聞紙力只管事實ヲ捏造シテ任意ニ煽動シ朝鮮各地在留中國人ヲ殺戮スル事件ヲ釀成シタルハ實ニ故意ニ本件ノ紛糾ヲ擴大セシメタルモノナリ又御照會ニハ本件以外ノ事ニ口實ヲ設ケ本件ニ對シ中國側力鮮農壓迫ヲ以テ方針ト爲セリト推斷セラレタル處之ヲ上述中國側ノ合法的處理ニ照セハ此種推斷ノ實情ニ即セサルモノコト明白ナリ

御照會ニハ鮮農ト郝永徳トノ土地貸借契約ハ曾テ縣長ノ承認ヲ經水路用地ノ地主トモ亦諒解成立セルヲ以テ四月中旬水路工事ニ着手シタルカ五月下旬ニ至ル約一個月半ノ期間ハ地方官及關係地主等孰レモ鮮農ニ對シ好意ヲ示シ何等干渉ヲ受ケサリシモ其ノ後俄カニ反対加ハレルハ地主側ノ眞意ニ出テタルモノト認ムル能ハストアル處査スルニ鮮農ト郝永徳トノ貸借契約ハ未タ曾テ該縣長ノ承認ヲ經タルコトナシ確實ナル報告ニ依ルニ四月中鮮農三十二名班ヲ分ツテ孫永清等四十一名

ノ土地ニ來ルヤ地主孫永清馬寶山等十一名ハ進シテ之ヲ阻止シタルヲ以テ鮮農等ハ工事ヲ停止シ五月一日再ヒ來リテ掘鑿シタルモ又孫永清ノ阻止ニ依リテ之ヲ停止シタルカ翌日鮮農ノ集合スルモノ約百餘名ニ達シ不穩ノ形勢ヲ以テ掘鑿ヲ强行シ孫永清等又赴キテ阻止セルモ鮮農過多ナルカ爲解散セシムル能ハサリキ次イテ縣公安局長魯綺警官ヲ引卒出張シテ制止ヲ加ヘタルカ當時鮮農ハ解散ヲ承諾セルニ拘ラス同局長去レル後モ依然工事ヲ停止セス水溝開鑿ノ鮮人百七十余名ニ達シ六月三日日本警官現場ニ赴キテ工事ヲ掩護シタル以後始メテ繼續シテ掘鑿ヲ竣ヘタリ鮮農ノ水路工事着手後四、五兩月中地方官ハ之ヲ不法ト認メテ制止ヲ行ヒ地主等ハ鮮農ニ權利ヲ侵害セラレタルカ爲ニ此ノ間屢次阻止ヲ加ヘタルモノトシテ決シテ先ニ好意ヲ表シ後ニ之ニ反対セルモノニアラス該鮮農等ハ日本領事カ警官ヲ派遣シテ掩護セシムルニ迨ヒ始メテ不法工事ヲ繼續スルヲ得タルモノナルコトヲ徵スルニ足レリ中國農民ハ鮮農力引續キ其ノ權利ヲ侵犯スルカ爲ニ已ムヲ得ス衆ヲ集メテ阻止ノ手段ヲ講セルハ決シテ暴行ニアラス特

中中國警察ニ於テ固ヨリ秩序ヲ維持シ得ヘキモノニシテ殊ニ御照會ニ所謂「緊急ノ必要」ナルモノナシ。而カモノ日本領事ハ頑トシテ顧ミス陸續トシテ武裝警官五十餘名私服隊十餘名ヲ增派シ機關銃ヲ携帶シテ中國農民ヲ掃射セリ且確實ナル消息ニ徵スルニ當時日本警官ノ指揮者ハ尙多數ノ警官ヲ増派スルノ意向ヲ有シタル趣ニシテ鮮農ヲシテ武裝ノ下ニ其ノ不法工事ヲ完成セシメムト欲シタルモノナルコト明カナリ之ヲ要スルニ該地日本領事カ武裝警官ヲ派遣シテ擅ニ萬寶山ニ入り強力ヲ以テ鮮農ノ不法工事ヲ援助セシメタルコト實ニ本件紛糾擴大ノ主要原因ニシテ該日本領事ニ於テ當サニ相當ノ責任ヲ負フヘキモノナルコトハ既ニ七月二十二日往翰ヲ以テ申入レタル通ナリ

二、御照會ニ依レハ「鮮農ノ擧動ハ全ク善意ニシテ其ノ契約ニ基ク行爲ニハ決シテ不法失當トシテ非難セラルヘキ點ナシ」ト稱シ又水道工事ニ依リ水災ヲ發生セハ鮮農ハ中國農民ノ之ニ因リテ受クル損害ヲ賠償スルノ用意アリト稱スル處査スルニ總ヘテ適法ニ取得セラレサル權利ハ當然如何ナル處分ノ目的物トナスヘカラス特

ニ不動産ノ権利ハ完全ニシテ缺點ナキモノニアラサレハ移轉スルコトヲ得サルモノナルヲ以テ郝永徳ノ原貸借契約ハ未タ官廳ノ正式認可ヲ經サルカ故ニ始メヨリ無效ナリトス郝永徳ガ未タ曾テ契約ヲ以テ耕地ノ権利ヲ取得セサルモノナル以上鮮農ノ土地借受力善意ナルト否トヲ問ハス郝永徳ト鮮農トノ間ニ締結セラレタル契約カ何等ノ権利ヲモ發生スル能ハサルコト毫モ疑義ナシ Nemo dat qui non habet 郝永徳ト鮮農トノ契約ハ法律上既ニ無效ナリ其ノ開墾ニ着手セル農地ハ侵占シタルモノニシテ鑿溝築堤等一切ノ行爲ハ孰レモ不法ナリ況ソヤ掘鑿セラレタル水溝ハ認可ヲ經サル借地以外ニ在リテ多數人ノ田地ヲ損壊シ多數人ノ権利ヲ侵害セルヲヤ鮮農カ此ノ行爲ノ不法ナルヲ熟知シテ而カモ「中國農民ノ之ニ因リテ受クル損害ヲ賠償スルノ用意アリ」トノ態度ヲ以テ其ノ不法行爲ヲ繼續セルハ特ニ刑事上ノ責任ヲ免レ難キ所ナリ

三、宣統元年日清圖們江界約（明治四十二年間島ニ關スル協約）ニ依レハ朝鮮人ハ僅力ニ圖們江北延吉和龍汪清ノ特定區域内ニ於テノミ土地ヲ開墾シ居住シ得ルモノ

四、之ヲ總フルニ中國官廳力不良鮮人及鮮人ニシテ不法ニ権利ヲ取得セムト欲スル者ニ對シ適法ニ取締ヲ加フレハ貴國側ハモスレハ壓迫ノ名ヲ加フルモ其ノ實中國側カ鮮民ニ對シ毫モ壓迫ノ意ナキコトハ是サニ事實ニ存シ隱蔽粉飾スヘキニアラス上述ノ理由ニ依リ鮮農ハ萬寶山ニ於テ墾居スル能ハス其ノ郝永徳トノ契約モ法憾ト爲ササルヲ得ス

在長春  
領事 田代 重徳  
外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿  
長春縣新任知事ノ態度ニ關スル件  
吉林省政府ハ今般<sup>（現）</sup>汝模（奉天省海城人當年四十三歳吉林省樺甸縣賓縣ニ知事タリシコトアリ最近吉林省府秘書ヲテ速ニ補償セシメ以テ解決ニ資セシムル様勸告方御傳達アラムコトヲ再ヒ請求ス

右辦理方速カニ貴公使ヨリ貴國政府ニ御轉達相成結果御回示相煩度此段照會得貴意候 敬具  
中華民國二十年九月十五日  
大中華民國外交部長 王 正 廷  
大日本帝國特命全權公使 重光 葵殿  
監禁されていた郝永徳の帰宅と朝鮮人農民の  
保護等充分手配をなすべき旨言明について  
昭和6年10月9日 在長春田代領事より  
大日本帝國特命全權公使 重光 葵殿  
監禁されていた郝永徳の帰宅と朝鮮人農民の  
保護等充分手配をなすべき旨言明について  
昭和六年十月九日

本信寫送付先 在華公使、北平、奉天、吉林、哈爾賓、南京、朝鮮總督府、關東長官  
本信寫送付先 在華公使、北平、奉天、吉林、哈爾賓、南京、朝鮮總督府、關東長官  
ナルカ本件鮮農ノ借地ハ之ヲ同區域ノ範圍内ニ在リト假定スルモ契約ノ無效ニ依リ何等ノ権利ヲ取得スル能ハサル次第ナリ況ソヤ本件土地ハ條約ニ認メラレタル區域外ニ在ルヲ以テ其ノ締結スル契約ハ此ノ點ニ於テモ亦無效ニ屬スルヲヤ御照會中ニハ民國四年中日條約問題ニモ言及セラル所ナルヘク特ニ民國十二年三月中國政府ニ於テハ本件ニ對シ原ヨリ捨葉末節ニ過キス而シテ中國政府及人民ノ同條約ニ對スル態度ハ當然貴國朝野ノ熟知セラル所ナルハ茲ニ共存共榮ヲ謀ルノ道ニアラス亦以テ突然本問題ヲ提起セラレタルハ殊ニ共存共榮ヲ謀ルノ道ニアラス亦以テ遭憾ト爲ササルヲ得ス

吉林省政府ハ今般<sup>（現）</sup>汝模（奉天省海城人當年四十三歳吉林省樺甸縣賓縣ニ知事タリシコトアリ最近吉林省府秘書ヲテ速ニ補償セシメ以テ解決ニ資セシムル様勸告方御傳達アラムコトヲ再ヒ請求ス

アルモ病氣保養ノ爲ニテ嚴島ニ滯在シ序ヲ以テ三四都市ヲ見物セルノミ）ヲ長春縣知事ニ任命シ本月二日前任知事馬仲援トノ間ニ事務ノ引續ヲ了シ三日新任挨拶ノ爲メ本官ヲ訪問スル處アリタルカ同知事ハ萬寶山事件ニ因リ縣公署ニ監禁サレアル郝永徳ヲ引續キ其儘ニシ置クコトヲ不可トシ保證人二名ヲ立テシメ近ク歸宅ヲ許スコトニシタル由ニテ尙ホ萬寶山鮮農ニ對スル保護並ニ同地設備現狀維持ニ關シテモ吉林ニ於ケル諒解ニ基キ充分ノ手配ヲ爲スヘキ旨言明セリ

277 昭和 6 年 10 月 13 日 在長春田代領事より  
幣原外務大臣宛

万宝山事件で拘禁中の郝永徳保釈出獄について

機密第四七〇號

昭和 6 年 10 月 13 日

在長春

領事 田代 重徳

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

萬寶山事件郝永徳保釋出獄ニ關スル件

本件ニ關スル新任長春縣知事ノ意向ハ本月九日附機密第四五一号拙信ノ通リナリシカ本月十日同縣知事ハ三名ノ保證人ヲ立テシメ愈々郝永徳ノ保釋ヲ爲シタル趣ニテ郝ハ十二日當地鮮人民會長ト共ニ當館ヲ來訪シ右保釋ヲ許サレタルハ全ク當館ノ斡旋ニ因ルモノトシテ感謝ノ意ヲ陳ヘタルニツキ右ハ全然縣知事自身ノ考慮ニ基キタルモノニシテ決シテ當館ノ斡旋又ハ干渉ニ因リ行ハレタルモノニ非サレ旨ヲ篤ト申聞ケ置キタルカ同人ノ語ル處左ノ如シ

拘禁セラレテ六ヶ月間萬寶山問題ニ對シ自由ヲ失ヒタルコトヲ遺憾トス若夫レ本問題ニ對シ官憲力壓迫スルコト

無ク自分ヲシテ鮮人並ニ部落民ト可然交渉セシメタリトセンカ前後ノ經緯ト事情ハ必ス部民ヲシテ満足セシメ圓滿ナル結果ヲ求メ得タルニ官憲ハ壓迫ノミヲ知リテ善處スルコトヲ忘レタリ水路用池使用ノ諒解ハ官ノ反対ナキリ容易ナリ此際大イニ研究ノ上部落民トノ間ニ圓満ナル諒解ヲ遂クヘク日ヲ追ヒ努力ヲ惜マサルニツキ官憲ヘノ利害説明ニ關シ御盡力相煩シ度シ馬前知事ノ萬寶山水田許可書ハ同地區長留守宅ニ保管シアリ借出シ至難ナラス右借出シ方直チニ手配スヘシ云々

尙郝ノ釋放ニ關シテハ支那側ニ於テ相當注目シ居ルモノノ如ク現ニ九月二十四日ノ P. T. Times 第四面ニモ二十日附北平通信トシテ郝ノ釋放ニ付云爲セル記事アリ唯郝ノ釋放ハ昨今當地關係官憲即チ長春縣知事並ニ籌備處長ノ更迭ト相俟テ本問題ヲ以テ單純ナル地方的問題トシテ解決セントスルナラハ此際比較的容易トナリタルモノト存セラル右報告ス

本信寫送付先 在華公使 北平 奉天 吉林 哈爾賓  
朝鮮總督 關東長官

278 昭和 6 年 11 月 (8) 日 在吉林石射總領事より  
幣原外務大臣宛 (電報)

熙長官より鍾特派員を免職し謝介石を吉林交

涉署長に任命との通告について

吉林 発  
本省 11 月 8 日前着

往電第一六二號ニ關シ

七日附公文ヲ以テ熙長官ヨリ鍾特派員ヲ免職シ謝介石ヲ吉

林交渉署長ニ任命セル旨通告シ來レリ吉林新政府成立ノ由來ニ鑑ミ從來本官ハ治安問題ニ付テノミ新政府ト交渉關係ヲ保チ來レルカ地方的問題 (例へハ萬寶山問題、臨城問題民事事件等) トシテ解決シ得ヘキモノハ新政府成行如何ニ拘ラス此ノ際一應片付ケルタメ謝ノ任命ヲ正式ニ了承シ之ト一般交渉關係ニ入ル考ヘナル所若シ御異存アラハ至急御電報ヲ請フ

奉天ヨリ哈爾賓へ轉電アリタシ

第一六八號

279 昭和 6 年 11 月 13 日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛 (電報)

萬寶山問題で未解決は小作契約關係調整のみ  
との長春領事、吉林總領事宛電報

奉天 発  
本省 11 月 13 日後着

第二二七〇號 (暗)  
本官發長春吉林宛電報合第八九七號 (極秘)  
大臣發吉林宛電報第三六號ニ關シ

萬寶山問題ニ關シテハ (一) 地主對鮮農ノ契約關係ニ關スルモノト (二) 支那官警カ契約ノ自由ニ不當ノ干渉壓迫ヲ加ヘ遂ニハ支那暴民襲撃迄モ惹起シ所謂萬寶山事件トシテ日支官憲間ノ交渉問題トナリタルモノト二種ニ分チテ考察スルノ要アル處其内後者ノ問題ハ今次事變ノ發生ノ結果支那官憲ノ干渉壓迫存セサルニ至リシテ少クトモ差當リ自然消滅トナレリト言フヘシ從テ現在處理スヘキ問題トシテハ前者即チ地主對小作人ノ契約關係調整ノ一事アルノミナルヲ以テ右ニ付主トシテ在長春領事ニ於テ關係鮮農ヲ善導シ地主中未タ契約ヲ結ハサルモノニ付テハ此際之力手續ヲ了スルトカ

其他適當ノ方法ヲ以テ鮮農地主間ノ契約關係ヲ確定スルト  
共ニ之力實行ニ移ラシムルコト然ルヘク即チ本件ハ天津宛

大臣來電第五四號ニ所謂支那人側トノ取引ノ事實問題トシ  
テ解決シ得ヘキモノニシテ（來年度ノ耕作ヲ可能ナラシム  
ル爲ニモ少クトモ之丈ノ措置ハ必要ナルヘシ）交渉員等ヲ

相手トシテ今更鮮農移住及水溝掘鑿ニ對スル支那官憲ノ許  
可乃至ハ衝突事件ノ跡始末等ノ問題ヲ蒸返スノ要ナク前記

吉林宛大臣來電ノ趣旨モ此處ニ存スルモノト思考セラル卑  
見御参考迄

大臣、支、北平へ轉電シ在滿各領事へ暗送セリ

280 昭和6年11月26日

在吉林石射總領事より  
幣原外務大臣宛

万宝山問題に關し熙長官は県政府と田代領事

との間で解決せしめたき意向について

機密第七三八號

（12月2日接受）

昭和六年十一月二十六日

在吉林

總領事 石射 猪太郎

機密公領第一〇號  
昭和六年十一月二十六日

在長春

領事 田代 重徳殿

萬寶山問題ニ關スル件

本件ニ關シ過日熙長官ニ面會シ本件ハ今日<sup>(トカ)</sup>チナリテハ最早  
大シタ問題ニアラサルニ付鮮農ノ耕作ニ對シ省政府ニ於テ  
ハ別段異議ナカルヘシ就テハ現狀ノママニテ（水溝及堰止  
ニヨル耕作）鮮農及地主間ニ於テ適當解決セシムルコトト  
シ度シ只地主等ハ縣政府ヲ憚リ居ルヤモ知レサルニ付省政  
府ヨリ右差支ナキ旨長春縣長ニ申送ラレ度シト申入レタル  
ニ長官ハ鮮農ノ耕作ハ差支ナキモ省政府トシテハ地主等ノ

萬寶山問題ニ關スル件

可乃至ハ衝突事件ノ跡始末等ノ問題ヲ蒸返スノ要ナク前記

吉林宛大臣來電ノ趣旨モ此處ニ存スルモノト思考セラル卑  
見御参考迄

大臣、支、北平へ轉電シ在滿各領事へ暗送セリ

280 昭和6年11月26日

在吉林石射總領事より  
幣原外務大臣宛

万宝山問題に關し熙長官は県政府と田代領事

との間で解決せしめたき意向について

機密第七三八號

（12月2日接受）

昭和六年十一月二十六日

在吉林

總領事 石射 猪太郎

機密公領第一〇號  
昭和六年十一月二十六日

在長春

領事 田代 重徳殿

萬寶山問題ニ關スル件

本件ニ關シ過日熙長官ニ面會シ本件ハ今日<sup>(トカ)</sup>チナリテハ最早  
大シタ問題ニアラサルニ付鮮農ノ耕作ニ對シ省政府ニ於テ  
ハ別段異議ナカルヘシ就テハ現狀ノママニテ（水溝及堰止  
ニヨル耕作）鮮農及地主間ニ於テ適當解決セシムルコトト  
シ度シ只地主等ハ縣政府ヲ憚リ居ルヤモ知レサルニ付省政  
府ヨリ右差支ナキ旨長春縣長ニ申送ラレ度シト申入レタル  
ニ長官ハ鮮農ノ耕作ハ差支ナキモ省政府トシテハ地主等ノ

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿  
萬寶山問題ニ關スル件

本件ニ關スル田代長春領事宛十一月二十六日附機密公領第一〇號公信寫御参考迄ニ送附ス

相手トシテ今更鮮農移住及水溝掘鑿ニ對スル支那官憲ノ許  
可乃至ハ衝突事件ノ跡始末等ノ問題ヲ蒸返スノ要ナク前記

吉林宛大臣來電ノ趣旨モ此處ニ存スルモノト思考セラル卑  
見御参考迄

大臣、支、北平へ轉電シ在滿各領事へ暗送セリ

280 昭和6年11月26日

在吉林石射總領事より  
幣原外務大臣宛

万宝山問題に關し熙長官は県政府と田代領事

との間で解決せしめたき意向について

機密第七三八號

（12月2日接受）

昭和六年十一月二十六日

在吉林

總領事 石射 猪太郎

機密公領第一〇號  
昭和六年十一月二十六日

在長春

領事 田代 重徳殿

萬寶山問題ニ關スル件

本件ニ關シ過日熙長官ニ面會シ本件ハ今日<sup>(トカ)</sup>チナリテハ最早  
大シタ問題ニアラサルニ付鮮農ノ耕作ニ對シ省政府ニ於テ  
ハ別段異議ナカルヘシ就テハ現狀ノママニテ（水溝及堰止  
ニヨル耕作）鮮農及地主間ニ於テ適當解決セシムルコトト  
シ度シ只地主等ハ縣政府ヲ憚リ居ルヤモ知レサルニ付省政  
府ヨリ右差支ナキ旨長春縣長ニ申送ラレ度シト申入レタル  
ニ長官ハ鮮農ノ耕作ハ差支ナキモ省政府トシテハ地主等ノ

苦情ヲ調節シテヤリ度キ（例へハ掘割ニヨリ利用價値ヲ失  
フ地面ハ之ヲ迂廻シテ掘割ヲナストカ又ハ他ニ換地ヲ與フ  
ルトカ）ニ付矢張縣政府ヲシテ解決セシメ度ント云ヘリ依  
テ結局縣政府ト貴官トノ間ニ可然話合ヲスルコトニ取極メ  
其旨省政府ヨリ縣長ニ指令シ吳ルルコトトナリタルニ付右  
御含ニテ適當御取計アルコトト致度シ

本信寫送付先

外務大臣 奉天總領事

281 昭和6年12月16日 在長春田代領事より  
犬養（毅）外務大臣宛（電報）

長春縣知事が熙長官の訓令により万宝山問題

田満解決の下準備を開始したき意向について

付記一 昭和七年二月二十三日在長春田代領事より

芳沢（謙吉）外務大臣宛公信

万宝山問題その後の事情に関し報告

二 昭和八年四月十二日在新京栗原（正）總領

事より内田外務大臣宛公信

万宝山農業組合解散について

奉天、吉林へ轉電シ支、北平、哈爾賓、間島へ暗送セリ

